

R元年度後期児童教育学科シラバス目次

共通科目

科目名	担当者	ページ	科目名	担当者	ページ
環境と科学	稲福(純)	1,2	外国語コミュニケーション	高良	19,20
キャリアサポート	稲福(純)	3,4	外国語コミュニケーション	山城	21,22
異文化理解	又吉	5,6	情報機器操作	新川	23,24
海外研修事前学習	又吉	7,8	情報機器操作	加治工 他	25,26
英語Ⅱ	宮城	9,10	健康と運動の科学	喜屋武	27,28
英語Ⅱ	大城(浩)	11,12	(初等)健康・運動実技	喜屋武	29,30
英語Ⅱ	又吉	13,14	デジタルアーカイブ	加治工	31,32
人間と歴史	波平	15,16	日本国憲法	山内	33,34
中国語Ⅱ	水間	17,18			

専門科目

科目名	担当者	ページ	科目名	担当者	ページ
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	長若 他	35,36	子どもと音楽表現Ⅱ	大宜見 他	83,84
児童文化財	平田(千) 他	37,38	子どもと造形表現Ⅱ	玉城	85,86
外国語活動指導法	又吉	39,40	子どもと体育表現Ⅱ	石垣	87,88
子どもの健康と安全	大城(弘) 他	41,42	保育相談支援	上原(健)	89,90
子どもの食と栄養	中本 他	43,44	保育原理	名渡山	91,92
生徒指導	桃原	45,46	保育内容 健康	石垣	93,94
幼児理解	柳生	47	保育内容 人間関係	柳生	95
社会的養護内容	島袋(朝)	48,49	保育内容 環境	村吉	96,97
社会的養護内容	宮本	50,51	保育内容 表現	小波津	98,99
教材研究 図工	玉城	52,53	保育内容 言葉	廣瀬 他	100,101
乳児保育Ⅱ	大石 他	54,55	保育者論	平田(美)※実	102
(初等)障がい児保育Ⅱ	羽地 他	56,57	保育・教職実践演習	桃原 他	103,104
(幼保)障がい児保育Ⅱ	羽地 他	58,59	保育・教職実践演習	小波津 他	105,106
家庭支援論	島袋(裕)	60,61	ゼミナール	稲福(純)	107,108
家庭支援論	垣花	62,63	ゼミナール	桃原	109,110
(初等)教育方法論	新垣(さ)	64	ゼミナール	上原(健)	111,112
(幼保)教育方法論	新垣(さ)	65	ゼミナール	又吉	113
教育制度論	上原(勝)※実	66,67	ゼミナール	新垣(さ)	114
教育相談概論	岡花 他	68,69	ゼミナール	柳生	115
教育課程総論	上原(勝)	70,71	ゼミナール	羽地	116,117
教育課程総論	村吉※実	72,73	ゼミナール	小波津	118,119
教科専門 算数	浅井	74,75	ゼミナール	喜屋武	120,121
教科専門 国語	桃原	76,77	子育て支援	砂川	122,123
教科専門 生活	新垣(さ)	78	ゼミナール	玉城	124,125
教科専門 体育	仲西 他	79,80			
道徳教育の指導法	桃原	81,82			

科目区分	共通	科目名	環境と科学	担当者	稲福純夫	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング	資格・免許要件		保育士選択				
授業の到達目標	私たちの生活の中の衣・食・住の環境について、学び、日常生活の中で活用、実践できる。								
授業概要	日本は循環型社会や知識基盤型社会を目指している。私たち人間の活動により、環境は大きく変化しており、経済活動や社会環境の変化が私たちのくらしの安全やくらしを大きく左右する。「安全で豊かなくらし」の視点から自然環境と人間生活について学ぶ。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	○ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画			時間外学習			時間		
1回	環境とは 環境と人間活動 人類と文化 エネルギー利用 トリレンマ			事前:環境と人間活動について 事後:環境と人間活動について			2		
2回	人間の知恵について 環境と資源 火の発見 文字の発明 印刷術の発明による文化の発展			事前:人間に知恵 文字について 事後:人間に知恵 文字について			2		
3回	文字・文化の重要性 人類の歴史から見た人間活動 有限な資源の有効利用			事前:文化と地域の特性について 事後:文化と地域の特性について			2		
4回	自然災害とその克服 科学の発達の恩恵と問題点 医療 科学技術 遺伝子組み換え 放射線			事前:自然災害とその克服 事後:自然災害とその克服			2		
5回	人にやさしいライフスタイルとは エネルギーの有効利用 循環型社会の構築			事前:人にやさしいライフスタイル・社会の構築 事後:人にやさしいライフスタイル・社会の構築			2		
6回	日常生活から見た環境問題 くらしへの影響			事前:くらしと環境 事後:くらしと環境			2		
7回	グローバルな視点とローカルな視点 環境問題と生活への影響 温暖化 酸性雨 オゾン層破壊 砂漠化			事前:グローバルな視点・ローカルな視点 事後:グローバルな視点・ローカルな視点			2		
8回	子どもの環境の変化と保育におけるビオトープ 子ども達の身の回りの環境と安全			事前:保育ビオトープについて 事後:保育ビオトープについて			2		
9回	子ども達の安全を守る環境 環境基本法 環境基本計画 4つの柱			事前:地域における子どもの安全について 事後:地域における子どもの安全について			2		
10回	こどもと環境とのかかわり 食品の安全性 遊具の安全 トレーサビリティ			事前:こどものよりよい環境づくり 事後:こどものよりよい環境づくり			2		
11回	子どもの周りのごみ事情 使い捨て日用品 プラスチック製品 木製遊具の廃棄			事前:子どもの遊具について 事後:子どもの遊具について			2		
12回	社会と子ども 少子高齢化社会と子どもの環境 人生100年社会になるのか そのとき子どもたちの環境は			事前:子どもと高齢者の環境について 事後:子どもと高齢者の環境について			2		
13回	人間活動と伝染病の流行 伝染病と子どもの健康			事前:子どもの健康と環境 事後:子どもの健康と環境			2		

14回	子どもの感性を伸ばす環境とは A I じだいの子どもの環境と生活について	事前:子どもの感性を伸ばす環境について 事後:子どもの感性を伸ばす環境について	2
15回	子どもと学習環境 幼児期から学童期までに育てたい環境適応能力 騒音レベルと身体への影響	事前:子どものくらしの環境 事後:子どものくらしの環境	2
16回	定期試験	事前: 事後:	
テキスト	講義プリント 適宜紹介		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 子ども白書 環境白書		
授業の評価 方法・基準	試験・レポート・授業時の演習課題・定期試験により総合的に評価します。 試験 30% 演習課題 40% レポート 30%		
履修条件	身近な生活の中の環境に興味・関心がある人、これからの環境の変化や人間活動に関心のある人		
関連科目・次のス テージ	社会の環境の変化や私たちを取り巻く、生活環境、教育・保育環境のありかたについて、私たちの生活について学んだ知識を生かし実践力のある保育者や教員を目指す基礎学力を身につけ活用することができる。		
オフィスアワー	月曜の4・5校時授業前後 14時40分～18時		
受講生へのメッセ ージ	演習問題提出や環境についてのレポートの作成・提出があるので、講義時の配布プリントをファイルに綴じておくと、後で学習をするとき便利です。		

科目区分	共通	科目名	キャリアサポート	担当者	稲福純夫	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士選択			
授業の到達目標	1 保育・幼稚園現場への就職について、大学での学びをその後にキャリア形成に役立てることができる。 2 就職や進学についてのこれまでの学びや生涯学習の観点でスキルアップできる取り組みができる。								
授業概要	短大で保育・教育について学んだことを保育・教育の現場で実践することができる人材が求められる。保育現場での雇用条件や将来の生活設計について学ぶとともに、地域の中で自分に合った就職先・進路の選択について自己決定できる力を身につける。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input checked="" type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画		時間外学習		時間		
1回	就職・進学について就職分野の名称・所在地、施設見学について			事前:就職分野の環境について調べる 事後:調べた内容を整理しファイルする		2時間			
2回	就職活動 就職先希望職種の仕事内容について			事前:地域の就職希望法人について調べる 事後:調べた法人についてまとめる。		2時間			
3回	履歴書の書き方 エントリーシートについて 面接・接遇マナーについて 挨拶内定の通知、承諾書の提出日を書きなさい。園(施設)見学の電話について			事前:希望職種について調べる 事後:知られた職種と自分の適性について考える		2時間			
4回	面接・接遇マナーについて			事前:保育園・幼稚園について調べる 事後:知れた内容についてファイルする。		2時間			
5回	就職・進学その先を見据えて個別面談 面接指導① 就職希望先について			事前:就職記号先の環境チェック 事後:条件に応じた職務内容か		2時間			
6回	就職・進学その先を見据えて個別面談 面接指導② 何件の面接を受けるか あなたにあった進路選択			事前:就職・進学についての希望を書く 事後:面接でアピールすること		2時間			
7回	就職・進学その先を見据えて個別面談 面接指導③ 電話でのアポの取り方や面接日程の確認等について			事前:業務内容について調べる 事後:電話の内容や事前見学の日程の確認をしておく		2時間			
8回	就職・進学その先を見据えて個別面談 面接指導④ 履歴書と自分の魅力 自己アピールの工夫			事前:自己アピール文を書く 事後:改善点について考える		2時間			
9回	就職・進学その先を見据えて個別面談 面接指導⑤ 園見学したときの内容のプレゼンについて			事前:子どもと関わることの意味を考える 事後:子ども遊びの工夫		2時間			
10回	就職・進学その先を見据えて個別面談 面接指導⑥			事前:就職先の保育環境について調べる 事後:保育活動について考える		2時間			
11回	挨拶 内定の通知について、承諾書の提出日について⑦ 内定から採用までの過ごし方・キャリアアップについて			事前:季節の保育に展開できる遊びの研究 事後:環境に応じた活動の工夫		2時間			
12回	就職決定先について考える。 就職先名称法人名・所在地(県内 市町村・ 都県名) 就職活動で見えてきたこと学んだこと			事前:就職条件について調べる 事後:就職内定や承諾書を書いたらコピーを取り報告する。		2時間			
13回	内定先との連絡や採用までに準備すべき書類について 健康診断 住民票等			事前:内定先について調べる 事後:就職採用までの日程について考える。		2時間			
14回	あなたが目指す保育者像・教師像について、キャリアアップの方法について			事前:保育士職の待遇について 事後:自分のキャリアアップを図る		2時間			
15回	これからキャリアをどう生かすか			事前:10年後の将来計画を考える。 事後:クラス内でキャリアについて情報交換		2時間			

16回	キャリアサポート試験	事前: 事後:	2時間
テキスト	保育・教育系短大における就職 (女子短期大学)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 各自治体の広報物		
授業の評価 方法・基準	演習・施設見学活動 + 課題レポート+ 活動記録+ 試験 30点 + 20点 + 20点 + 30点 評価の観点:沖縄の季節に応じた主体的な保育活動と子どもの安全面を配慮した活動ができる コマ回しの技能の中間修得		
履修条件	保育者を目指し主体的に自然や季節の変化について学ぶ意欲を持ち続け、一年を通じてゼミの活動に参加できること		
関連科目・次のステージ	保育現場で活かせる基礎力を身につけ、さらに卒業後は保育者として学び続ける持続力、時代や社会の変化に対応できる力、知識を修得する。		
オフィスアワー	ゼミの前後の時間や作成したゼミの連絡網を通じて個々の活動をサポート。研究室前の伝言板に質問・連絡内容を記入して下さい		
受講生へのメッセージ	登録時にゼミ長、連絡係と季節ごとの活動の担当者と連絡網を決めます。		

科目区分	共通	科目名	異文化理解	担当者	又吉 斎	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選必	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格(選必)				
授業の到達目標	諸外国の文化や社会事情について多面的な視点から捉えることができ、かつ自国文化と比較考察しながら、文化の多様性と共生の在り方について論理的に考える思考力が身につけている。また、国際社会の平和に貢献しようとする意欲を備え、異文化コミュニケーション能力の基礎的な知識・技能を習得している。								
授業概要	諸外国の文化と自国文化について、様々なテーマで比較考察しながら、関連する諸問題についてグループ討論を行う。毎回、様々な異文化をテーマとしたクイズを通して、文化の多様性の理解を深める。ペアワーク又はグループワークとして、諸外国の文化について調査し、ICTを活用してプレゼンテーションを行う。また、岐阜女子大学と連携しながら、グループディスカッション、ディベートを行い、思考力や表現力、コミュニケーション能力等を磨く。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input checked="" type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画			時間外学習		時間	
1回			異文化理解とはなにか：講義テーマ・到達目標の解説			事後：文化の定義について調べ、整理する。		(2h)	
2回			Group Work ① ディベート型討論「児童英語教育の是非」			事前：当該テーマについてリサーチする。 事後：当該テーマについて概要を整理する。		(2h) (2h)	
3回			国際語としての英語の役割と世界の主要言語について			事前：関連テーマについて考えをまとめる。 事後：他者の意見と比較し、まとめる。		(2h) (2h)	
4回			ことばと文化 ① 英語のなかの借用語（英語になった外来語）			事前：具体的な事例を5つ考える。 事後：他者の意見と比較し、まとめる。		(2h) (2h)	
5回			ことばと文化 ② 日本語と英語の比較考察（ことわざ・慣用表現）			事前：日英両方のことわざを3つ挙げる。 事後：日英両方のことわざの違いを考える。		(2h) (2h)	
6回			クイズで考える異文化理解			事前：関連項目に目を通して概要をつかむ。 事後：クイズで間違えた問題を整理する。		(2h) (2h)	
7回			Group Work ② 自由型討論「新しい祝日の制定」			事前：当該テーマについて情報を収集する。 事後：グループの意見の概要をまとめる。		(2h) (2h)	
8回			メディア文化論 ① ヴァイラルコマーシャルの手法（Humor）			事前：各観点のポイントについてまとめる。 事後：他者との考えを比較し、整理する。		(2h) (2h)	
9回			メディア文化論 ② ヴァイラルコマーシャルの手法（Emotion）			事前：各観点のポイントについてまとめる。 事後：他者との考えを比較し、整理する。		(2h) (2h)	
10回			Group Work ③ 課題解決型討論「持続可能な開発目標＝SDGs」			事前：SDGsの概要を調べる。 事後：具体的な取り組みを調べる。		(2h) (2h)	
11回			メディア文化論 ③ 世界のアニメーション文化			事前：当該テーマについて情報を収集する。 事後：当該テーマの概要をまとめる。		(2h) (2h)	
12回			Group Work ④ 選択型討論 ※ テーマ検討中			事前：当該テーマについて情報を収集する。 事後：当該テーマの概要をまとめる。		(2h) (2h)	
13回			Group Work ⑤ プレゼンテーション（リサーチ）			事前：当該テーマについて情報を収集する。 事後：当該テーマの概要をまとめる。		(1h) (1h)	
14回			Group Work ⑥ プレゼンテーション（資料作成）			事前：プレゼン資料の素案を作成する。 事後：発表資料を振り返り、加筆修正する。		(2h) (2h)	
15回			Group Work ⑦ プレゼンテーション（発表）			事前：プレゼンに備え、口頭練習する。 事後：発表資料を振り返り、加筆修正する。		(1h) (1h)	

16回	学期末テスト	事前：学期末テストに向けて復習する。 事後：学期末テストの結果を振り返る。	(3h) (3h)
テキスト	指定図書なし ※ 適宜、参考資料を紹介する。また、本学及び岐阜女子大学の e-learning 教材を適宜、紹介・利用する		
参考資料など	講義内で参考文献リストを紹介する予定。		
授業の評価方法・基準	①期末テスト 50% ②グループワーク 40% ③意欲態度 10% で総合的に評価する ※ テスト・グループワークについては全体的な傾向・課題について口頭で解説し、返却いたします。		
履修条件	受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠り等）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと		
関連科目・次のステージ	関連科目「外国語コミュニケーション」ほか、「海外研修事前学習」同様、教養的な科目です。保育者・教育者としての教養を身につけるだけでなく、グループワークを通じた協働力やコミュニケーション能力を磨く授業です。		
オフィスアワー	火曜日 3 講目以降（13：00～17：50）		
受講生へのメッセージ	普段から国内外のニュースや書籍に目を向けましょう。また、授業に関する相談や要望等があれば遠慮なく声をかけて下さい。 連絡先：matayoshi-i@owjc.ac.jp		

科目区分	共通	科目名	海外研修事前学習	担当者	又吉 素	授業形態	講義	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格の選択必修科目				
授業の到達目標	海外研修で必要とされる実用的な基礎英語コミュニケーション能力を身につけており、またハワイの文化に関する知識を有している。と同時に ICT を活用した効果的なプレゼンテーション能力を発揮し、積極的に他者とコミュニケーションを取りながら相互理解を図ることができる。								
授業概要	ハワイの歴史、社会、観光、教育制度、文化等について、アクティブラーニングの手法を用いて協働して学習し、その学習成果をプレゼンテーション(グループ発表)することで、社会人として必要とされる主体性や他者との協働における協調性、及びコミュニケーション能力を身につける。また自分自身や自国文化について英語で伝えるためのプレゼンテーション能力(英語力・ICT スキル)を磨くため、岐阜女子大学が作成した e-learning 教材を用いて、英会話レッスンのほか、映像コンテンツの作成といったプロジェクトに取り組む。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目									
授業計画			時間外学習				時間		
1回	海外研修の概要説明・講義オリエンテーション				事後：海外研修の内容・注意点を整理する。			(2h)	
2回	ハワイの歴史・社会・観光・教育・文化について ① [調査：グループワーク]				事前：当該テーマについてリサーチする。			(2h)	
					事後：当該テーマについて概要を整理する。			(2h)	
3回	ハワイの歴史・社会・観光・教育・文化について ② [整理：グループワーク]				事前：関連テーマについて考えをまとめる。			(2h)	
					事後：他者の意見と比較し、まとめる。			(2h)	
4回	ハワイの歴史・社会・観光・教育・文化について ③ [発表：グループワーク]				事前：当該テーマについてリサーチする。			(2h)	
					事後：当該テーマについて概要を整理する。			(2h)	
5回	英会話レッスン ① [自己紹介・あいさつ] ペアレッスン				事前：自己紹介に向けて内容を整理する。			(2h)	
					事後：基本表現やあいさつ表現を復習する。			(2h)	
6回	英会話レッスン ② [入国審査・ホテル会話] ペアレッスン				事前：入国審査に関する情報を確認する。			(2h)	
					事後：ホテルでの会話表現を復習する。			(2h)	
7回	英会話レッスン ③ [レストランでの会話] ペアレッスン				事前：レストランでの基本表現を予習する。			(2h)	
					事後：基本表現・基本単語を復習する。			(2h)	
8回	英会話レッスン ④ [ショッピングの会話] ペアレッスン				事前：ショッピングの基本表現を予習する。			(2h)	
					事後：既習語彙・表現を復習する。			(2h)	
9回	プロジェクト：映像資料作成 ① [計画] グループワーク				事前：沖縄観光に関する情報を収集する。			(2h)	
					事後：上述テーマの情報を整理する。			(2h)	
10回	プロジェクト：映像資料作成 ② [撮影] グループワーク				事前：映像編集アプリの使い方を確認する。			(2h)	
					事後：映像作成に必要な資料の収集を行う。			(2h)	
11回	プロジェクト：映像資料作成 ① [編集] グループワーク				事前：収集した資料を整理する。			(2h)	
					事後：データの加工・編集を行う。			(2h)	
12回	プレゼンテーション ① [実践発表 1] 第 1 グループ発表				事前：発表に向けて内容確認・練習を行う。			(2h)	
					事後：他グループの発表内容を整理する。			(2h)	
13回	プレゼンテーション ② [実践発表 2] 第 2 グループ発表				事前：発表に向けて内容確認・練習を行う。			(2h)	
					事後：他グループの発表内容を整理する。			(2h)	
14回	プレゼンテーション ③ [実践発表 3] 第 3 グループ発表				事前：発表に向けて内容確認・練習を行う。			(2h)	
					事後：他グループの発表内容を整理する。			(2h)	
15回	海外研修における手続き (ESTA=電子渡航証明書)				事前：ESTA についてネットで調査する。			(2h)	
					事後：ESTA 申請内容を確認する。			(2h)	

16 回	海外研修における諸注意（出発前オリエンテーション）	事後：海外研修の注意事項を振り返る。	(2h)
テキスト	指定図書なし ※ 本学及び岐阜女子大学の e-learning 教材を適宜、紹介・利用する		
参考資料など	「これならわかるハワイの歴史 Q&A」石出みどり（著）〔大月書店：2005〕¥1,512		
授業の評価	①ポートフォリオ 70% ②発表・態度 30% で評価する		
方法・基準	※ ポートフォリオについては定期的にチェックをし、評価については全体的な傾向・課題について解説し、返却いたします。		
履修条件	受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠り等）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと。		
関連科目・次のステップ	関連科目「海外研修」の受講要件として必修の科目となります。海外研修（ハワイ研修）参加希望者は必ず受講してください。 その他の関連科目：「英語 I・II」、「外国語コミュニケーション」、「異文化理解」等		
オフィスアワー	金曜日 3 講目以降（13：00～17：50）		
受講生へのメッセージ	普段から英語に触れる習慣を身に付けるために、本学や岐阜女子大学の作成した e-learning 教材を積極的に活用しましょう。		
ー	連絡先：matayoshi-i@owjc.ac.jp		

科目区分	共通	科目名	英語 II	担当者	宮城 慧	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選必	ナンバリング		資格・免許要件		保育士選必			
授業の到達目標	英語 I に引き続き、英語の4技能（聴いて理解する力、話して伝える力、読んで理解する力、書いて表現する力）を更に高めていくこと到達目標とし、学期を通じてエクササイズに取り組み、特にオーディオリンクル技能に関しては、英語をコミュニケーションツールとして、気楽な気持ちで接する態度を養う。								
授業概要	教科書の各章ごとのストーリーを精読してリーディング、アンダスタンディングの力を高め、さらにライティングの練習も継続していく。ストーリーに続く数多くの演習問題に取り組み、リスニングやスピーキングなど実践を通じて英語を楽しみながら学ぶ。タイムリーなニュース情報、季節の行事、歌、そして映画で映像を通して英語圏の生活なども理解していくよう授業を進めていきたい。小学校での外国語教育を念頭に、教師自身の英語運用能力向上を高めていくことを考えながら学習する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input checked="" type="radio"/> 1 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input type="radio"/> 2 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input checked="" type="radio"/> 3 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input checked="" type="radio"/> 4 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習		時間		
1回	登録確認、講義内容、教科書説明、英作文	事前：夏休みの経験を英語でイメージ作成 事後：教科書の速読と英作文の復習		2H			2H		
2回	Lesson 9 They Drop Bombs, Not Food (Reading)	事前：L9 本文の速読、単語学習等 事後：L9 本文を精読しストーリーを理解		2H			2H		
3回	Lesson 9 They Drop Bombs, Not Food (Exercise)	事前：L9 Ex 単語学習と設問理解 事後：L9 Ex 各設問と答えの理解		2H			2H		
4回	Lesson 9 They Drop Bombs, Not Food (Exercise) Halloween の話	事前：L9 Ex 単語学習と設問理解 事後：L9 Ex 各設問と答えの理解		2H			2H		
5回	Lesson 10 Heirs to a Lunch (Reading)	事前：L10 本文の速読、単語学習等 事後：L10 本文を精読しストーリーを理解		2H			2H		
6回	Lesson 10 Heirs to a Lunch (Exercise)	事前：L10 Ex 単語学習と設問理解 事後：L10 Ex 各設問と答えの理解		2H			2H		
7回	Lesson 10 Heirs to a Lunch (Exercise) Thanksgiving の話	事前：L10 Ex 単語学習と設問理解 事後：L10 Ex 各設問と答えの理解		2H			2H		
8回	映画鑑賞	事前：ディクテーション訓練 事後：鑑賞中に学んだ表現のまとめ		2H			2H		
9回	映画鑑賞（続き）	事前：ディクテーション訓練 事後：鑑賞中に学んだ表現のまとめと感想		2H			2H		
10回	Lesson 11 Not Swimming: Drowning (Reading)	事前：L11 本文の速読、単語学習等 事後：L11 本文を精読しストーリーを理解		2H			2H		
11回	Lesson 11 Not Swimming: Drowning (Exercise)	事前：L11 Ex 単語学習と設問理解 事後：L11 Ex 各設問と答えの理解		2H			2H		
12回	Lesson 11 Not Swimming: Drowning (Exercise) Christmas の話	事前：L11 Ex 単語学習と設問理解 事後：L11 Ex 各設問と答えの理解		2H			2H		
13回	Lesson 12 Terrible Food (Reading) 英作文	事前：L12 本文の速読、単語学習及び冬休みの経験を英語でイメージ作成 事後：L12 本文を精読しストーリーを理解及び英作文の復習		2H			2H		
14回	Lesson 12 Terrible Food (Exercise)	事前：L12 Ex 単語学習と設問理解 事後：L12 Ex 各設問と答えの理解		2H			2H		
15回	Lesson 12 Terrible Food (Exercise)	事前：L12 Ex 単語学習と設問理解 事後：L12 Ex 各設問と答えの理解		2H			2H		
16回	期末試験								

テキスト	楽しく学ぶ総合英語 "AMUSING TALES" : L. A. HILL ・安藤賢一、発行所：成美堂
参考資料など	【購入を必須としないもの】 講義で適宜紹介していくが絵本、新聞雑誌、インターネット記事などのニュース情報も随時取り上げたい。
授業の評価方法・基準	評価は授業への参加度、つまり、ただ出席するだけではなく能動的な授業への参加度が 30%、学期を通しての課題レポートが 15%、随時のクイズが 15%、期末試験が 40%で総合評価する。
履修条件	特になし
関連科目・次のステップ	「外国語コミュニケーション」、「異文化理解」など。日常生活では常に卒業要件を意識しながら、授業や予習復習で学んだことを実践していく。
オフィスアワー	授業前後は学科準備室にいますが、時間を要する場合はメールで調整：E-mail; k05a10miyagi@yahoo.co.jp
受講生へのメッセージ	静かに受動的に授業に出席するだけではなく、能動的な授業参加を心がけて受講してほしい。課題への取り組みも学期初めから始め、読む人の立場になってまとめ方に注意し提出期限を厳守することを望む。

科目区分	共通	科目名	英語I	担当者	大城 浩	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件				
授業の到達目標	① 保育士や幼稚園教諭に必要な英語の基本表現・専門用語を身に付ける ② 多様な考え方を学びながら自己表現力とコミュニケーションスキル（話す、聞く、書く、読む、調べる等）を身に付ける								
授業概要	① 多様な題材（保育の英会話、5行エッセイ、NHK映像、音読、演説等）から自分の考えを伝える自己表現力を育む基礎を学ぶ ② ペア・グループ活動を通し問題解決能力や主体的なコミュニケーション能力を育む基礎を学ぶ ③ 歌や映像などを通して英語を楽しむとともに4技能（reading, writing, speaking, listening）の基礎を育む								
ディプロマホルダー(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける(状況把握力)								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける(課題発見・解決能力、状況把握力)								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける(コミュニケーション能力、課題発見・解決能力)								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける(コミュニケーション能力)								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画			時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション（評価の方法、英語Iの進め方）			事前:授業の進め方・配布資料の説明・確認 事後:ペア・グループ活動(自己紹介発表)		1H 30m			
2回	保育の英会話①（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:入園/登園/降園の会話 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
3回	5行エッセイ①（ライティング&スピーキング）			事前:自分が好きなもの① 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
4回	音読①（リーディング&スピーキング）			事前:ハンバーガーショップで 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
5回	NHK テレビ①（映像）（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:大人の基礎英語(香港編)① 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
6回	演説①（映像）（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:マララ国連演説 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
7回	保育の英会話②（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:子供遊び・園庭の遊具 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
8回	5行エッセイ②（ライティング&スピーキング）			事前:自分の興味・関心① 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
9回	音読②（リーディング&スピーキング）			事前:Halloween 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
10回	NHK テレビ②（映像）（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:大人の基礎英語(香港編)② 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
11回	演説②（映像）（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:マーチン・ルーサーキング牧師演説 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
12回	保育の英会話③（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:保育園の周辺マップ 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
13回	5行エッセイ③（ライティング&スピーキング）			事前:自分の意見・主張① 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
14回	音読③（リーディング&スピーキング）			事前:A dream comes true 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
15回	NHK テレビ③（映像）（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:大人の基礎英語(香港編)③ 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			
16回	演説③（映像）（リーディング&ライティング&スピーキング）			事前:ケネディ大統領就任演説 事後:ペア・グループ活動		1H 30m			

17回	保育の英会話④ (リーディング&ライティング&スピーキング)	事前:電話の対応の会話 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
18回	5行エッセイ④ (ライティング&スピーキング)	事前:自分が好きなもの② 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
19回	音読④ (リーディング&スピーキング)	事前:John Manjiro 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
20回	NHK テレビ④ (映像) (リーディング&ライティング&スピーキング)	事前:大人の基礎英語(シンガポール編)① 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
21回	英語の歌① (リーディング&スピーキング)	事前:We are the world 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
22回	保育の英会話④ (リーディング&ライティング&スピーキング)	事前:天候・感情・状態を表わす単語 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
23回	5行エッセイ⑤ (ライティング&スピーキング)	事前:自分の興味・関心② 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
24回	音読⑤ (リーディング&スピーキング)	事前:Gesture talk 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
25回	NHK テレビ⑤ (映像) (リーディング&ライティング&スピーキング)	事前:大人の基礎英語(シンガポール編)② 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
26回	英語の歌② (リーディング&スピーキング)	事前:You raise me up 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
27回	保育の英会話⑤ (リーディング&ライティング&スピーキング)	事前:卒園式の会話 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
28回	5行エッセイ⑤ (ライティング&スピーキング)	事前:自分の意見・主張② 事後:ペア・グループ活動	1H 30m
29回	レポート「My anthology of self-expression」発表会 (プレゼンテーション)	事前:レポート評価/プレゼン評価 事後:レポート評価/プレゼン評価	45m 45m
30回	期末テスト	事前:筆記テスト 事後:スピーチ暗唱テスト	45m 45m
31回	総括	事前:評価 事後:振り返り(アンケート)	45m 45m
テキスト	① 指定図書なし ② 講義で資料を配布する		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 ① 保育の英会話(赤松直子、久宮陽子著、萌文書林)②ハーバード式英語学習法(青野仲達著、秀和システム) ③音読入門編(国弘正雄著、講談社)④大人の基礎英語(松本茂監修、主婦の友社)		
授業の評価方法・基準	① 筆記テスト(50%)②スピーチ暗唱テスト(25%)③レポート(My anthology of self-expression)提出(25%)		
履修条件	① Everyone should “listen, speak, read, write and move.” ②Don’ t be afraid of making mistakes. ③Say “Thank you” when your friends do something for you. ④受講マナー(無届欠席、私語、居眠り、携帯電話等)厳守		
関連科目・次のステージ	① 語学は実践練習が不可欠です。授業中は可能な限り4技能(話す、聞く、書く、読む)をフル活用すること ② 授業以外でも自分に合った練習を心がけること		
オフィスアワー	水曜日と木曜日の講義終了後の1時間程度		
受講生へのメッセージ	保育園や幼稚園でも外国人が入園する時代です。国際性豊かな人材としての7つの視点(授業で説明)を身に付けながら、自分の考えを伝えるコミュニケーションスキルを共に創りましょう		

科目区分	共通	科目名	英語II	担当者	又吉 高	授業形態	演習	単位数	2	
卒業要件	選必	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格の選択必修科目				
授業の到達目標	小学校英語で必要とされる実用的な基礎英語コミュニケーション能力を身につけており、小学校英語に関する基礎的な英語指導法を理解している。また、ICTを活用した効果的な英語学習教材を作成し、発達段階に沿った実践授業を展開することができる。									
授業概要	小学校英語で必要とされる語彙・会話表現・異文化を学習し、グローバルに活躍できる教員として必要な専門的コミュニケーション能力を身につける。また、本学及び岐阜女子大学が作成したe-learning教材等を用いて、デジタル英語絵本や英語チャンツといったマルチメディアの英語学習教材を作成するPBL型プロジェクト(アクティブラーニング)に取り組む。									
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
		◎=DP達成の為に特に重要な項目 ○=DP達成の為に重要な項目 △=DP達成の為に望ましい項目								
			授業計画	時間外学習			時間			
1回	日本の幼児英語教育のこれから			事後：テーマについて関連記事を調べる。			(2h)			
2回	英語の手遊び：Cootie Catcherを作って遊ぼう！			事前：テーマについてリサーチする。 事後：作品を用いた指導案を作成する。			(2h) (2h)			
3回	アルファベットとフォニックス（音声）の指導法			事前：フォニックスの基本について調べる。 事後：フォニックスを聞いて発音練習する。			(2h) (2h)			
4回	英語の発音指導と様々なチャンツ（歌・リズム）			事前：チャンツとは何かについて調べる。 事後：チャンツを聞いて発音を練習する。			(2h) (2h)			
5回	児童のための英語 ①：世界の国々について発表しよう！			事前：行きたい外国について調べる。 事後：既習語彙・表現を復習する。			(2h) (2h)			
6回	児童のための英語 ②：子どもの遊び			事前：海外の子どもの遊びを調べる。 事後：既習語彙・表現を復習する。			(2h) (2h)			
7回	児童のための英語 ③：英語で絵日記を書いてみよう！			事前：英語で絵日記を書く。 事後：必要な語彙・表現を調べる。			(2h) (2h)			
8回	児童のための英語 ④：英語で絵日記を発表しよう！			事前：英語絵日記の発表練習をする。 事後：既習語彙・表現を復習する。			(2h) (2h)			
9回	児童のための英語 ⑤：英語絵本の読み聞かせ			事前：英語絵本を1冊選び音読する。 事後：英語絵本の読み聞かせを練習する。			(2h) (2h)			
10回	プロジェクト：映像資料作成 ①〔撮影〕グループワーク			事前：映像編集アプリの使い方を確認する。 事後：映像作成に必要な資料の収集を行う。			(2h) (2h)			
11回	プロジェクト：映像資料作成 ②〔編集〕グループワーク			事前：収集した資料を整理する。 事後：データの加工・編集を行う。			(2h) (2h)			
12回	プレゼンテーション ①〔実践発表1〕第1グループ発表			事前：発表に向けて内容確認・練習を行う。 事後：他グループの発表内容を整理する。			(2h) (2h)			
13回	プレゼンテーション ②〔実践発表2〕第2グループ発表			事前：発表に向けて内容確認・練習を行う。 事後：他グループの発表内容を整理する。			(2h) (2h)			
14回	プレゼンテーション ③〔実践発表3〕第3グループ発表			事前：発表に向けて内容確認・練習を行う。 事後：他グループの発表内容を整理する。			(2h) (2h)			
15回	学期末テスト			事前：学期末テストに向けて復習する。			(3h)			
16回	テスト返却（解答・解説）、フィードバックとまとめ			事後：学期末テストの結果を振り返る。			(3h)			

テキスト	指定図書なし ※ 本学及び岐阜女子大学の e-learning 教材を適宜、紹介・利用する
参考資料など	英語絵本や英語学習用テキスト等、適宜授業で紹介します。
授業の評価	①テスト 50% ②課題 40% ③発表・態度 10% で評価する
方法・基準	※ テスト・レポート課題等については全体的な傾向・課題について解説し、返却いたします。
履修条件	受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠り等）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと
関連科目・次のステージ	「外国語コミュニケーション」同様、基礎的な英語の科目です。前期科目「英語 I」の履修が前提です。必要に応じて、英検や TOEIC などの資格試験に向けた自主学習や英会話の学習に積極的に取り組みましょう。
オフィスアワー	金曜日 3 講目以降（13：00～17：50）
受講生へのメッセージ	普段から英語に触れる習慣を身に付けるために、本学や岐阜女子大学の作成した e-learning 教材を積極的に活用しましょう。 連絡先：matayoshi-i@owjc.ac.jp

科目区分	共通	科目名	人間と歴史	担当者	波平エリ子	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件					
授業の到達目標	沖縄の特異な歴史について日本や世界の情勢を鑑みながら、広い視野で捉えることを学ぶ。日本や沖縄の先人たちの生きざまについて基本的な知識を習得し、その上でそれらと関連させて自己の人生観や価値観について主体的に考えることができる。								
授業概要	本講義は、日本史や世界史で学んだ知識の上に、琉球・沖縄の歴史を周辺諸国との関係性に触れながら独自の歴史を形成した先人の足跡をわかりやすく解説する								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/>	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける(状況把握力)							
	<input checked="" type="radio"/>	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける(課題発見・解決能力、状況把握力)							
	<input checked="" type="radio"/>	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける(コミュニケーション能力、課題発見・解決能力)							
	<input checked="" type="radio"/>	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける(コミュニケーション能力)							
		◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目							
		授業計画	時間外学習	時間					
1回	イントロダクション 歴史学とは	事後：配布資料の読み返し	1H						
2回	家・地域・国の連続性を考える(グループワーク)	事前：配布資料の読み返し 事後：家族史のまとめ	2H 3H						
3回	グスク、大交易時代の琉球	事前：家族史のまとめ 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
4回	三山統一と琉球王府①	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
5回	中国との関係	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
6回	琉球王府時代の庶民生活(プレゼンテーション)	事前：沖縄の踊りを調べてくること 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
7回	薩摩侵入	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
8回	蔡温の政治	事前：1~7回分講義の復習 事後：試験に向け前半部分までの復習	2H 2H						
9回	琉球併合と沖縄県・試験	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
10回	旧慣温存政策	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
11回	ソテツ地獄と沖縄社会	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
12回	アジア太平洋戦争と世界、日本の動き	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	2H 2H						
13回	沖縄戦	事前：沖縄戦体験者への聞き取りを行う 事後：配布資料の読み返し、沖縄戦体験者への聞き取りをまとめる	2H 3H						
14回	沖縄戦と記憶の継承(グループディスカッション)	事前：沖縄戦体験者への聞き取りを行う 事後：沖縄戦体験者への聞き取りをまとめる	2H 2H						

15回	米軍支配と復帰～現在	事前：配布資料の予習 事後：レポート作成	2H 3H
16回	レポートの提出	事前：レポート作成	
テキスト	講義に即したレジュメや資料を配布する。		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 『沖縄タイムス大百科事典』『沖縄コンパクト辞典』		
授業の評価 方法・基準	試験 30%、レポート 50%、授業への積極性 20%		
履修条件	特になし		
関連科目・次のス テージ	「沖縄と文化」「沖縄の方言」などを履修することが望ましい。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～14:30。その他必要に応じて設定しますが、事前にアポイントをとること。		
受講生へのメッセ ージ	日常的に図書館を利用し、歴史に関する書籍、資料を読むことを心掛けて下さい。 歴史用語を理解すること。		

科目区分	共通	科目名	中国語Ⅱ	担当者	水間 八重	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選必	ナンバリング		資格・免許要件	保育士選必				
授業の到達目標	中国語の基本的な表現を習得し、実際の会話で重要な語気・語調や表情など、身体表現を含む総合的なコミュニケーション能力を身につけます。また、中国語圏の文化や習慣、私たちの暮らしとの関わりについて、具体的な事例を挙げて説明できることを目指します。広い視野を持ち、異なる価値観を受け入れ、敬意と共感を持って他者に接する態度を身につけます。								
授業概要	円滑な意思疎通や相互理解には、相手への敬意や共感が欠かせません。この講義では、前期に引き続き、中国語の基本表現を習得するとともに、言葉の背景にある歴史や文化に触れ、国や地域による習慣やマナーの違いについて、さらに深く学びます。また日本で暮らしている私たちと中国との関わりについてもいっそう理解を深めます。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	△ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	講義概要／中国語Ⅰで学んだ発音と基本表現・重要表現の確認				事前：発音や重要表現を確認。第2～4回の授業に関連し、グローバル社会における人権や環境の問題について調べ、まとめる。 事後：発音と重要表現の確認、関連図書の読書やニュースなどの視聴			3H 1H	
2回	わたしたちの暮らしと中国Ⅱ 中国の縫製工場を映した映像資料から、身の回りにあふれる中国製品の製造過程について知る				事前：身近な品々がどこから来ているのかを調べ、まとめる 事後：今回の学習内容と、第1回の事前学習を関連づけて考察する			3H 1H	
3回	わたしたちの暮らしと中国Ⅲ 暮らしの中の中国製品について（グループワーク）				事前：普段使っているものがどこでどのように製造され手元に届いているのか、想像してみる 事後：グローバル社会の大量生産・大量消費の問題点と解決策について考察し、まとめる。			1H 3H	
4回	わたしたちの暮らしと中国Ⅳ グローバル社会の生産現場における人権や環境、製品の安心・安全の問題について、発表とまとめ				事後：世界の人々の平和や幸せが、私たちの暮らしと深く関わっていることについて、関連図書やニュースなどを通して理解を深め、まとめる			4H	
5回	教科書第9課 「从A到B」を使って、時間や空間の起点と終点（AからBまで）を表現してみよう				事前：教科書本文のCD音声を聴き、音読 事後①：以下、教科書学習単元1回目共通 本文の書写・音読、重要表現や練習問題の確認、関連図書の読書やニュースなどの視聴			1H 3H	
6回	教科書第9課 動詞「給」を使って、「～をあげる」「～をもらう」を表現してみよう				事前：教科書本文のCD音声を聴き、音読 事後②：以下、教科書学習単元2回目共通 本文の書写・暗誦、重要表現を使った会話文の作成、関連図書の読書やニュースなどの視聴			1H 3H	
7回	教科書第10課 許可を表す「可以」を使って、してよいこと・いけないことを表現してみよう				事前：教科書本文のCD音声を聴き、音読 事後①			1H 3H	
8回	教科書第10課 ～できる — 習得を表わす「会」を使って、できることを表現してみよう				事前：教科書本文のCD音声を聴き、音読 事後②			1H 3H	
9回	会話を楽しむ — 中国語でインタビュー（ペアワーク）				事前：インタビューの質問文を作成してみる 事後：身近な人の紹介文や、インタビューの会話文を作成し、発音する			2H 2H	
10回	教科書第11課 前置詞「给」を使って「～してあげる」、「～してくれる」を表現してみよう				事前：教科書本文のCD音声を聴き、音読 事後①			1H 3H	
11回	教科書第11課 日時や曜日表現しよう				事前：教科書本文のCD音声を聴き、音読 事後②			1H 3H	
12回	中国の歴史・文化・社会を知る（中国映画の鑑賞と解説）				事後：関連図書や資料を通して、中国の文化や習慣についてより理解を深める			4H	
13回	中国の春節について プリント教材 どのように — 疑問詞「怎么」を使って、利用する交通手段をたずねてみよう				事前：中国の春節について調べ、簡単にまとめる 事後：本文の書写・暗誦、重要表現や練習問題の確認。これまでに見聞きした中国文化圏に関連する図書やニュースなどについて書き出し、まとめる			1H 3H	
14回	教科書第12課 ～なのです — 「是…的」を使って過去のある時点や場所を強調して表現してみよう				事前：教科書本文のCD音声を聴き、音読 事後：本文の書写・音読、暗誦、重要表現や練習問題の確認。学習内容全体の確認。			1H 3H	

15回	期末テスト（リスニングおよび筆記）		
16回	期末テストの解説／総括	事後：これまでの学習内容を再確認	4 H
テキスト	『<最新版> 1年生のコミュニケーション中国語』 白水社 その他、適宜資料を配布します。		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 『中日辞典』『日中辞典』ともに小学館 ※授業中に辞書を使用することはありませんが、購入予定者にはこの辞書を薦めます。 その他、適宜授業で紹介します。		
授業の評価方法・基準	課題 40%、期末テスト 20%、ミニテスト+クイズ 20%、ペアおよびグループワークへの参加度 20% を基準に、総合的に評価します。		
履修条件	原則として「中国語Ⅰ」を履修していること。 授業では発音練習やペアワークによる会話練習を多く行います。積極的に参加してください。		
関連科目・次のステージ	学習したことを実践できる機会を積極的に活かしてください。また、いまの私たちの豊かで便利な暮らしはどのような仕組みで成り立っているのか、文化や習慣が異なるとはどのようなことなのかを、意識して生活してみてください。そして、2年次で履修する関連科目の学習にも役立ててください。 【関連科目】外国語コミュニケーション、保育内容研究、保育内容 人間関係		
オフィスアワー	授業の前後		
受講生へのメッセージ	中国語Ⅰに引き続き、実際に使える中国語の習得を目指して、一緒に楽しく中国語を学びましょう。中国や台湾に関するニュースや話題についても、日頃から意識を向けるように心がけてください。課題については各自まじめに取り組み、期限内に提出すること。質問歓迎です。		

科目区分	共通	科目名	外国語コミュニケーション	担当者	高良 宣孝	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格選必、幼免、小免必修				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や自己／他者紹介等を含む英語による日常的なコミュニケーションを取れるようになる。 ・様々なアクティビティを通して、英語の自然な発音を身につける。 ・英語で書かれた文章から情報や考え等を的確に理解し適切にまとめ他者へ伝えることができる。 								
授業概要	<p>英語でのコミュニケーション力を向上させるために、授業では以下の点について学びます：</p> <p>(1) 音読や歌などの自然な発音を通して、英語のアクセント・リズム・イントネーションを学び、英語の自然な発音を身につける。</p> <p>(2) 自己・他者紹介やグループでのプレゼンテーションを通じて、様々な情報を適切に聞き手に伝える。</p> <p>(3) 話し手から発せられた様々な情報を適切に理解しまとめる。</p> <p>(4) 異文化コミュニケーションや世界中で話されている英語の状況を理解する。</p> <p>(5) 英語で書かれた文章を読み、内容を理解し適切にまとめ聞き手へ伝える。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	①	郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける						
	◎	②	保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。						
	○	③	社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。						
	◎	④	社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。						
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
授業計画			時間外学習			時間			
回数	授業内容	事前	事後	事前	事後	事前	事後	時間	
1回	・オリエンテーション ・自己紹介 (Self-introduction) の準備・練習	事前:自己紹介の準備	事後:自己紹介の準備・練習			1h	2h		
2回	・Warm-up Activities ・Giving a Self-introduction (1) (ワークシート提出) - Individual Presentation	事前:自己紹介の準備・練習	事後:自己紹介の振り返り Warm-up Activities の復習			2h	2h		
3回	・Warm-up Activities ・Giving a Self-introduction (2) (ワークシート提出) - Individual Presentation	事前:自己紹介の準備・練習	事後:自己紹介の振り返り Warm-up Activities の復習			2h	2h		
4回	・Warm-up Activities ・異文化コミュニケーション(1):「異文化とは?」「異文化適応」「違いに気づく」「コミュニケーション・スタイル」「世界の価値観」	事前:ハンドアウトの内容の確認	事後:ハンドアウトの内容の復習 Warm-up Activities の復習			2h	2h		
5回	・Warm-up Activities ・異文化コミュニケーション(2):「ノンバーバル・コミュニケーション」「あいづち」「固定観念・ステレオタイプ・差別」「ことばのジェンダー差」	事前:ハンドアウトの内容の確認	事後:ハンドアウトの内容の復習 Warm-up Activities の復習			2h	2h		
6回	・Warm-up Activities ・World Englishes:世界各地の「英語」を見てみよう!	事前:ハンドアウトの内容の確認	事後:ハンドアウトの内容の復習 Warm-up Activities の復習			2h	2h		
7回	・Vocabulary Quiz (1) ・Warm-up Activities ・Introducing Your Friend (1): (ワークシート提出) - Individual Presentation	事前:クイズの為に準備 他者紹介の準備	事後:他者紹介の振り返り Warm-up Activities の復習			2h	2h		
8回	・Warm-up Activities ・Introducing Your Friend (2): (ワークシート提出) - Individual Presentation	事前:他者紹介の準備	事後:他者紹介の振り返り Warm-up Activities の復習			2h	2h		
9回	・Warm-up Activities ・Describing People: (ワークシート提出) - Group Presentation	事前:Describing People の準備	事後:Describing People の振り返り Warm-up Activities の復習			2h	2h		

10回	<ul style="list-style-type: none"> Warm-up Activities Describing Things : (ワークシート提出) <ul style="list-style-type: none"> Group Presentation 	<p>事前: Describing Things の準備</p> <p>事後: Describing Things の振り返り</p> <p>Warm-up Activities の復習</p>	2h 2h
11回	<ul style="list-style-type: none"> Warm-up Activities Let' s Enjoy English Songs! <ul style="list-style-type: none"> Listening & Singing 	<p>事前: 指定された曲のリスニング練習</p> <p>事後: 指定された曲を聞いて歌う</p> <p>Warm-up Activities の復習</p>	2h 2h
12回	<ul style="list-style-type: none"> Warm-up Activities Let' s Enjoy American Culture! (1) <ul style="list-style-type: none"> Reading Aloud Comprehension & Discussion 	<p>事前: 音読練習</p> <p>単語・熟語の意味確認</p> <p>事後: 音読と単語・語句の意味の復習</p> <p>Warm-up Activities の復習</p>	2h 2h
13回	<ul style="list-style-type: none"> Vocabulary Quiz (2) Warm-up Activities Let' s Enjoy American Culture! (2) <ul style="list-style-type: none"> Reading Aloud Comprehension & Discussion 	<p>事前: 音読練習</p> <p>単語・熟語の意味確認</p> <p>事後: 音読と単語・語句の意味の復習</p> <p>Warm-up Activities の復習</p>	2h 2h
14回	<ul style="list-style-type: none"> Vocabulary Quiz (3) Warm-up Activities Let' s Enjoy American Culture! (3) <ul style="list-style-type: none"> Reading Aloud Comprehension & Discussion 	<p>事前: 音読練習</p> <p>単語・熟語の意味確認</p> <p>事後: 音読と単語・語句の意味の復習</p> <p>Warm-up Activities の復習</p>	2h 2h
15回	<ul style="list-style-type: none"> Final Exam (Reading, Listening, & Vocabulary) 	事前: 期末試験の為にこれまでの資料・ハンドアウトの復習	5h
16回	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験返却及び解説 授業のまとめ 		
テキスト	講義にて適宜配布します。配布された資料等を保存するための A4 ファイルを用意しておいてください。		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 講義にて適宜紹介します。		
授業の評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> Vocabulary Quiz (3回予定) : 10% (返却し確認・解説を行う) ワークシート (6回提出予定) : 20% (コメントを付し返却する) Individual Presentation : 20% Group Presentation : 20% Final Exam : 30% (返却し確認・解説を行う) 		
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 授業でのペアワーク・グループワーク等に対して積極的かつ協力的であること。 英語でコミュニケーションを図ることに対してポジティブであること。 毎回の授業に必要な資料 (辞書を含む) を持参すること。 		
関連科目・次のステージ	<ul style="list-style-type: none"> 「異文化理解」等。 受講終了後は、積極的に英語でのコミュニケーションを取り、異文化理解を楽しんでもらえればと思います。 		
オフィスアワー	授業の前後。または質問等は電子メール (nobu@11.u-ryukyu.ac.jp) ・電話 (098-895-8906) でも受け付けます。		
受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 授業では辞書を必要とする課題・アクティビティもありますので、初回の授業から辞書 (英和・和英) を持ってきて下さい。 授業内での様々な課題やアクティビティを通して、英語でコミュニケーションを取る力を伸ばしましょう。 授業内外での課題やアクティビティ等を楽しくこなしていけるよう工夫しますので、一緒に英語コミュニケーションを楽しみましょう。 		

科目区分	共通	科目名	外国語コミュニケーション	担当者	山城莉乃	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格選必、幼免、小免必修				
授業の到達目標	自己紹介や自分の意見を伝える、相手のことを知るなどの基本的なコミュニケーションを英語でできるようになる。英語で書かれた情報、映像から基本的な情報を得ることができるようになる。簡単な英語のゲームや英語の絵本を読み上げができるようになる。異文化や多様性にふれ、理解や受容を深めることができるようになる。								
授業概要	効果的なコミュニケーションを図るために必要な知識を高め、実践法を身につける。ペアワークやグループワークを通して、協力して問題解決に取り組む。互いの考えや情報を交換することで多様性にふれ、尊重し合う態度を培う。英語の発音やリズム、言い回しなどの英語特有の表現法を学び、活用できるようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	①常に問題意識を持ち、積極的な課題の発見やそれに対する解決方法を立案・実行できる能力(課題発見力・計画力・創造力・実行力)							
	◎	②自分の考えをきちんと順序立てて説明し、相手を説得する能力(コミュニケーション能力)							
	○	③結果を冷静に振り返り、統括し、周囲と共有することのできる能力(状況把握力・前に踏み出す力)							
	◎=DP達成の為に特に重要な項目 ○=DP達成の為に重要な項目 △=DP達成の為に望ましい項目								
授業計画			時間外学習			時間			
1回	オリエンテーション、Why study English? input/output 紹介 自己紹介用のアクティビティー、自己目標の設定、			事後: input 文の音読・内容理解 output 文の作成			2H		
2回	Introducing self and others (自己・他者紹介) How well do you know me? (グループワーク)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成			1H 1H		
3回	異文化理解①: Diversities in English 英語の多様性 Review the similarities and differences (グループワーク)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成,多様性のレポートのまとめ			1H 2.5H		
4回	異文化理解②: Diversities in people 人々の多様性 Diversities in Okinawa (グループワーク)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成、多様性のレポートのまとめ			1H 2.5H		
5回	Having fun with English Project! 英語で楽しもうプロジェクト 導入&グループ作り (グループワーク) (楽しく英語が学べるゲームやアクティビティーを作る)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成、 プロジェクト用の調べ学習&準			1H 4H		
6回	Vocabulary building: 毎日使える単語チェック! (ペアワーク)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成、 プロジェクト用の調べ学習&準備			1H 4H		
7回	Likes and dislikes: 自分と相手の好みを知る (ペアワーク)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成、 プロジェクト用の調べ学習&準備			1H 4H		
8回	Reading is fun!! 発音、イントネーションとリズムを意識しながら英語の絵本を読んでみよう! (グループワーク)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成、 プロジェクト発表の準備			1H 4H		
9回	Having fun with English Project! 英語で楽しもうプロジェクト 中間報告(楽しく英語が学べるゲームやアクティビティーを作る)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成、 プロジェクト発表の準備			1H 4H		
10回	How do you say it in English? これ英語でなんて言う? #1 家バージョン (ペアワーク・グループワーク)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成、 プロジェクト発表の準備			1H 4H		
11回	How do you say it in English? これ英語でなんて言う? #2 学校バージョン (ペアワーク・グループワーク)			事前:input 文の音読・内容理解 事後:output 文の作成、 プロジェクト発表の準備			1H 4H		
12回	Having fun with English Project! 英語で楽しもうプロジェクト 実践発表と相互評価			事前:input 1-5 音読 事後:input 6-10 音読			2H 2H		

13回	Having fun with English Project! 英語で楽しもうプロジェクト 実践発表と相互評価	事前:input 11-15 音読 事後:input 16-20 音読	2H 2H
14回	期末テスト対策 Review for the final examination	事前:これまでのinputすべて練習 事後:テスト対策プリントの復習	3H 3H
15回	期末テスト Final Examination (Listening, Reading and Speaking Test)	事前:なし 事後:なし	
16回	テストの返却、自己評価と次へのステップ	事前:なし 事後:なし	
テキスト	講義にて資料を配布しますので、A4 ファイル(20 ポケット)、提出物用クリアホルダー、ノート(新しいものでなくて可)を準備してください。		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 適宜、講義において紹介します。		
授業の評価 方法・基準	コミュニケーション活動への参加(ワークシート 10 回提出)20%、input/output 課題(10 回提出) 20%、Having fun with English プロジェクト 30%、期末テスト 30%		
履修条件	英語、コミュニケーションに興味・関心があること。ペアワークやグループワークに積極的に取り組むことができること。自身やクラスメートの学びの機会と真摯に向き合う準備ができていること。		
関連科目・次の ステージ	「異文化理解」「英語プレゼンテーション」		
オフィスアワー	木曜日の昼食時間(要予約)授業の前後またはメールで受け付けます。メール;rindarr@hotmail.com		
受講生へのメッセ ージ	英語がわかるようになる、話すのが楽しくなることをみなさんに体験してもらって、それをみなさんが出会う人たちと共有して「学びは楽しい!」の輪を広げていきましょう!		

科目区分	共通	科目名	情報機器操作	担当者	新川 涼子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選必	ナンバリング		資格・免許要件		小学校二種必修、幼稚園二種必修、保育士選択			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「お知らせ」を、Wordを使って素早く、きれいに作成できるようにする ・予算や、売上の計算表、成績表、グラフを、Excelを使って作成できるようにする ・研究授業の報告などで使われるスライドを、PowerPointを使って作成できるようにする ・情報機器（スマホ・コンピュータ）でのインターネット利用上の安全対策を理解する ・プログラミング（Scratch!）を体験し授業への導入について考えられるようにする 								
授業概要	<p>ワードではきれいなお知らせ文書を素早く作成できるように練習します。エクセルでは、簡単な計算や関数、グラフの作成方法を学び、成績表が作成できるようにします。パワーポイントでは、実習報告ができるよう基本的なスライドを作成します。情報セキュリティに関する学習では、情報化社会において重要な知識である、コンピュータやスマートフォンを利用する際のセキュリティ対策を習得します。プログラミング学習では、Scratch!を使って実際にプログラミングを体験し、小学校の先生方の研究授業も参考にしながら実際に授業にプログラミングを導入するイメージをつかめるようにします。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	△	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画			時間外学習			時間		
1回	オリエンテーション Word:ブラインドタッチの練習、ファイルの保存			事前：タイピングを練習 事後：Windowsの基本操作の復習			2H 2H		
2回	Word:ページ設定、簡単なお便りの作成、オンライン画像の挿入、課題			事前：ファイルの保存の復習 事後：簡単なお便りの復習			2H 2H		
3回	Word: ペイントソフトによるイラストの作成、お便りへの貼り付け、課題			事前：ペイントソフトを使ってみる 事後：絵の貼り付けの復習			2H 2H		
4回	Word:表入りのお便り、課題			事前：絵の作成と貼り付けの復習 事後：表作成の復習			2H 2H		
5回	Word: ワープロ検定準2級の問題にチャレンジ(セル結合のある表入りのお便り)			事前：表入り文書の復習 事後：セル結合のある表の復習			2H 2H		
6回	Word: 地図入りのお便りの作成、課題			事前：ワープロ検定準2級問題の作成 事後：地図作成の復習			2H 2H		
7回	Excel:エクセルの基本（入力、合計、平均、表の編集）、課題			事前：エクセルの起動、文字入力の予習 事後：表の編集、合計、平均の復習			2H 2H		
8回	Excel:グラフ作成、課題			事前：表の編集、合計、平均の復習 事後：グラフ作成の復習			2H 2H		
9回	Excel:関数・計算式の利用、課題1 MAX関数、MIN関数、COUNT関数、RANK.EQ関数			事前：グラフ作成の復習 事後：MAX、MIN、COUNT関数の復習			2H 2H		
10回	Excel:関数・計算式の利用、課題2 割合の計算、IF関数			事前：RANK.EQ関数の復習 事後：割合の復習			2H 2H		
11回	情報セキュリティ対策 スマホやコンピュータを利用する上での安全対策、ネット依存度チェック、ネット利用について考えるグループワーク			事前：自分のスマホの利用状況についてチェックしてみる 事後：実際に自分のスマホのセキュリティ対策を実施する。家族、友人とセキュリティ対策について話し合う			2H 2H		
12回	PowerPoint: スライド作成の基本1 合唱祭結果報告スライド、スパイラル学園紹介スライド			事前：パワーポイントの機能について予習 事後：基本スライド作成の復習			2H 2H		

13回	scratch を利用したプログラミング実習 1 算数の時間に活用する多角形の描画 (三角形・六角形)	事前：小学校の先生方のプログラミングを 活用した研究授業について調べる 事後：scratch で多角形を描いてみる	2H 2H
14回	scratch を利用したプログラミング実習 2 算数の時間に活用する円の描画、自由図形描画	事前：scratch で多角形を描いてみる 事後：scratch で自由に図を描いてみる	2H 2H
15回	Word・Excel の復習	事前：ワープロ検定準 2 級問題の復習 事後：エクセルまとめ課題の復習	2H 2H
16回	Word・Excel の実技試験		
テキスト	「30 時間でマスター Word&Excel2016(Windows10 対応)」,実教出版,¥1,026(税込み)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】		
授業の評価 方法・基準	毎時間の課題 30%、実技試験(ワード・エクセル)70%		
履修条件	あまりタイピングの経験がない人は、タイピング練習サイトなどを活用して練習してください		
関連科目・次のス テージ	教育機器演習		
オフィスアワー	授業の前後		
受講生へのメッセ ージ	コンピュータは、授業で演習するだけでなく、レポート作成などにも積極的に利用することで幅広く活用できるようになります		

科目区分	共通	科目名	情報機器操作	担当者	加治工・眞喜志・加藤	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	幼稚園教諭・小学校教諭免許状必修、保育士資格選択			
授業の到達目標	本講義ではコンピュータの基礎的な使い方を習得し、保育現場または小学校の教育現場でのコンピュータの活用について考え、実践する力を養う。								
授業概要	本講義では、Windows の基本操作、Word による文書作成、Excel による表やグラフ作成、などの基礎的な使い方を習得する。また、PowerPoint によるプレゼンテーション作成、インターネットを利用した情報の収集、情報セキュリティについて学習する。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画				時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション、パソコンのしくみを学ぼう (ブラインドタッチの練習、ファイルの保存) [テキスト 第1章 Windows10 の基礎]				事後：タイピングの基本ポジションを予習する		2H		
2回	Word の基本操作 ① (ページ設定、簡単なお便りの作成) [テキスト 第2章 Word 入門]				事前：第2章を読み、PCを使用して確認する 事後：第2章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
3回	Word の基本操作 ② (ペイントソフトの基礎、お便りへの貼り付け) [テキスト 第3章 文章の作成]				事前：第3章を読み、PCを使用して確認する 事後：第3章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
4回	Word の基本操作 ③ (表入りのお便り) [テキスト 第4章 Word の活用]				事前：第4章を読み、PCを使用して確認する 事後：第4章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
5回	Word の基本操作 ④ (画像の挿入、テキストボックスの挿入作成) [テキスト 第4章 Word の活用]				事前：第4章を読み、PCを使用して確認する 事後：第4章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
6回	Word の基本操作 ⑤ (ワープロ検定の問題にチャレンジ！)				事前：第2～4章を読み、PCを使用して確認する 事後：ワープロ検定の問題でWordの操作に慣れる		2H 2H		
7回	Word の総まとめ課題 (Word の基本操作①～⑤の内容を用いて文書作成)				事前：第2～4章を読み、PCを使用して確認する 事後：ワープロ検定の問題でWordの操作に慣れる		2H 2H		
8回	情報セキュリティ対策学習 (スマートフォンのセキュリティ対策、SNS利用について)				事前：スマートフォンのセキュリティ対策を考える 事後：身近にある機器の情報セキュリティを確認する		2H 2H		
9回	Excel の基本操作 ① (入力、合計、表の編集) [テキスト 第5章 Excel 入門]				事前：第5章を読み、PCを使用して確認する 事後：第5章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
10回	Excel の基本操作 ② (利用目的にあったグラフの作成) [テキスト 第5章 Excel 入門]				事前：第5章を読み、PCを使用して確認する 事後：第5章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
11回	Excel の基本操作 ③ (関数・計算式の利用) [テキスト 第6章 Excel の活用]				事前：第6章を読み、PCを使用して確認する 事後：第6章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
12回	Excel の総まとめ課題 (Excel のデータベース機能・集計) [テキスト 第6章 Excel の活用]				事前：第6章を読み、PCを使用して確認する 事後：第6章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
13回	Power Point の基本操作 ① (自己紹介、2019年の抱負プレゼンテーション) [配布資料]				事前：自分自身の2019年の抱負を考える 事後：PowerPointの基本操作を復習する		2H 2H		
14回	Power Point の基本操作 ② (プレゼンテーションの発表) [配布資料]				事前：PowerPointの基本操作を予習する 事後：PowerPointの基本操作を復習する		2H 2H		
15回	まとめ (コンピュータの活用方法) [テキスト 第7章 アプリ間のデータ活用]				事前：第7章を読み、PCを使用して確認する 事後：第7章を復習する、タイピングの練習をする		2H 2H		
16回	テスト (実技試験)				事前：試験範囲を確認し、練習する		2H		

テキスト	『30 時間でマスターWord&Excel2016』実教出版
参考資料など	【購入を必須としないもの】 PowerPoint2016 基本技/技術評論社, Power Point2016 基本マスターブック/株式会社インプレス/井上香緒里&できるシリーズ編集部情報セキュリティ読本/実教出版 等
授業の評価 方法・基準	テスト 50% ②課題 40% (毎時間課題提出) ③発表・態度 10% で評価する
履修条件	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状の取得を目指す者 (必修科目)、および保育士資格取得を目指す者 (選必科目)
関連科目・次のス テージ	
オフィスアワー	加治工(木曜日)、加藤(金曜日)、眞喜志(火曜日)
受講生へのメッセ ージ	・作成したデータを各自保存しておきたい場合はUSB メモリーフラッシュを用意してください ・講義を通してコンピュータの基礎を身に付け、活用できるようにしましょう

科目区分	共通	科目名	日本国憲法	担当者	山内	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭、幼稚園教諭必修				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法を具体的事例で学び、その精神・意義を子ども目線に立って指導できるようになる。 ・実際例を基にして個人やグループで調べ、意味理解や問題解決ができるようになる。 ・学んだことが社会で実質的資質になり、民主的社會人として自立できる力・指導力になるようにする。 								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の原則・意義、実際を学び、憲法を尊重しその精神を生かせるような授業形態を図る。 ・人権の条文を実例でワークして実際の意味を理解し、自らの問題、知性として習得する方法を図る。 ・本学の建学精神をふまえて、より豊かな感性、人間性、人間愛を培う授業の工夫を図る。 								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	「憲法ってなんだろう」―法を学ぶ意義を実際例から習得する				事後：法の意義と授業の成果をまとめる			2H	
2回	「日本国憲法の誕生」―憲法誕生と原則を講話と調べ学習で習得				事前：教科書序論の読解 事後：本日のワーク（レポート）の整理			2H 2H	
3回	「憲法の基本原理」―三大原則の意義を調べ学習で習得する				事前：憲法の構成と三大原則の調べ 事後：象徴天皇制と王位継承のまとめ			2H 2H	
4回	「9条と平和主義」―9条全文を読み解き、現在の動きを追及する 9条を暗唱朗読し意味内容を体得する（P=ワーク）				事前：第9条の読み取り・暗唱 事後：憲法改正の動きの整理			2H 2H	
5回	「基本的人権の意義」―11条を中心にワークで理解し自分事にする				事前：教科書 p48～p55 を基に人権の予備知識 事後：三大原則と13条の関連のまとめ			2H 2H	
6回	「自由権とは何か」―自由権の実際を体得し実生活に生かす(G)				事前：憲法19条～40条の読み取りと整理 事後：「自由を守る樹」の整理			2H 2H	
7回	「幸福請求権」と「法の下での平等」―事例をもとにワーク（G）				事前：教科書 p66～71 を基に13条と14条の予習 問題 事後：プライバシー権についてのレポート作			2H 2H	
8回	「新聞から憲法を学ぶ」―新聞記者とのコラボで見出しづけ（G）				事前：新聞の閲読と記事内容のスクラップとコメント作成 事後：ワーク問題の整理と提出			2H 2H	
9回	「社会権とは」―DVD「マチカティ」から社会権と自己理解を図る				事前：教科書から25条の具体的な権利を読み取る 事後：DVDを視聴してのまとめ・提出			2H 2H	
10回	「国会のしくみと機能」―国会の仕事学び主権者意識を育む（P）				事前：国会のしくみと国会議員について事前ワーク 事後：国の政治のしくみについてワーク問題の演習			2H 2H	
11回	「行政権の意味と機能」―大臣の仕事を中心に行政機能を考える				事前：現内閣について調べて整理 事後：69条の内閣と国会の関係性についてのまとめ			2H 2H	
12回	「新聞から憲法を学ぶⅡ」―記事と憲法の関連性を考え討議（G）				事前：前回の授業をふまえて新聞の読み取りとスクラップ 事後：ワークのまとめ・提出			2H 2H	

13回	「司法権の意味と実際」－実際の判例を基に判決を考え下す（G）	事前：憲法76条～82条の読み取り 事後：実際の判例をグループで検討・判決準備	2H 2H
14回	「裁判官として判決をだす」－グループで判例を考え決定し表考察する	事前：実際の判決をグループでワーク 事後：模擬裁判官としての省察・まとめ	2H 2H
15回	「地方自治の意義」「憲法の心を幼児にも」－学んだことのまとめ	事前：自治の意義と実際についての調べ学習 事後：「幼児にも憲法の精神を」のレポート作成	2H 2H
16回	講義全体の省察と評価テスト	評価テスト	2H 2H
テキスト	「はじめての憲法総論・人権」（尾崎哲夫著 自由国民社）（本体1200円＋税）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「はじめての憲法統治」（尾崎哲夫著 自由国民社）「日本国憲法を生んだ密室の九日間」（鈴木昭典角川ソフィア文庫）		
授業の評価方法・基準	個人やグループでのワーク・発表20% 課題等の提出20% 評価テスト60%		
履修条件	各授業の内容をまとめ、前向きに発表し、憲法を自身のこととして考え主権者意識をもって学びを高めるかと		
関連科目・次のステージ	憲法は「教育制度論」やその他の教科との関連性が深いことを理解し、発展的に学べるようにする		
オフィスアワー	金曜日の午後に必要に応じて対応する		
受講生へのメッセージ	日本国憲法は難しい内容ではないので実践例を基に気軽な気持ちで臨み、日常生活や仕事で生かせるように努めてほしい		

科目区分	専門	科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	担当者	長若道代・上原健二	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格 選択 ・ 児童厚生2級指導員資格 必修				
授業の到達目標	児童福祉の基本理念である「健全育成」の考え方を理解するとともに、現代の子どもの健全育成上の具体的内容、現代の子どもの健全育成上の課題について理解する。また、その理念を地域で具現する児童館・児童クラブの機能を理解する。								
授業概要	児童福祉法制定当時の経緯、児童福祉法に盛り込まれた健全育成の考え方、健全育成の具体的内容、現代の子どもの健全育成上の課題、遊びの健全育成上の意義について学ぶ。その他、児童館については、児童館の起原、施策の経緯、施設の概要と特徴、児童館の機能と運営上の留意点、児童館ガイドライン、児童館の課題と展望を放課後児童クラブについては、放課後児童クラブの起原、施策の経緯、事業概要、活動内容と実施上の留意点、放課後児童クラブガイドライン、変化しつつある放課後児童クラブ、課題と展望を学ぶ								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/>	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	<input checked="" type="radio"/>	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	<input type="radio"/>	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	<input type="radio"/>	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	<input checked="" type="radio"/>	◎=DP達成の為に特に重要な項目 ○=DP達成の為に重要な項目 △=DP達成の為に望ましい項目							
		授業計画				時間外学習			時間
1回	オリエンテーション 後期授業内容について				事前：実習後の感想をまとめる 事後：特色ある児童館について調べる			2H	
2回	児童福祉法の理念と健全育成				事前：健全育成についてテキストを読み込む 事後：遊びの定義と分類をまとめる			2H 2H	
3回	健全育成の具体的な内容と遊びの健全育成上の意味				事前：テキストを読む 事後：遊びはなぜ必要か、まとめる。			2H 2H	
4回	児童館・放課後児童クラブの流れ～その源流から現在の状況 創設の原点・時代背景・現在の状況				事前：児童館はなぜ地域に設置されたか調べる 事後：児童館が地域に及ぼす効果について			2H 2H	
5回	児童館・児童クラブの概要と特性 遊びワーク グループで遊びを考える				事前：それぞれの施設の特性を調べる 事後：それぞれの施設にあった遊び活動・活動			2H 2H	
6回	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能①				事前：テキスト・資料を読む 事後：ガイドラインの比較			2H 2H	
7回	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能②				事前：テキスト・資料を読む 事後：ガイドラインの比較			2H 2H	
8回	放課後児童クラブガイドラインと改定後の基準				事前：放課後児童クラブの歩みについて 事後：ガイドラインについて			2H 2H	
9回	運営管理（法令順守・子どもの権利擁護・要望、苦情への対応）				事前：苦情について対応事例を読む。 事後：「子どもを守る支援についてまとめる」			2H 2H	
10回	安全対策（安全管理・危機管理・防災、防犯、事故防止活動） 安全マップ・街探検事例				事前：安全マップの意義 事後：資料を読み返す			2H 2H	
11回	児童館・児童クラブの環境構成				事前：子どもの居場所の望ましい環境と遊具 事後：遊具スペースの事例をまとめる			2H 2H	
12回	児童館・放課後児童クラブにおける障害児支援 支援事例 共育の考え方				事前：特別支援児の遊びとプログラム 事後：集団の中での関わり方について			2H 2H	
13回	児童厚生員・放課後児童クラブ支援員の職場の倫理 支援者の心得と子どもへの対応について				事前：支援者としての心構え 事後：支援者としての倫理と具体的な関わり			2H 2H	
14回	児童館・放課後児童クラブの課題と展望				事前：どんな課題があるか 事後：どのように地域の子どもを支援していくか			2H 2H	

15 回	テスト・レポート提出	事前：事前資料を読み込む 事後：子ども観をまとめる	2H 2H
16 回	まとめと振り返り	事前：子ども観の発表・自分のプレゼン 事後：プレイワーカーとしての心得	2H
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論』一般財団法人 児童健全育成推進財団編 平成 26 年 9 月 『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論』一般財団法人 児童健全育成推進財団編 平成 27 年 8 月 		
参考資料など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>*教師用指導書 随時</p>		
授業の評価 方法・基準	<p>受講姿勢・出席状況・レポート・テストに基づき総合的に行う</p> <p>テスト 50%、レポート 30%、授業参加度 20%</p>		
履修条件	児童厚生 2 級指導員資格を希望する者 0～18 歳の児童健全育成に関心のある者		
関連科目・次のステージ	<p>「社会福祉」「児童家庭福祉」「相談援助」などの社会福祉関連科目及び「保育内容」「児童文化財」など学内での学習及び 2 年夏期の「児童館実習」を踏まえ、後期は卒業後に向けて健全育成論・法的根拠を学び、児童館及び放課後児童クラブだけでなく、子どもの居場所など、幅広く子どもの過ごす場についての役割と機能をさらに学ぶことで、実践者を育成する</p>		
オフィスアワー	授業の前後		
受講生へのメッセージ	<p>・子どもは遊びで育つ、遊びの支援者や素敵な大人たちに出会うことによって輝きます。</p> <p>遊び・学び・集いあう子どもの居場所について学んでみませんか、</p>		

科目区分	専門	科目名	児童文化財	担当者	平田 千悦子・田名洋子	授業形態	講義・演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士選必						
卒業要件との関連性	保育活動の実際に即応する技能を習得する。								
授業の到達目標	児童文化の概念の歴史を知り、児童文化財全般を知る。子どもの為の沖縄の伝承文化の実際、子どもの成長発達に合わせた絵本の選書、読み聞かせの方法の習得、紙芝居の理論と演じ方の習得、パネルシアターの制作と演じ方を習得する。								
授業概要	保育活動に即応できる児童文化財として、子どもの為の沖縄の伝承文化を学び、実践する。図書館の絵本を活用し、絵本論を学び、グループで絵本の読み解きを深め、読み聞かせの実際を学ぶ。紙芝居も種類と演じ方の実際を学ぶ。パネルシアターは制作し、子どもの成長に合わせた実演、実践方法を学ぶ。								
ディプロマポリシーと授業の対応	○	① 常に問題意識を持ち、積極的な課題の発見やそれに対する解決方法を立案・実行できる能力（課題発見力・計画力・創造力・実行力）							
	◎	② 自分の考えをきちんと順序立てて説明し、相手を説得する能力（コミュニケーション能力）							
	◎	③ 結果を冷静に振り返り、統括し、周囲と共有することのできる能力（状況把握力・前に踏み出す力）							
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	児童文化、児童文化財とは何か	事後：配布プリントを熟読する（0, 5H）					田名	
	2回	子どもの為の沖縄の伝承文化Ⅰ（遊び・わらべ歌・行事）	事前：自分の体験歴史を考える（0, 5H） 事後：練習し、実習に備える					田名	
	3回	子どもの為の沖縄の伝承文化Ⅱ（民話）	事前：テキスト第9章を読む（0, 5H） 事後：声の持つ意味・役割を考える（0, 5H）					田名	
	4回	子どもの成長と絵本Ⅰ	事前：テキスト第1章を読む（0, 5H） 事後：テキストのワークを完成させる（0, 5H）					田名	
	5回	子どもの成長と絵本Ⅱ	事前：図書館の絵本を読む 事後：子どもの発達を意識して図書館の絵本を読む					田名	
	6回	絵本の歴史・絵本の種類	事前：図書館の絵本を読む 事後：種類を意識して図書館の絵本を読む					田名	
	7回	演習Ⅰ 絵本の読み解き・読み聞かせ実演（0, 1, 2, 歳）	事前：図書館で0, 1, 2, 歳児対象の絵本を読む 事後：読み聞かせの練習をする					田名	
	8回	演習Ⅱ 絵本の読み解き・読み聞かせ実演（3, 4, 5歳）	事前：図書館で3, 4, 5歳児対象の絵本を読む 事後：読み聞かせの練習をする					田名	
	9回	児童文化財、実演紹介	事前：児童文化財の種類を予習（0, 5H） 事後：講義内容について感想レポート提出（0, 5H）					平田	
	10回	紙芝居の特性と演じ方	事前：紙芝居を数冊読む（0, 5H） 事後：配布資料を読み返し、紙芝居を演じる練習（0, 5H）					平田	
	11回	演習Ⅲ 紙芝居を演じる	事前：紙芝居を演じる練習（0, 5H） 事後：実演後の反省レポート提出（0, 5H）					平田	
	12回	パネルシアター 制作Ⅰ	事前：作品内容の決定 事後：なし					平田	
	13回	パネルシアター 制作Ⅱ	事前：なし 事後：次週までに作品を仕上げ、演じ方を練習（0, 5H）					平田	
	14回	パネルシアター 演じ方実践Ⅰ	事前：シナリオを作成し、練習する（0, 5H） 事後：実演後の反省レポート提出（0, 5H）					平田	
	15回	パネルシアター 演じ方実践Ⅱ	事前：シナリオを作成し、練習する（0, 5H） 事後：実演後の反省レポート提出（0, 5H）					平田	
	16回	テスト						平田	
テキスト	『感じあう伝えあう ワークで学ぶ児童文化』村中李衣 編著 金子書房発行 随時プリントを配ります								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 『沖縄むかしむかし』①② 沖縄県子どもの本研究会 編・発行								
授業の評価方法・基準	作品制作、実技、演習レポート 50% テスト50%								
履修条件	保育現場で即応できる技能の習得を目指しています。制作物は期限までに必ず仕上げ、実技授業では積極的に実技に臨むこと。								
関連科目・次のステージ	児童文化財全てが、ことば・物語抜きでは成立しない。「ことば」の授業、子どもの発達に関連する科目について復習すること。図書館を大いに利用し、絵本、児童書を読むこと。一般社会での子どもの文化環境に関心を持ち続けること。								
オフィスアワー	授業終了後。アPOINTは必ずとること。								

受講生への
メッセージ

制作、実技演習をより良くするためには、仲間との連携、コミュニケーションがとても大事です。そこで培われたものが、また、必ず社会へ出ても役立つと思います。協力して、共に授業づくりをしましょう。

科目区分	専門	科目名	外国語活動指導法	担当者	又吉 薫	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	小学校二種免許状の選択必修科目			
授業の到達目標	小学校における外国語活動及び外国語の指導者として必要とされる、小学校外国語教育の基本的な理論が説明でき、それら理論に基づいて指導案の作成から実践的な導入・評価方法を自ら計画し、教材開発を行える実践力を有している。								
授業概要	初めに日本の英語教育の変遷を概観しながら、児童英語教育の理論を学ぶ。次に小学校外国語活動・外国語における学習指導要領を踏まえ、指導案の計画・導入の実践を学ぶ。各テーマに沿った指導案と授業事例を紹介し、指導者としての知識・技能の習得を図る。また、時事問題を取り上げ、異文化相互理解に必要な教養を磨く。ICTを活用した教材開発など、アクティブラーニング（PBL型プロジェクト）に取り組む。								
ディプロマポリシー（DP）と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育人・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	小学校外国語教育の変遷（学習指導要領改訂の背景）				事後：指導要領の改訂ポイントを整理する。			(2h)	
2回	諸外国の外国語教育事情と指導者の役割				事前：テーマについてリサーチする。 事後：テーマについて概要を整理する。			(2h) (2h)	
3回	グローバル時代に求められるコミュニケーション能力と異文化間相互理解の本質とはなにか？				事前：身近な事象について考えをまとめる。 事後：他者の意見と比較し、まとめる。			(2h) (2h)	
4回	新・旧学習指導要領の概要比較 ①外国語活動（中学年）				事前：新・旧学習指導要領に目を通して概要をつかむ（外国語活動）。 事後：新・旧学習指導要領の違いを整理する（外国語活動）。			(2h) (2h)	
5回	新・旧学習指導要領の概要比較 ②外国語（高学年）				事前：新・旧学習指導要領に目を通して概要をつかむ（外国語）。 事後：新・旧学習指導要領の違いを整理する（外国語）。			(2h) (2h)	
6回	ディスカッション：なぜ英語の習得は必要か？				事前：ディスカッションに備えて自身のテーマに対する考えをまとめる。 事後：他者の意見と自身の考えを比較し、意見をまとめる。			(2h) (2h)	
7回	ディスカッション：英語の「これまで」と「これから」				事前：当該テーマについて参考資料等を利用して情報を収集し、整理する。 事後：当該テーマについて概要を整理する。			(2h) (2h)	
8回	第二言語習得理論 ①【母語習得・第二言語習得、神経言語学・臨海期仮説、発達心理学】				事前：各理論について情報を収集整理する。 事後：各理論のポイントをまとめる。			(2h) (2h)	
9回	第二言語習得理論 ②【国際教育・国際理解教育・異文化間コミュニケーション理論】				事前：各理論について情報を収集整理する。 事後：各理論のポイントをまとめる。			(2h) (2h)	
10回	教材・テキストの構成と内容 ① 日本 教材・テキストの構成と内容 ② 韓国・台湾				事前：事前に配布資料に目を通し理解する。 事後：関連内容について情報を収集する。			(2h) (2h)	
11回	指導目標・年間指導計画の立て方・学習指導案の立案				事前：当該テーマについて情報を収集する。 事後：当該テーマについて概要を整理する。			(2h) (2h)	
12回	指導目標・年間指導計画の立て方・学習指導案の事例紹介				事前：実際に使用されている指導案を収集し、要点を整理する。 事後：自身の指導計画・指導案を作成する。			(2h) (2h)	

13回	教育実践の現状と課題（ゲストスピーカーによる講演）	事前：ゲストスピーカーに質問したい内容を検討する。 事後：分かった内容・疑問点を整理する	(2h) (2h)
14回	指導案のプレゼン（グループ1～5発表）	事前：プレゼン資料を作成するための情報を収集する。 事後：プレゼン資料・発表を振り返り、加筆修正する。	(2h) (2h)
15回	指導案のプレゼン（グループ6～10発表）	事前：岐阜女子大学のe-learningで事前学習する。 事後：実際の授業導入を想定して練習する。	(2h) (2h)
16回	教室英語、ICT機器類の活用について	事前：岐阜女子大学のe-learningで事前学習する。 事後：実際の授業導入を想定して練習する	(2h) (2h)
テキスト	指定図書なし ※ 本学及び岐阜女子大学のe-learning教材を適宜、紹介・利用する		
参考資料など	「英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法」廣森友人〔大修館書店：2015〕¥1,600（税抜き）		
授業の評価	①課題（指導案作成）50% ②課題（教材作成）40% ③発表・態度10% で評価する。		
方法・基準	※ レポート課題等については全体的な傾向・課題について解説し、返却いたします。		
履修条件	受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠り等）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと。		
関連科目・次のステージ	小学校教員に求められる英語力は英検準1級程度とされています。必要に応じて、英検やTOEICなどの資格試験に向けた自主学习や英会話の学習に積極的に取り組みながら、英語力向上に努めましょう。		
オフィスアワー	金曜日3講目以降（13：00～17：50）		
受講生へのメッセージ	普段から英語に触れる習慣を身に付けるために、本学や岐阜女子大学の作成したe-learning教材を積極的に活用しましょう。 連絡先：matayoshi-i@owjc.ac.jp		

科目区分	専門	科目名	子どもの健康と安全	担当者	大城・新垣・藤田・盛島	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士必修			
授業の到達目標	「子どもを心身の病気から守り、健全に育成させる」という理論を踏まえ、保育所等の児童福祉施設あるいは幼稚園、その他保育の場においてこれを実践できる応答的能力と知識、技術を身につける。また保育的観点に基づく環境整備や健康・安全管理の実施体制など実践的な能力を習得する。								
授業概要	「子どもの保健」で学んだ講義内容を踏まえ、さらに実践的な能力を習得するため、グループ討議や演習を通して保育の現場に必要な知識や技術、判断力、倫理観等を学習する。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	◎	①	郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける						
	◎	②	保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。						
	◎	③	社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。						
	◎	④	社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。						
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション 保健計画と保健活動、保健便り				(課題) 各自保健便りを作成する 提出日：第12回の講義までに提出				
2回	身体発育とその評価 (子どもの保健 1 p24~30) 身体計測 (身長、体重、胸囲、頭囲) と評価				事後：事例を通して発育発達の評価を再度確認する、身体計測の留意事項を踏まえ計測の手技を復習する			1H	
3回	子ども集団全体の健康と安全・衛生管理 健康管理の意義、健康観察のポイント、与薬				事前：健康管理の意義、健康観察のポイントや与薬について調べる 事後：子どもによく見られる症状の観察項目をまとめる。			1H 1H	
4回	子どもの健康増進と保育の環境 衛生管理・安全管理				事前：保育園における衛生管理、安全管理について調べる。 事後：健康増進のため、衛生管理、安全管理の観点から望ましい保育環境についてまとめ、保育士として適切な援助方法を考える。			1H 1H	
5回	体調不良や障害が発生した場合の対応 バイタルサインと全身状態の観察 熱中症、けいれん				事前：バイタルサインの観察方法、けいれん発作時の対応、熱中症の対応、予防対策について調べる			1H	
6回	バイタルサインの観察方法、測定法 障害発生時の応急処置				事後：体調不良時の対応、障害発生時の応急処置についてまとめる			1H	
7回	感染症の集団発生と予防、対応 保育の現場でよくある感染症 (子どもの保健 1 p60~69)				事前：子どもがかかりやすい感染症について調べる。「保育所における感染症対策ガイドライン」を確認する			1H	
8回	吐物処理の方法、手袋の装着方法 (不潔処理) 正しい手洗い、うがい、口腔衛生の方法				事後：標準予防策の実践について学んだことをまとめる 手洗い、うがい、歯磨きの方法を復習する。			1.5H	
9回	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 アレルギー性疾患、免疫疾患 (子どもの保健 1 p71~73) エビペンの使用方法				事前：アレルギー疾患について調べる 事後：慢性疾患、アレルギー疾患を持つ子どもの対応についてまとめる			1H	
10回	障害を持つ子どもへの適切な対応 神経系疾患 (子どもの保健 1 p77~79)				事前：障害とは何かを考える。神経系疾患について調べる 事後：障害の特性、それに応じた医療的ケアについてまとめる。 小児のレスパイトケア施設について調べる			1H 1H	

11回	事故防止及および安全対策	事前：子どもに起こりやすい事故を調べる 自分のケガ体験について調べる 事後：事故防止対策や安全対策について考える	1H 1H
12回	救急処置および救急蘇生法 けがへの対応と応急処置、異物の除去、運搬、体位等 心肺蘇生法（CPR）	事後：事故発生時の適切な救急処置について復習する	1H
13回	災害への備えと危機管理	事前：保育現場で必要とされている災害対策、危機管理について調べる 事後：保育現場での危険箇所をまとめる 住居地のハザードマップを調べる	1H 1H
14回	災害への備えと危機管理 ベットメイキング	事前：災害時の非常持ち出し品と備蓄品について調べる 事後：災害時における保育士の役割を考える	1H 1H
15回	病児・病後児保育、保健だより発表	事前：居住地の病児・病後児施設を調べる 事後：保健情報の効果的活用方法について考える	1H 1H
16回	テスト		
テキスト	公益財団法人児童育成協会監修 松田博雄・金森三枝編集「子どもの健康と安全」2, 000円(税別) 沖縄県小児保健協会発行「親子健康手帳」(前期より引き続き使用)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業の中で紹介		
授業の評価 方法・基準	定期試験(60%)、保健便り(30%)、授業態度、演習への参加及び発表等(10%)		
履修条件	授業態度、討議への参加及び発表、提出物等		
関連科目・次の ステージ	「乳児保育」等の関連科目を復習すること。また授業で学んだ内容を日常生活で可能な限り実践すること。さらに「子どもの栄養」「障害児保育」等につなげて学習を深めること。		
オフィスアワー	授業終了後		
受講生へのメッ セージ	この授業で学んだことを、自分の生活に取り入れることで健康作りに役立てるとともに、周りに伝えることで子ども達や社会の健康作りにも役立っていることを考えて進めていきますのでともに考えていきましょう。また実習で学んだことを積極的に実践して欲しいです。		

科目区分	専門	科目名	子どもの食と栄養 (後半)	担当者	中本直美・笠原寛子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格、認定子ども園の教諭、幼稚園教諭二種免許				
授業の到達目標	<p>健康な食生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について学習する。実習を通しての食品や栄養についての理解を深め、保育現場での食育実践の基礎づくりを目指す。</p> <p>また、子どもの食の安全対策や災害への備と安全確認の対応、地域の関連機関等の連携体制を学ぶ。</p>								
授業概要	<p>栄養に関する基本的知識、子どもの発育発達の特徴、食生活のあり方を学ぶ。</p> <p>調理実習を通して講義の内容に対して理解を深め子どもと保護者への支援が出来る力を培う。</p> <p>さらに乳幼児期の栄養状態は、将来の食習慣にも影響を与え生涯を通じた健康、生活習慣病予防の長期的視点や現状を把握し、離乳期からの発達段階における基本を調理の基礎と適切な食事支援の方法などを実践的に学ぶ。仲間との共同作業やグループワークを通して、コミュニケーション能力を身につける。常に問題意識を持ち自らの学習能力を発揮し、仲間と共有する力も習得する。食育については、食育計画、実践演習を重ね、頭脳への五感を豊かにし、心身を成長させる。</p> <p>「食を営む力」の基礎を「生きる力」に繋げる。学生自ら食への意識や食生活を省み、保育士としての役割を身につける。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎	=DP 達成の為に特に重要な項目							
	○	=DP 達成の為に重要な項目							
	△	=DP 達成の為に望ましい項目							
			授業計画			時間外学習		時間	
1回			・オリエンテーション、子どもの健康と食生活の意義 ・乳幼児期の現状と栄養アセスメント			事前:テキストの内容と配布資料の説明(シラバス) 事後:食生活の現状と課題データの読み取り		2H 2H	
2回			・栄養の基礎知識(消化吸収のしくみ、食べ物のゆくえ) ・糖質の種類と消化、吸収			事前:栄養の基礎知識の資料配布調べ学習 事後:ワークシートまとめ		2H 2H	
3回			・栄養素の種類と働き、機能たんぱく質の種類と消化、吸収 ・脂肪の種類と消化、吸収・食物繊維と水の働き・栄養素の意義			事前:栄養素の資料配布と調べ学習 事後:配布プリントの復習をする。		2H 2H	
4回			・ビタミン、ミネラルの栄養機能と欠乏症について ・食品成分と種類・食事摂取基準・国の健康支援、			事前:栄養の基礎知識、資料とテキストの予習 事後:(課題)自分の食事を書き出し評価する		2H 2H	
5回			・ライフステージ栄養・食事の基礎知識 ・献立作成・調理の基本・自分の食生活の見直し			事前:資料配布と食生活の見直しのシート作成 事後:献立作成、資料配布ワークシートまとめ		2H 2H	
6回			・子どもの発育・発達機能や栄養について理解する(乳児栄養) ・授乳離乳期の子どもの栄養・食生活(授乳・離乳の支援ガイド)			事前:資料配布(資料の読み取り) 事後:資料配布ワークシートの作成		2H 2H	
7回			・離乳食実習(調理の基本、形態、進め方、咀嚼機能) ・実習のまとめ(グループワーク)			事前:離乳食実習の進め方と調理形態の予習 事後:離乳食の課題と対応、実習のまとめを復習		2H 2H	
8回			・幼児期の心身の発達と食生活の特徴と問題点 ・幼児食期の食事摂取			事前:配布資料の確認テキストの予習・調べ学習 事後:資料配布ワークシートまとめ		2H 2H	
9回			・幼児食実習(保育園の園児食) ・実習のまとめグループワーク			事前:メニューの作業手順・確認、 事後:テキストの予習・資料配布学習		2H 2H	
10回			・学童期・思春期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活 ・学校給食・学校給食の現状及び学校教諭制度について			事前:ライフステージ資料の調べ学習 事後:資料のまとめ復習		2H 2H	
11回			・食育の基本と食育における養護と教育の一体化 ・食育の内容と計画及び評価(食育の媒体づくり)			事前:食育の基本・食育に関する指針を学習 事後:食育媒体づくり・ワークシートまとめ		2H 2H	
12回			・食育実習(食育の実践、実習及び課題のまとめ) ・グループワーク学習:食に関する保護者支援・地域との連携			事前:実習メニューの確認・食育資料作成 事後:第3時食育推進基本計画の概要、資料整理		2H 2H	
13回			・保育所における食育推進の計画(保育と連動した食育実践) ・食育の実践発表に向けての資料づくりと食に関する課題			事前:食育計画案作成と調べ学習 事後:課題のまとめ・資料配布確認		2H 2H	

14回	・児童福祉施設や家庭における食と栄養・食に関する地域との連携 ・食の安全・保育所における緊急時・災害時への備えと対応	事前：配布資料の調べ学習・課題の予習 事後：資料の復習・内容確認・レポート整理	2H 2H
15回	・特別な配慮を要する子どもの食と栄養・病態による食事の対応 ・まとめ学習（子どもの発育・発達・食生活関連を総括する）	事前：資料の読み取り、テキストの予習 事後：学習のまとめ（定期試験の範囲の学習）	2H 2H
16回	・試験（60分）・保育所における保護者からの質問資料の配布 ・食育実践発表・食育シートのまとめ（グループ討議）	事前：試験範囲の資料の復習 食育実践に向けての媒体確認とレポート提出	2H
テキスト	子どもの食と栄養 中山書店		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 講義の際に、随時紹介する。 ・新保育所保育士指針・母子健康手帳・授乳、離乳の支援ガイドライン・食育に関する指針・アレルギー対応のガイドライン ・食事の提供ガイドライン・教育・保育施設にお事故防止及び発生時の対応のためのガイドライン・感染症対策ガイドライン ・減災・防災ガイドライン(備蓄食品の紹介)・栄養成分表・食育絵本「からだ」アレルギー絵本・食育カルタ(沖縄編)		
授業の評価 方法・基準	受講態度 10% レポート20% グループワークへの参加度20% 試験50% *実習等共同作業の単元は欠席しないこと。		
履修条件	実習時には衛生面への配慮、服装をきちんと整える。爪は短く切り、ネイルはつけない。(衛生・安全上の観点から注意) (エプロン、三角巾、手拭きタオルを持参すること)		
関連科目・次のステージ	新・保育所保育指針に適用される保育に関する基本原則・共有すべき事項、健康増進法に基づく子どもの健康及び安全の支援 (子どもの発育・発達、感染症を含む安全管理、母子保健の理解が必要)保育における養護と教育の展開されることに留意する		
オフィスアワー	授業終了後 教室又は空室(事前調整で対応)		
受講生へのメッセージ	子どもの食と栄養に関して現状の課題を直視し整理するスキルを学び、目指す方向性を自覚しましょう。 毎日の自分の食生活に関心を持ち楽しく学びましょう。		

科目区分	専門	科目名	生徒指導	担当者	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校2種必修				
授業の到達目標	生徒指導は学習指導とともに、学校教育の基本的な機能である。学校内の様々な生徒指導場面における基本的な対応力を身につけるとともに、授業や行事等における実践的指導力を習得する。								
授業概要	近年、価値観や児童が多様化し、生徒指導は複雑化・困難の度を増してきている。生徒指導の理論を理解するとともに、教育現場の具体的事例を学びながら生徒指導の基礎を身につけ、生徒指導が実践できる資質・能力を育成する。また積極的な生徒指導を行うことで、児童生徒の生きる力を支援できるようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション、生徒指導の意義				事前：生徒指導の意義について調べておく 事後：生徒指導の重要性をまとめる				
2回	生徒指導と教育課程に基づく指導との関係				事前：教育課程の位置づけを調べておく 事後：生徒指導と教育課程の位置・関係づけをまとめる				
3回	特別活動・課程外活動と生徒指導				事前：特別活動等との関係を調べておく 事後：特別活動・課程外活動との関係をまとめる				
4回	児童生徒の心理と児童生徒理解				事前：児童生徒の心理状況を調べておく 事後：児童生徒の心理及び実態をまとめる				
5回	子どもの問題行動に対する指導① いじめ・校内暴力等				事前：いじめ問題等について調べておく 事後：いじめ問題等の指導対策をまとめる				
6回	子どもの問題行動に対する指導② 薬物乱用・万引き等				事前：薬物乱用等について調べておく 事後：薬物乱用等の指導対策をまとめる				
7回	生徒指導の課題と児童理解				事前：生徒指導の課題について調べておく 事後：生徒指導の課題と対策をまとめる				
8回	生徒指導と学級経営① 規範意識				事前：学級の規範意識について調べておく 事後：規範意識を学級経営に生かすようにまとめる				
9回	生徒指導と学級経営② 居場所づくり				事前：居場所づくりについて調べておく 事後：学級経営の中で居場所づくりの重要性をまとめる				
10回	命と心の教育と生徒指導				事前：命と心の教育について調べておく 事後：生徒指導と命及び心の教育との関係をまとめる				
11回	学級崩壊に対する生徒指導				事前：なぜ学級崩壊が起こるのか調べておく 事後：学級崩壊を起こさせない指導をまとめる				
12回	インターネット・携帯問題に対する生徒指導				事前：インターネット・携帯等の問題について調べておく 事後：インターネットや携帯等の正しい使				

		い方などまとめる	
13回	学校における指導体制	事前：校内の指導体制について調べておく 事後：学校職員全体で指導する大切さをまとめる	
14回	生徒指導の進め方	事前：どのように生徒指導を推進するのか調べておく 事後：生徒指導主任を中心に計画的・継続的に推進することをまとめる	
15回	家庭・地域・関係機関と連携した生徒指導	事前：家庭・地域・関係機関との連携について調べておく 事後：家庭・地域・関係機関との連携の大切さをまとめる	
16回	まとめのテスト及び反省と評価（ファイル提出）	事前：講義のまとめと課題を確認しておく 事後：学んだことを教育実習等に生かす	
テキスト	小学校学習指導要領解説（文部科学省）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 [授業中に随時紹介する]		
授業の評価方法・基準	テスト(70%)、授業態度(10%)、提出物(10%)、学習ファイルのまとめ(10%)等で評価する。		
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。		
関連科目・次のステージ	小学校の実践指導に生かすことができる		
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。		
受講生へのメッセージ			

科目区分	専門	科目名	幼児理解	担当者	柳生崇志	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	幼稚園教諭二種免許状(必修)				
授業の到達目標	1. 幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。								
授業概要	子どもの心身の発達が発達場面における生活や遊びの中でどのように育まれるのかを学び、その発達過程を理解し支援するための知識や方法を習得する。テキスト、スライド、映像教材などを用いながら、各回の授業で設定された課題(実演、ロールプレイング、ディスカッション、小レポートなど)に取り組む。今後行われる各種実習および就職において実際に子どもと接した時に、子どもの発達の状態や過程が理解でき、適切な支援を行うための基礎力を身につけ、その力を発展させるために主体的に考え学び続けようとする態度を形成する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	△ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画			時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション(受講案内)、幼児理解の意義			事前: 子どもの発達過程についてこれまでに学んできたことを振り返る 事後: 配布資料を読み直し、内容を十分に整理・記憶する		1h 1h			
2回	発達の個人差			第2回～第14回 (通常時;当該授業の前回および当日にとくに指示のない時) 事前: 該当する部分のテキストを読む(1h) 事後: 授業ノートの整理(1h) *その他、授業内容・進行に応じて、ディスカッションの準備や課題(小レポートや指導案作成等)への取り組みを授業内で適宜支持する。		事前: 1h 事後: 1h			
3回	生活の中の学び								
4回	遊びの中の学び								
5回	生きる力としての主体性								
6回	自己主張と自己統制								
7回	子ども集団と保育								
8回	幼児理解を深めるための保育者の態度とは								
9回	幼児理解を深めるための方法① 観察法								
10回	幼児理解を深めるための方法② 記録の仕方								
11回	子ども観と教育観								
12回	発達課題に応じた援助とかかわり								
13回	園児から児童へ								
14回	地域のなかの発達								
15回	教育の課題と教育者としての育ち(ディスカッション)			事前: 該当する部分のテキストを読む 事後: 定期試験対策計画の立案		1h 1h			
16回	試験と講評			事前: 期末試験に向けて復習する 事後: 期末試験の結果を振り返る		1h 1h			
テキスト	梅崎高行・柳生崇志編著 『保育の心理学Ⅱ』 大学図書出版								
参考資料など	柳生崇志・梅崎高行編著 『保育の心理学Ⅰ』 大学図書出版 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および各解説書								
授業の評価	期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価								
方法・基準	総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題(複数合計40%) + 受講態度(10%)								
履修条件	子どもの育ちに関連する科目(特に「発達心理学」)の内容を十分に理解していること								
関連科目・次のステージ	「発達心理学」「乳児保育」「心理学概論」「カウンセリング概論」など、心理学や発達に関する各科目の内容とリンクさせること。また、これらの科目で得た知識・技能・態度等は学外実習の実践に繋げること								
オフィスアワー	水曜午前。その他の時間は教場にて案内します。								
受講生へのメッセージ	“Heaven helps those who help themselves.” E-mail: yagyu@owjc.ac.jp 柳生研究室: 5階 5番研究室								

科目区分	専門	科目名	社会的養護内容	担当者	鳥袋朝久	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング			資格・免許要件	保育士選必			
授業の到達目標	社会的養護としての児童福祉施設における入所から退所、アフターケアに到るまでの日常生活支援や個別的、集団的援助の理解。入所児童の家族や地域社会との連携、保育士の資質と倫理などの理解、入所児童一人ひとりに寄り添う豊かな愛情。								
授業概要	講義は主に教科書と毎回配布されるプリントを活用し、必要に応じて視聴覚教材を活用する。グループワークを数多く取り入れて種々の施設の実践演習に取り組み、個々の児童へのより適切な支援について理解を深め、スキルを高める。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
		◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目							
		授業計画			時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション シラバスについての説明 社会的養護の現状について			事前: 事後:シラバス等の読み返し			0.5H		
2回	児童の権利擁護			事前:「児童の権利に関する条約」を読む 事後:児童の権利を守る仕組みを纏める			0.5H 1H		
3回	保育士等の倫理及び責務			事前:教 P24 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
4回	児童養護の体系と児童福祉施設概要			事前:施設養護の体系を纏める 事後:措置と契約についてレポート提出			1H 1H		
5回	児童養護施設の暮らし			事前:教 P72 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
6回	乳児院と母子生活支援施設の暮らし			事前:教 P75 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
7回	医療型障害児入所施設の暮らし			事前:教 P87 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
8回	児童自立支援施設と児童心理治療施設			事前:教 P100 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
9回	福祉型障害児入所施設の暮らし		小テスト	事前:教 P113 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
10回	里親制度の特徴とその実際			事前:教 P120 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
11回	心の傷(癒し・育み)			事前:教 P141 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
12回	親子関係の調整と自立支援			事前:教 P154 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
13回	ソーシャルワークの技術の活用			事前:教 P167 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
14回	施設の小規模化と地域との連携			事前:教 P208 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
15回	地域住民と施設			事前:教 P224 の演習問題に取り組む 事後:上記について批評し、纏める			1H 1H		
16回	科目終了試験			事前: 事後:					

テキスト	児童の福祉を支える—演習—社会的養護Ⅱ 吉田眞理・編著 高橋一弘・村田紋子
参考資料など	【購入を必須としないもの】 児童の権利に関する条約 児童福祉法 施設整備運営基準 里親委託ガイドライン 児童虐待防止法
授業の評価方法・基準	小テスト(30%) 科目終了試験(70%) 諸事情で小テストを受けなかった場合は、科目終了試験(100%)で評価 受講態度等(レポート含む)は減点制(最高 10 点の減点)
履修条件	社会的養護としての児童福祉施設、里親に興味関心を持つこと
関連科目・次のステージ	「児童家庭福祉」や「社会福祉援助技術」等の関連科目について復習すること。地域で支援が必要な児童に対し可能な限り適切な対応を実践すること。
オフィスアワー	講義の前後
受講生へのメッセージ	この講義で学ぶことは、地域においても子どもたち(特に障害児や被虐待児、里親委託児童など)やその家族との関り(支援)に大きくプラスになると思うので、ワクワク感を持って共に学び合いましょう。

科目区分	専門	科目名	社会的養護内容	担当者	宮本 智一	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士必				
授業の到達目標	養護に関する理論、歴史、政策、原理（原則）等を基に、児童福祉施設における専門的援助技術の活用について、現場の視点を学び身に付けることを目標とする。その中で保育士として身に付けておかなければならない日常的支援のあり方「子どもの最善の利益」を守る為の必要な姿勢・専門知識・人間性など養護の充実について具体的ケースを交えて理解を深めていくものとする。								
授業概要	テキストにある事例、「社会低養護Ⅰ」「養護原理」「施設実習」で学んだ理論と実践経験を基に、児童福祉施設における「専門家」となるための職務についての理解を深める。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目									
				授業計画		時間外学習		時間	
1回	オリエンテーション 子どもの権利擁護 子どもの権利擁護の基本			事前:子どもの権利について事前に調べる 事後:具体的な取り組みと支援をまとめる		2H	2H		
2回	社会的養護における子どもの理解 事例 「大舎制における住環境」「子どもたちへの職員のかかわり」			事前:大舎制と小舎制メリット・デメリット 事後:職員の倫理について調べる		2H	2H		
3回	社会的養護に内容 日常生活支援とは 自己の表出と自己知覚 事例「子どもの課題をアセスメントし支援方法を検討」			事前:アセスメントのポイントを調べる 事後:日常生活支援の振り返り		2H	2H		
4回	社会的養護内容 心理的支援の特徴 多面的にとらえる視点 事例「不安定になりやすい思春期の自傷行為事例の支援」			事前:思春期に関する理解 事後:福祉型障害者施設の役割と理解		2H	2H		
5回	社会的養護の内容 自立支援 退所後の支援と居場所づくり 事例「親子関係が上手くいっていない家庭への支援」			事前:子ども食堂について 事後:居場所づくりと公民館の役割		2H	2H		
6回	施設養護の生活特性および実際 乳幼児施設 事例「養育に興味のない母親への支援」			事前:赤ちゃんポストについて調べる 事後:児童養護施設と乳児院について		2H	2H		
7回	施設養護の生活の特性および実際 事例「家庭的養護と施設養護のメリット・デメリット」			事前:児童自立支援施設について調べる 事後:新たな視点について概要をまとめる		2H	2H		
8回	家庭的養護の生活特性 家庭的養護のイメージ 養育里親 事例「里親の子育てと、それを支える支援体制」			事前:養子縁組について調べる 事後:養育里親家庭で育つ子どもの理解		2H	2H		
9回	アセスメントと個別支援計画の作成 事例「アセスメントをしてみよう」			事前:自立についてとは何かを調べる 事後:子どもの依存欲求について調べる		2H	2H		
10回	記録および自己評価 記録の意義と役割 自己評価 事例「保育士に求められる記録について」(グループワーク)			事前:ケアカンファレンスとは何か調べる 事後:自己評価と第三者評価について検討		2H	2H		
11回	社会的養護における保育の専門性と知識・技術 問題行動の対応 事例「虐待を受けた子どもに対する保育士の理解と行動」			事前:専門家としての資質について考える 事後:新聞記事から虐待事例を読み解く		2H	2H		
12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践			事前:ソーシャルワークの定義を調べる 事後:非言語的かかわりの理解		2H	2H		

	事例「ソーシャルワークの視点」		
13回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） 事例「ジェノグラムの描き方と読み方」	事前:相手の立場や感情理解のポイント 事後:ジェノグラムの確認と作成	2H 2H
14回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） 事例「エコマップの描き方と読み方」	事前:サザエさんの登場人物の確認 事後:エコマップの確認と作成	2H 2H
15回	社会的養護における家庭支援（プレゼンテーション） 事例「あなたがイメージする幸せな子育て中の家庭」	事前:支援チームについて調べる 事後:身近な社会資源の確認	2H 2H
16回	筆記試験 今後の社会的養護の課題と展望（ディベート）	事前:課題と将来像について調べる	
テキスト	公益財団法人児童育成協会 社会的養護II（新・基本保育シリーズ）相澤仁 講義毎に随時紹介する		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 山縣文治 よくわかる社会的養護 春見静子 社会的養護内容 光生館		
授業の評価 方法・基準	演習形式の授業となるため、グループ活動の状況、意見交換と発表状況、レポート、テスト等から総合的に評価する 「秀」（100～90）「優」（89～80）「良」（79～70）「可」（69～60）「不可」（59以下）		
履修条件	演習に必要な情報収集を常に行うこと		
関連科目・次のス テージ	現場における実践		
オフィスアワー	金曜日		
受講生へのメッセ ージ	保育者としての人間性や専門性の向上に必要な課題に取り組んでいきます。		

科目区分	専門	科目名	教材研究図工	担当者	玉城哲人	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	小学校教諭2種免許			
授業の到達目標	小学校学習指導要領図画工作科の目標と内容を理解し、児童の豊かな感性を育み創造的に生きる資質や能力の育成を目的とする教材研究方法の知識・技術を身に付け、小学校の教育活動に活かせることができる。また、主体的・創造的に学び続け、郷土の自然と文化に誇りを持ち、地域社会に貢献する力を身につけている。								
授業概要	・小学校学習指導要領図画工作科の目標と内容を理解したうえで、児童が造形表現への興味・関心を示し一人ひとりの想いや可能性が発揮できる教材の研究（題材研究、制作技術、指導方法、観点別評価方法等）の方法を、実技演習を通して学ぶ。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション：到達目標・講義概要の説明、実技演習のねらい、受講心得、評価の方法等				事後：配布資料の読み、概要をまとめる			1時間	
2回	・造形教育の目的と内容について				事前：学習指導要領についての予習 事後：配布資料の読み、概要をまとめる			1時間 1時間	
93回	・小学校学習指導要領について（目標及び内容等）				事前：学習指導要領についての予習 事後：配布資料の読み、概要をまとめる			1時間 1時間	
4回	・A表現(1)「造形遊びをする」学習のねらいと指導の工夫 ・A表現(2)「絵(版)に表す」学習のねらいと指導の工夫				事前：配布資料の予習をする 事後：配布資料の読み、概要をまとめる			1時間 1時間	
5回	・A表現(2)「立体に表す」学習のねらいと指導の工夫 ・A表現(2)「工作に表す」学習のねらいと指導の工夫				事前：配布資料の予習をする 事後：配布資料の読み、概要をまとめる			1時間 1時間	
6回	・B鑑賞(1)「作品などを鑑賞する」学習のねらいと指導の工夫 ・材料用具かかわる基礎知識				事前：配布資料の予習をする 事後：配布資料の読み、概要をまとめる			1時間 1時間	
7回	教材研究①（低学年） 実技演習 グループワーク 題材：				事前：配布資料の予習をする 事後：配布資料の読み、概要をまとめる			1時間 1時間	
8回	教材研究②（低学年） 実技演習 グループワーク 題材：				事前：配布資料の予習をする 事後：制作レポートの作成			1時間 1時間	
9回	教材研究③（中学年） 実技演習 グループワーク 題材：				事前：配布資料の予習をする 事後：制作レポートの作成をする			1時間 1時間	
10回	教材研究④（中学年） 実技演習 グループワーク 題材：				事前：配布資料の予習をする 事後：制作レポートの作成をする			1時間 1時間	
11回	教材研究⑤（高学年） 実技演習 グループワーク 題材：				事前：配布資料の予習をする 事後：制作レポートの作成をする			1時間 1時間	
12回	教材研究⑥（高学年） 実技演習 グループワーク 題材：				事前：配布資料の予習をする 事後：制作レポートの作成をする			1時間 1時間	
13回	学習指導案の作成① グループワーク				事前： 事後：学習指導案の作成をする			2時間	
14回	指導案学習の作成② グループワーク				事前： 事後：学習指導案をまとめる			2時間	
15回	観点別評価について				事前：配布資料の予習をする 事後：配布資料の読み、概要をまとめる			1時間 2時間	
16回	テスト、総括				事前： 事後：				

テキスト	「小学校指導法図画工」(玉川大学出版部)
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「ポイントと授業づくり図画工作」(東洋館出版社)、「造形教育の手法」(明文書林)、「造形教育における授業デザインと授業分析」(東洋館出版社)。
授業の評価方法・基準	学習指導案・レポート40%、テスト20%、提出物(制作作品)30%、受講態度10%をもって総合的に評価する。
履修条件	小学校教諭2種免許の取得を希望する者
関連科目・次のステージ	
オフィスアワー	月曜日 3校時、金曜日 5校時、プレイルーム、又は玉城研究室 5階 18番
受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の現場では、児童の「感性」を育てることも大切にしています。子ども達の感性に寄り添うには「教師自身の感性」も大切です。授業を通して、自ら表現する楽しさや面白さを発見してください。 ・各自で材料や用具を用意することもあります。 ・学習指導案、レポート、作品等の提出期限を守ってください。 ・進度によっては内容を変更することもあります。

科目区分	専門	科目名	乳児保育Ⅱ	担当者	神山浩子・大石洋子	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士必須				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0, 1, 2歳児の発育・発達を理解し、基礎理論を踏まえた養護・教育の一体性について理解する。 ・ 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の意義・目的及び子育て支援について学び、乳児保育に求められる役割を認識し課題意識をもつ。 								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳未満児にふさわしい教材を製作・発表し、子どもの発達と遊びの特徴など具体的に学習する。 ・ 子育て支援のあり方や保育の計画と記録の必要性について演習を通して学ぶ。 								
ディプロマホルダー(DP)と授業の対応	<input checked="" type="radio"/> ①常に問題意識を持ち、積極的な課題の発見やそれに対する解決方法を立案・実行できる能力(課題発見力・計画力・創造力・実行力)								
	<input checked="" type="radio"/> ②自分の考えをきちんと順序立てて説明し、相手を説得する能力(コミュニケーション能力)								
	<input type="radio"/> ③結果を冷静に振り返り、統括し、周囲と共有することのできる能力(状況把握力・前に踏み出す力)								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習			時間	
1回	授業概要の説明 養護に関する基本的事項			事後：保育所保育指針第1章「総則」で確			2H		
2回	乳児の遊び・おもちゃ(教材)の考え方			事前：教科書、配布プリントで予習 事後：乳児の発達に応じたおもちゃについて理解			2H 2H		
3回	乳児の遊びと環境(観察・環境構成・援助のあり方)(演習)			事前：教科書(体験と遊び)を予習 事後：発達過程に応じた遊びについて資料で確認			2H 2H		
4回	乳児の発達と遊び(6か月未満児の教材発表)			事前：教材(手作りおもちゃ)発表の予習 事後：発達に応じた安心・安全な遊具について理解			2H		
5回	乳児の発達と遊び(6か月～1歳3ヶ月児未満児の教材発表)			事前：教材(手作りおもちゃ)発表の予習 事後：発達に応じた安心・安全な遊具について理解。			2H 2H		
6回	乳児の発達と遊び(1歳3か月～2歳未満児の教材発表)			事前：教材(手作りおもちゃ)発表の予習 事後：発達に応じた安心・安全な遊具について理解			2H 2H		
7回	乳児の発達と遊び(2歳児の教材発表)			事前：教材(手作りおもちゃ)発表の予習 事後：発達に応じた安心・安全な遊具について理解			2H 2H		
8回	乳児保育における保健・安全			事前：保育所保育指針第3章「健康及び安全」予習 事後：SIDS・食物アレルギー・感染症等を理解			2H 2H		
9回	子育て支援「連絡帳の書き方」(演習)			事前：保育所保育指針・子ども園保育要領予習 事後：配布プリントで確認			2H 2H		
10回	乳児保育の計画・指導計画(0歳児～2歳児)			事前：保育所保育指針「保育の計画及び評価」予習 事後：配布プリントで確認			2H 2H		
11回	個人別計画の必要性(演習)			事前：保育所保育指針(指導計画の作成)予習 事後：配布プリントで確認			2H 2H		
12回	保育の記録「保育日誌・児童票」			事前：保育所保育指針「第1章」総則予習 事後：配布プリントで確認			2H 2H		
13回	食事の部分指導案作成(演習)			事前：部分指導案についてプリントで予習 事後：指導案作成の重要性について演習で理解			2H 2H		
14回	「遊び」の部分指導案作成(演習) 実習日誌の書き方			事前：部分指導案についてプリントで予習 事後：個々の発達過程に応じた援助のあり方を確認			2H 2H		
15回	関係機関との連携・乳児保育の課題(演習)			事前：乳児保育の課題について情報収集 事後：乳児保育の課題について確認する			2H 2H		
16回	テスト			統括 後期授業の振り返り					

テキスト	見る・考える・創り出す乳児保育 I・II 萌文書林 (¥1,900+税) ・保育所保育指針解説書
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業の中で適宜紹介する。プリント
授業の評価方法・基準	課題への取り組み 20% ・授業態度・演習態度 10% ・レポート 20% ・テスト 50% 総合的に評価する。
履修条件	日常的に福祉や保育に関する情報に関心を持つ。
関連科目・次のステージ	「子どもの保健」や「子どもの食と栄養」などの関連科目について復習する。また授業で学んだ内容を日常生活でそのつど実践する。
オフィスアワー	授業の前後で調整する。
受講生へのメッセージ	身近な環境で生活する3歳未満児や、保育関連の情報等に興味関心を持ち、授業につなげていきましょう。

科目区分	専門	科目名	障がい児保育II	担当者	嘉数睦・羽地知香	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格必修				
授業の到達目標	<p>特別な支援が必要な子どもに対してインクルーシブな視点から支援をすることの重要性知り学びを深める。また障害特性を知り、具体的な支援方法を学ぶことで実践に結び付けていく。(羽地担当)</p> <p>障がいのある子どもの支援や学校教育との連携についての知識、技能について「自立活動」の内容から協働してまとめ、個別の支援・指導計画について説明できる力を身に付ける。(嘉数担当)</p>								
授業概要	<p>障がい児やその他の特別な支援が必要な子どもに対して具体的な支援方法や地域社会で生活をしていくための包括的支援や合理的配慮について学び、課題を解決していくための力をつけていく。特に就学に向けての支援のシステム、つなぎ方を学び、途切れない継続的な支援の方法を学ぶ。発達と障害特性をベースに障がいのある子・特別な支援が必要な子に対しての実践的な保育内容を学び、丁寧な保育と保護者への支援の方法を学ぶ。(羽地担当)</p> <p>この授業では、「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」から、障害種別の具体的指導内容例と留意点についてグループにてPCエクセル様式で一覧表を作成し、障害種別の教育的ニーズを理解する。また、その障害の実態に応じた具体的な支援、指導計画の作成イメージを掴み、校内でその報告説明し評価を受けるという体験にて校内支援の協働を習得する。(嘉数担当)</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<p>△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける</p> <p>◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。</p> <p>◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。</p> <p>○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。</p> <p>◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目</p>								
						授業計画	時間外学習		時間
1回	授業の概要と障害種別(知的、視覚、聴覚、肢不、病弱、情緒、自閉、LD、ADHD) グループ編成と作業分担計画書作成(嘉数)			事前: 教科書「学習指導要領解説自立活動編」読み込み					1H 1H
2回	グループワーク:障害別の「自立活動」の区分から障害種別の具体的指導内容例と留意点をPCエクセル様式にて一覧資料を作成(嘉数)			事前: 割り当て障害種別の具体的指導内容例と留意点を自立活動区分別にマークする					1H 1H
3回	グループワーク:”(嘉数)			事前: 教科書から障害種別の具体的指導内容例と留意点を自立活動区分別に読み込む					1H 1H
4回	グループワーク:” ・ゲスト(特別支援学校幼稚部担当教諭)の自立活動の実践(嘉数)			事前: 作成資料の確認、事例報告での新たな視点、自分の考え確認					1H 1H
5回	グループ別プレゼンと評価:障害別事例をあげ作成した「自立活動」の捉えと具体的な支援、指導計画を校内委員会想定で報告し質疑、評価を受ける(嘉数)			事前: 具体的な支援、指導計画の点検と報告の準備					1H 1H
6回	”(嘉数)			事前: 作成資料の確認、事例報告での新たな視点、自分の考え考察					1H 1H
7回	”(嘉数)			事前: 作成資料の確認、事例報告での新たな視点、自分の障害の捉え、支援・指導計画の考察					1H 1H
8回	”:授業のまとめ、自己及び個別評価のレポート提出(嘉数)			事前: 障害の捉え、支援・指導計画の考察					1H 1H
9回	自閉症スペクトラム障害・ADHD・LDの障害特性理解と具体的な対応(羽地)			事前: 「自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援「自閉症スペクトラム障害のとらえ方」P56～59 障がい児保育Iで調べ学習でまとめた資料を確認					1H 1H
				事後: 障がい児保育Iで行った調べ学習でまとめた資料への補足					

10回	知的障害・ダウン症の障害特性と対応について(羽地)	事前: 学習第2部障害の特徴と保育の実際Ⅲ「知的障害児の特徴と保育での支援」P46・47 P50・51の予習、障がい児保育Ⅰで調べ学習での資料の確認と補足 事後: 学習のまとめ	1H 1H
11回	病弱・肢体不自由児の特徴と対応 医療ケアの必要な重度の障害児について(羽地)	事前: 「その他の障害の特徴と保育での支援」肢体不自由児の特徴P120～123 予習 事後: 障がい児保育Ⅰで調べ学習での資料の確認の補足	1H 1H
12回	視覚障害と聴覚障害の特徴と対応について(羽地)	事前: 「その他の障害と保育での支援・資格支援の特徴」P108～113の予習 図書館にある点字絵本を見ておくこと 事後: 学習のまとめ 改めて点字絵本に触れる	1H 1H
13回	特別な教育ニーズがある子どもの理解、配慮が必要な子どもアセスメントについて、支援者の役割(羽地)	事前: 保育所保育指針 P336 幼稚園教育要領解説 P129 予習・「障害児へのアセスメント」P180・181・184・185・192・193の予習 事後: 学習のまとめ	1H 1H
14回	こどもが主人公になる保育(感覚的なあそびの紹介) 障害特性をふまえた環境構成について 障がいの特性に合わせたあそびの展開を考える(グループ学習)(羽地)	事前: 障がい児保育Ⅰで行った調べ学習の見直し、「ムーブメント教育療育について」P214～217の確認 事後: 学習のまとめ	1H 1H
15回	障害の受け止め きょうだいを支える・愛着と関係性の問題 試験は範囲の確認(羽地)	事前: 「障がいの子に向き合うということ」P164・165の確認 事後: 学習のまとめ	1H
16回	試験(羽地)	事前: 試験範囲の確認 事後: 特になし	
テキスト	「よくわかる障害児保育」第2版 尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ミネルヴァ書房(羽地担当) ・文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』平成30年3月発行 開隆堂出版社 159円+税(嘉数担当)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 保育者のためのテキスト 障害児保育 編 近藤直子・白石正久・中村尚子 全障研出版 保育所保育指針解説 平成30年3月厚生労働省編 幼稚園教育要領解説 平成30年3月文部科学省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省 子どものねがいこどものなやみ 乳幼児の発達と子育て 改定増補版 白石正久著 クリエイツかもがわ 小林倫代編・著「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト」学研教育みらい(嘉数) 尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編『よくわかる障害児保育〔第2版〕』ミネルヴァ書房(嘉数)		
授業の評価方法・基準	試験60%、ショートレポート20%、授業後のコメントシート20%(羽地) グループによる資料の完成度40%、グループワークへの参加度10%、プレゼン(自己及び他者評価レポート)30%、ショートレポート20%で評価・グループ作成の資料は、授業でその都度、全員に配布。ショートレポートは評価後、各自にフィードバックを行う(嘉数)		
履修条件	実習を終了していることが望ましい		
関連科目・次のステージ	「特別支援教育概論」「障がい児保育Ⅰ」		
オフィスアワー	授業終了後		
受講生へのメッセージ	実践的な授業を通して、障がい児に対する支援が安心して行える事を目指します。保育所・幼稚園・福祉施設など様々な場で活躍するためのシステムの流れを学び、途切れない支継続的な支援が出来る様になることを目指します。特に障がい児保育Ⅱでは、また、障害特性を学び、一人ひとりの発達を大切に考えた保育を実践が行えるようになることを目指し、障がい児・特別な支援が必要な子ども達の一番の理解者になる為の学びの講義です。子どもたち、一人一人が笑顔になる保育士になりましょう。(羽地) ・授業計画は担当者(羽地、嘉数)により、後半(9回～16回)に替わる場合がある。 ・課題の提出期限は厳守すること。授業後には、ショートレポート提出、次回にそのまとめ資料を配布する(嘉数)		

科目区分	専門	科目名	障がい児保育II	担当者	嘉数陸・羽地知香	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格必修			
授業の到達目標	<p>特別な支援が必要な子どもに対してインクルーシブな視点から支援をすることの重要性を知り学びを深める。また障害特性を知り、具体的な支援方法を学ぶことで実践に結び付けていく。(羽地担当)</p> <p>特別支援教育の理念と制度、特別支援教育の基礎用語及び障害種の基礎的知識を理解している。就学の手続きと特別支援教育の多様な学びの場の対象とする障害の特性と支援のあり方を概括的に理解できる。自ら課題意識を持って学習し、自分の考えを説明できる力を身につけ、組織的な対応、実践につなげる態度を身に付ける。(嘉数担当)</p>								
授業概要	<p>障がい児やその他の特別な支援が必要な子どもに対して具体的な支援方法や地域社会で生活をしていくための包括的支援や合理的配慮について学び、課題を解決していくための力をつけていく。特に就学に向けての支援のシステム、つなぎ方を学び、途切れない継続的な支援の方法を学ぶ。発達と障害特性をベースに障がいのある子・特別な支援が必要な子に対しての実践的な保育内容を学び、丁寧な保育と保護者への支援の方法を学ぶ。(羽地担当)</p> <p>この授業では、特別な支援を要する子の特性と特別支援教育の理念、インクルーシブ教育システム制度の知識と支援の継続方法等の概説から障害のある子の就学に際しての知識・理解を説明できる。視聴覚教材等補助資料や指導例、発表の機会の設定を通して、途切れない支援の計画の作成、実施に活かす支援の方法、保護者や関係機関との連携などの理解、実践への意欲、態度を身につける。(嘉数担当)</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	授業の概要、障害のある子の出生と家族(嘉数)				事前：教科書 事後：配布資料の読み返し、課題レポート作成			1 H	1 H
2回	就学に向けて①「障がい児とライフコース」と本県における特別支援学校について(嘉数)				事前：教科書Ⅱ-4「障がい児とライフコース」の読み 事後：配布資料の読み返しと本県の特別支援学校の確認			1 H	1 H
3回	就学に向けて②「就学時健康診断と就学基準」特別支援教育の対象・就学の手続き(嘉数)				事前：教科書Ⅱ-6「就学時健康診断と就学基準」読み込む 事後：配布資料の読み返しと就学の流れの考察			1 H	1 H
4回	就学に向けて③「知的障害のとらえ方」知的障害児の特性、特別支援学校、支援学級の特色(嘉数)				事前：教科書Ⅲ-1「知的障害のとらえ方」、コラム4、2「知的障害の認知の特徴」、5「基本的習慣の確立」の読み込み 事後：配布資料の読み返しと教育課程の特色の考察			1 H	1 H
5回	就学に向けて④「肢体不自由児の特徴、保育」と病弱児の特性、特別支援学校と支援学級の特色(嘉数)				事前：教科書Ⅶ-5「肢体不自由児の特徴」、6「肢体不自由児の保育」読み込み 事後：配布資料の読み返しと病弱の定義の考察			1 H	1 H
6回	就学に向けて⑤視覚障害・聴覚障害の特性、特別支援学校、支援学級の特色(嘉数)				事前：教科書Ⅶ-1「視覚障害児の特徴」、2「視覚障害児の保育」3「聴覚障害児の特徴」読み込み 事後：配布資料の読み返し、身体障害者手帳の考察			1 H	1 H
7回	事例グループワークとプレゼン 就学に向けて⑥「保育所内・園内委員会の位置づけと特別支援教育コーディネーターの役割」途切れない支援(個別の教育支援計画)作成と発表(嘉数)				事前：教科書Ⅸ-1「保育所内・園内委員会の位置づけと特別支援教育コーディネーターの役割」3「チームで取り組む個別の支援、保育計画」読み込み 事後：グループワークと発表内容の考察			1 H	1 H
8回	特別支援教育の制度、インクルーシブ教育システム、就学に向けてのまとめと小テスト(嘉数)				事前：教科書、配布資料の読み返し、整理 事後：なし			1 H	1 H

9回	自閉症スペクトラム障害・ADHD・LDの障害特性理解と具体的な対応(羽地)	事前:「自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援「自閉症スペクトラム障害のとらえ方」P56～59 障がい児保育Ⅰで調べ学習でまとめた資料を確認 事後:障がい児保育Ⅰで行った調べ学習でまとめた資料への補足	1H 1H
10回	知的障害・ダウン症の障害特性と対応について(羽地)	事前:学習第2部障害の特徴と保育の実際Ⅲ「知的障害児の特徴と保育での支援」P46・47 P50・51の予習、障がい児保育Ⅰで調べ学習での資料の確認と補足 事後:学習のまとめ	1H 1H
11回	病弱・肢体不自由児の特徴と対応 医療ケアの必要な重度の障害児について(羽地)	事前:「その他の障害の特徴と保育での支援」肢体不自由児の特徴P120～123 予習 事後:障がい児保育Ⅰで調べ学習での資料の確認の補足	1H 1H
12回	視覚障害と聴覚障害の特徴と対応について(羽地)	事前:「その他の障害と保育での支援・資格支援の特徴」P108～113の予習 図書館にある点字絵本を見ておくこと 事後:学習のまとめ 改めて点字絵本に触れる	1H 1H
13回	特別な教育ニーズがある子どもの理解、配慮が必要な子どもアセスメントについて、支援者の役割(羽地)	事前:保育所保育指針 P336 幼稚園教育要領解説 P129 予習・「障害児へのアセスメント」P180・181・184・185・192・193の予習 事後:学習のまとめ	1H 1H
14回	こどもが主人公になる保育(感覚的なあそびの紹介) 障害特性をふまえた環境構成について 障がいの特性に合わせたあそびの展開を考える(グループ学習)(羽地)	事前:障がい児保育Ⅰで行った調べ学習の見直し、「ムーブメント教育療育について」P214～217の確認 事後:学習のまとめ	1H 1H
15回	障害の受け止め きょうだいを支える・愛着と関係性の問題 試験は範囲の確認(羽地)	事前:「障がいの子に向き合うということ」P164・165の確認 事後:学習のまとめ	1H
16回	試験(羽地)	事前:試験範囲の確認 事後:特になし	
テキスト	「よくわかる障害児保育」第2版 尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ミネルヴァ書房(羽地担当)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 保育者のためのテキスト 障害児保育 編 近藤直子・白石正久・中村尚子 全障研出版 保育所保育指針解説 平成30年3月厚生労働省編 幼稚園教育要領解説 平成30年3月文部科学省 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説 平成30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省 子どものねがいこどものなやみ 乳幼児の発達と子育て 改定増補版 白石正久著 クリエイツかもがわ		
授業の評価方法・基準	試験60%、ショートレポート20%、授業後のコメントシート20%(羽地) ・定期試験(小テスト)50%、レポート(ショート、課題)40%、グループワークへの参加度10%で評価。・ショートレポートは評価後フィールドバックする(嘉教)		
履修条件	実習を終了していることが望ましい		
関連科目・次のステージ	「障がい児保育Ⅰ」		
オフィスアワー	授業終了後		
受講生へのメッセージ	実践的な授業を通して、障がい児に対する支援が安心して行える事を目指します。保育所・幼稚園・福祉施設など様々な場で活躍するためのシステムの流れを学び、途切れのない支継続的な支援が出来る様になることを目指します。特に障がい児保育Ⅱでは、また、障害特性を学び、一人ひとりの発達を大切に考えた保育を実践が行えるようになることを目指し、障がい児・特別な支援が必要な子ども達の一番の理解者になる為の学びの講義です。子どもたち、一人一人が笑顔になる保育士になりましょう。(羽地) ・授業計画は担当者(羽地、嘉教)により、後半(9回～16回)に替わる場合がある。 ・課題の提出期限は厳守すること。毎授業後ショートレポート提出、次回にそのまとめ資料を配布する(嘉教)		

科目区分	専門	科目名	家庭支援論	担当者	島袋裕美(実務経験者)	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士必修 児童厚生2級指導員必修						
卒業要件との関連性									
授業の到達目標	現代社会における家族・家庭の役割や機能及び現状を把握し、必要とされる支援のあり方を考察する。併せて保育や教育現場等における支援者の役割や基本姿勢、関係機関との連携のあり方について学ぶ。								
授業概要	家庭を取り巻く社会状況の把握や、多様化している家庭における様々なニーズを踏まえ、子育て支援の現場と家庭とが一連の流れとなる支援のあり方を考察する。また、支援者自身の感情への気づきについても学び、子どもや保護者への向き合い方を習得する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション(「家庭支援論」の目的と社会背景)	事後 子どもを産み育てることの意義を考えてみる						
	2回	なぜ家庭支援が必要なのか (1) 家庭の役割と機能 ライフスタイル	事前 「子どもの権利条約」の掲げる4つの権利とは 事後 「自分史のエピソード」を考える(様式配布)						
	3回	なぜ家庭支援が必要なのか (2) 多様化した様々な家族形態	事前 様々な家庭の姿 教科書(P6~P14) 予習 事後 配付資料の読み返し						
	4回	家庭支援の原理 その(1) 家庭支援に求められる視点	事前 少子化、核家族化に伴う子育て上の悩みとは 事後 名前の由来						
	5回	家庭支援の原理 その(2) 家族発達の理解(適応と変化)	事前 教科書P28~P36 予習 事後 ジェノグラムを書く						
	6回	育ちのエピソードについて(共有とフォロー)	事前 事後 新聞スクラップの題材集め(全8回:週単位で提出)						
	7回	現代の家族の諸相 (1) 子育てをめぐる様々な思い(葛藤的感情)	事前 教科書(P49~P64) 予習 事後 関わりの難しい子、扱いにくい子ども						
	8回	現代の家族の諸相 (2) 支援者としての理解と対応の方法(演習) 名前の由来と親の願いを共有する	事前 教科書(P108~P111) 予習 事後 演習内容の振り返り						
	9回	家庭を取り巻く現状 少子化・高齢化、核家族化の進展と若者意識	事前 教科書(P67~P71) 予習 事後 配付資料の読み返し						
	10回	家庭支援を支える法と制度	事前 教科書(P77~P96) 予習 事後 配付資料の読み返し						
	11回	子育て支援サービスの現状 様々な子育て支援サービスと各種の手当	事前 各種の手当を調べる 事後 身近な市町村の子育てサービスや手当を確認する						
	12回	県内の児童虐待の現状とDVについて	事前 虐待の理解と家庭支援(P167~P180)を予習 事後 支援者としての向き合い方を振り返る						
	13回	家庭支援のための枠組	事前 教科書(P107~P121)を予習 事後 保護者への配慮を振り返る						
	14回	子どもにとって、保護者にとっての家庭支援の基本的姿勢	事前 教科書(P192~P197) 予習 事後 配付資料の読み返し 定期試験の対策						
	15回	定期試験							
	16回	試験の解説と講義全般のまとめ	事前 なし 事後 支援者としてのあり方の振り返り						
テキスト	保育の場で出会う「家庭支援論」(建帛社) 松村和子・澤江幸則・神谷哲司 編著								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 適宜紹介します								
授業の評価方法・基準	試験 60% プリント等の提出状況と記載内容等: 40%								
履修条件	新聞記事等から日常的に福祉、教育、保育の動向に関心を持つこと。関連記事のスクラップ&考察も行います。								
関連科目・次のステージ									

イブスター	
受講生への メッセージ	授業内容を支援者の立場のみならず、自分自身の生活にも関連づけて活用してもらえると嬉しいです。
実務経験	児童相談所での勤務経験を通じて、実例を挙げながら、より実態に沿った家庭支援の実際を概説する。

科目区分	専門	科目名	家庭支援論	担当者	垣花道朗	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士必修、児童厚生2級指導員必修				
授業の到達目標	保育専門職として家庭支援の知識及び支援の基礎を身に付けており、実際に保護者・家庭支援に関する場面において、相談者の現状に応じた適切な対応及び情報提供並びに専門機関や地域の社会資源と連携・協力を円滑に図ることができる。								
授業概要	日本の家族の在り方についての変遷、現代の子育て家庭を取り巻く社会情勢の現状と課題を学び、家庭や保護者が抱える悩みや生きづらさ等を理解した上での適切な保護者対応及び保護者支援について個人ワーク等を通して、実践で活用できる支援スキルの基礎を身に付けることができる。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション				事前: 事後:最近の子どもに関わる新聞記事をリサーチ			1h	
2回	子育てと家族と家庭の歴史と現在				事前:最近の子どもに関わる新聞記事をリサーチ 事後:沖縄の子育て世帯の現状について調べる			1h 1h	
3回	沖縄の子育て世帯の現状と課題				事前:沖縄の県民所得や非正規雇用について調べる 事後:全国と沖縄の現状について振り返り			1h 1h	
4回	子育て家庭を取り巻く社会環境の変化				事前:日本の家庭支援の歴史を調べる 事後:配布資料の振り返り			1h 1h	
5回	子育て意識の変化と「困難」な子育て				事前:ひとり親家庭の現状について調べる 事後:沖縄と全国のひとり親家庭の現状の振り返り			1h 1h	
6回	子育てにおける父親の役割と女性活躍推進法				事前:女性活躍推進法について調べる 事後:子どもの貧困関連の新聞記事をリサーチ			1h 1h	
7回	子どもの貧困と居場所				事前:沖縄の子どもの貧困について調べる 事後:配布資料で復習			1h 1h	
8回	家庭支援の構造と理念				事前:家庭支援の理念について調べる 事後:配布資料で復習			1h 1h	
9回	子育て家庭を支える制度と政策				事前:子ども・子育て支援新制度について調べる 事後:あなたの地域にある家庭支援事業を調べる			1h 1h	
10回	相談・援助者の役割と基本的な態度				事前:相談援助の基礎について調べる 事後:配布資料で復習			1h 1h	
11回	子育て家庭支援のあり方				事前:沖縄の家庭支援について調べる 事後:配布資料の振り返り			1h 1h	
12回	保育園に通う家庭への支援				事前:保育園における家庭支援について調べる 事後:配布資料の振り返り			1h 1h	
13回	特別なニーズを持つ家庭と援助				事前:障がいを持つ児童の保護者支援について調べる 事後:配布資料の振り返り			1h 1h	
14回	児童虐待に対する子ども及び家庭支援				事前:児童虐待、DVについて調べる 事後:配布資料の振り返り			1h 1h	
15回	世界の家庭支援				事前:事前配布資料を読んでくる 事後:配布資料の振り返り、テスト勉強			1h 1h	

16回	テスト	事前:テスト勉強 事後:
テキスト	指定図書なし 講義内容に即したレジュメと資料を配布する。	
参考資料など	【購入を必須としないもの】 ○沖縄の保育・子育て問題【浅井春夫・吉葉研司 編著】 ○沖縄子どもの貧困白書【沖縄子ども総合研究所編 かもがわ出版】	
授業の評価 方法・基準	授業への取り組み状況（10％）レポート（20％）、テスト（70％）	
履修条件	特になし	
関連科目・次のス テージ		
オフィスアワー	授業終了後	
要請生へのメッセ ージ	現代の家庭を取り巻く社会問題を学び、保護者が抱える課題を解決に導くために何が必要なのかについて一緒に考えていきましよう！	

科目区分	専門	科目名	教育方法論(初等)	担当者	新垣 さき	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状 必修				
授業の到達目標	教育方法の概念及び指導方法の歴史の過程を知る中で、今日的教育課題をとらえ、それらを解決する基礎的な資質を育てる。								
授業概要	今日、学校においては、いじめ、不登校、学力問題、学級崩壊等の教育課題に、学校、家庭、地域社会や関係機関が連携協力して資力的に関わり解決を目指して取り組んでいる。教育課題の根底にある阻害要因の解消には、教師自らが学び教える経験の中で構築・獲得された知識、技能、情熱、自信が必要である。教育方法では、「学ぶ」「教える」を単なる知識や技能の伝達・習得だけでなく、「何のために」「何を」「どのようにして」という学びの目的や、方法、手段を明らかにし、日々の教育実践に生かす手法を学ぶ。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input checked="" type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 <input checked="" type="radio"/> =DP 達成の為に特に重要な項目 <input type="radio"/> =DP 達成の為に重要な項目 <input type="radio"/> △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				時間
1回	オリエンテーション・今なぜ、教育方法を学ぶのか				事後：テキスト序章を読み返す。				2h
2回	西洋における教育思想と教育方法の歴史				事前：テキスト第1章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
3回	日本における教育改革と教育方法の歴史				事前：テキスト第2章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
4回	現代教育方法学の論点と課題				事前：テキスト第3章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
5回	子どもは何を学ぶのか-教育目標・内容論-				事前：テキスト第4章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
6回	学習とは何か-学習論-(ディスカッション)				事前：テキスト第5章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 4h
7回	学力をどう高めるか-学力論-(ディスカッション)				事前：テキスト第6章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
8回	授業をどうデザインするのか (ICTを活用した授業デザインを含む・ディスカッション)				事前：テキスト第7章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
9回	教育の道具・素材・環境を考える (ディスカッション)				事前：テキスト第8章を読む。実習記録を振り返る。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
10回	何をどう評価するのか				事前：テキスト第9章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
11回	配慮を要する子どもの教育方法 (ディスカッション)				事前：テキスト第11章を読む。 事後：保幼小連携の保育者の役割について押さえる。				2h 2h
12回	教科外教育活動を構想する				事前：テキスト第10章を読む。 事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。				2h 2h
13回	模擬実践①				事前：実践に向けての配慮事項を確認し役割を考える。 事後：実践記録の記入通して振り返る。				2h 2h
14回	模擬実践②				事前：実践の振り返りをし、自己課題を見つめる。 事後：実践を通しての今後の課題、目標を整理する。				2h 2h
15回	模擬保育③振り返り 総まとめ どのような教師をめざすべきか				事前：これまでの講義で行ったテキスト、配布資料を確認し、ポイントを押さえる。 事後：教育方法についての今後の課題、目標を整理する。				2h 2h
16回	試験								
テキスト	新しい時代の教育方法/田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之/有斐閣アルマ ※検討中								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 小学校学習指導要領解説、教育方法学/佐藤学、言葉の力と考える力を育てる発問・発言と学習プリントの手引き 等 講義内で伝える。岐阜女子大学との共同開発教材、沖縄女子短期大学 e-learning、岐阜女子大学 e-learning についても活用する。								
授業の評価方法・基準	① テスト60% ② 毎回の授業省察コメント20% ③ レポート・発表・態度20%								
履修条件	授業への主体的な参画ができ、学びのルールを守り、課題意識を持ち取り組める人。								
関連科目・次のステージ	これまで講義を受講してきた専門科目をはじめ、実習での学びが教育方法につながります。								
オフィスアワー	月曜日の2講目								
受講生へのメッセージ	これまでの講義、実習を通してのことを振り返りながら教育方法について考え、今後の課題、目標を見つけていきましょう。								

科目区分	専門	科目名	教育方法論(心理・福祉)	担当者	新垣 さき	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状 必修			
授業の到達目標	保育は子どもと保育者で創り出している営み（活動）である。しかしその活動も専門職である保育者の保育観・子ども観によって左右され展開されていくことを、事例を通して説明できるようにする。同時に自分の保育観・子ども観を築き、多様な保育に関する手法を習得する。								
授業概要	子どもの生きぬく力の基礎につながる日々の保育実践を有効なものにしていくために、保育の方法（教育方法）の理論を理解する。そして、「何を」「何のために」「なぜ」「どのように」ということを考え実践力を習得する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目									
		授業計画				時間外学習			時間
1回	オリエンテーション・保育方法とは何か				事後：テキスト第1章を読み返す。			2h	
2回	子ども理解から始まる保育方法 (ディスカッション)				事前：テキスト第2章を読む。			2h	
					事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			2h	
3回	環境を生かした保育方法 (ディスカッション)				事前：テキスト第3章を読む。			2h	
					事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			2h	
4回	遊びを通しての総合的な指導方法 (ディスカッション)				事前：テキスト第4章を読む。			2h	
					事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			2h	
5回	子どもにふさわしい園生活と指導方法				事前：テキスト第6章を読む。			4h	
6回	保育の方法と形態				事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			4h	
7回	発達の時期に応じた保育の方法①（3・4・5歳児）				事前：テキスト第7章を読む。			2h	
					事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			2h	
8回	発達の時期に応じた保育の方法②（0・1・2歳児）				事前：テキスト第8章を読む。			2h	
					事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			2h	
9回	保育の計画・実践・評価				事前：テキスト第9章を読む。実習記録を振り返る。			2h	
					事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			2h	
10回	家庭・地域との連携を生かした保育 模擬保育①準備				事前：テキスト第10章を読む。			2h	
					事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			2h	
11回	保幼小の連携について考える (ディスカッション)				事前：テキスト第11章を読む。			2h	
					事後：保幼小連携の保育者の役割について押さえる。			2h	
12回	配慮を要する子どもへの保育方法 (ディスカッション)				事前：テキスト第12章を読む。			2h	
					事後：テキスト、配布資料を読み返しポイント整理する。			2h	
13回	模擬保育②実践				事前：保育実践に向けての配慮事項を確認し役割を考える。			2h	
					事後：実践記録の記入を通して振り返る。			2h	
14回	模擬保育③協議				事前：保育実践の振り返りをし、自己課題を見つける。			2h	
					事後：保育実践を通しての今後の課題、目標を整理する。			2h	
15回	模擬保育④振り返り 総まとめ				事前：これまでの講義で行ったテキスト、配布資料を確認し、ポイントを押さえる。			2h	
					事後：保育方法についての今後の課題、目標を整理する。			2h	
16回	試験								
テキスト	最新保育講座6「保育方法・指導法」/大豆生田啓友・渡辺英則・森上史朗 編/ミネルヴァ書房 ※検討中								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領解説、保育士保育所指針解説、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説 その他講義内で伝える。								
授業の評価方法・基準	① テスト60% ② 毎回の授業省察コメント20% ③ レポート・発表・態度20%								
履修条件	授業への主体的な参画ができ、学びのルールを守り、課題意識を持ち取り組める人。								
関連科目・次のステージ	これまで講義を受講してきた専門科目をはじめ、実習での学びが保育方法につながります。								
オフィスアワー	月曜日の2講目								
受講生へのメッセージ	これまでの講義、実習を通してのことを振り返りながら保育方法と指導法について考え、今後の課題、目標を見つけていきましょう。								

科目区分	専門	科目名	教育制度論	担当者	上原 勝晴(実務経験者)	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状				
授業の到達目標	現在の教育制度について、学校教育、幼児金の教育、社会教育等に関する教育法規の基礎的な知識を身に付け、教育や保育者としての資質能力を育成する。また、今日の教育問題にも関心をもち、その解決に向け努力していく態度を育成する。								
授業概要	学校の教育制度を中心に日本国憲法や教育基本法等の教育法規をもとに、学校教育法、学校教育法施行規則、教育公務員特例法等の関連法令を中心に授業を進める。また、必要に応じて、教育関係の新聞記事等の資料を活用し、理解を深めるとともに、本県教育の課題や今日的な教育問題についても考えさせたい。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input checked="" type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目								
	○=DP 達成の為に重要な項目								
	△=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習		時間		
1回	オリエンテーション、教育制度を学習する意義等			事前:受講科目の確認等 事後:シラバス、資料の読み返し		— 0,5H			
2回	教育の基本に関する法規(1):日本国憲法			事前:教育法規の意義等、前時の復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
3回	教育の基本に関する法規(2):教育基本法①			事前:日本国憲法の読み返しと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
4回	教育の基本に関する法規(3):教育基本法②			事前:教育基本法の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
5回	学校教育の制度(1):学校の範囲・設置・目的(学校教育法等)			事前:学校教育法の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
6回	学校教育の制度(2):学習指導要領、幼稚園教育要領、認定こども園教育保育要領、保育所保育指針(学校教育法等)			事前:関係法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
7回	学校教育の制度(3):教育課程の編成、教科書制度(学校教育法等)			事前:関係法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
8回	学校教育の制度(4):児童生徒の管理①就学義務、懲戒			事前:関係法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
9回	学校教育の制度(5):児童生徒の管理②いじめ防止、児童の権利条約、			事前:関連法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
10回	学校教育の制度(6):児童生徒の管理③(学校保健安全、防災、給食)			事前:関係法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
11回	教職員の制度(1):教員の資格・職務、教員の働き方			事前:関係法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
12回	教職員の制度(2):教員の服務、懲戒			事前:関係法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
13回	教職員の制度(3):教員の研修、校務分掌、職員会議			事前:関係法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
14回	社会教育の制度:社会教育及び生涯学習			事前:関係法規の読みと復習 事後:ワークシート、配布資料で復習		0,5H 0,5H			
15回	教育行政の制度:教育委員会制度、本県教育の目標等			事前:関係法規の読みと復習 事後:試験準備		0,5H 0,5H			
16回	試験			事前:試験準備 事後:授業の振り返り		0,5H 0,5H			

テキスト	特に指定はしない。授業に関する資料は、授業中に適宜掲示する。
参考資料など	【購入を必須としないもの】・「教育関係法令集」沖縄女子短期大学 津留健二 著 ・「教育小六法」学陽書房・三省堂 ・「教育制度論」高妻紳次郎 編著ミネルブア書房
授業の評価方法・基準	試験(70%)、プリントや新聞記事による課題等の提出物(10%)、グループワーク(20%)
履修条件	日常的に学校教育や幼児期の教育に関する情報に関心を持つこと。
関連科目・次のステージ	日本国憲法や教師論及び保育・教育課程にかかる科目について学習すること。学んだことを教育実習やインターンシップ等で生かすよう努めること。
オフィスアワー	授業終了後。その必要に応じて設定する。事前にアポイントをとること。
受講生へのメッセージ	教師を目指す皆さん。この授業をとおして、教育が法令等をもとに運営されていること、教育制度の意義や法令遵守(コンプライアンス)の大切さなどの学びを通して、今後の学修に生かせるようにしましょう。
実務経験	教育現場、教育行政双方での実務経験から、事例を交え、教育基本法などの教育関連法規を概説する。

科目区分	専門	科目名	教育相談概論	担当者	岡花史代・喜久山千賀子	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	幼稚園教諭免許必修			
授業の到達目標	<p>幼児、児童及び生徒が抱える不登校・登園しぶり、いじめ、非行、発達障害などの問題をどのように発見、理解し、対応するか、心理学的な基礎知識を身につける。さらに、基礎的なカウンセリングの理論および技法などの習得を通して、幼児、児童及び生徒の発達状況や個性を捉え、柔軟に支援する力を身につける。</p>								
授業概要	<p>保育・教育現場で幼児、児童及び生徒が抱える諸問題を理解し、どのように対応するかについて、心理学的な基礎知識を身につける。さらに、子どもが抱える問題や保護者からの相談に応じて行うカウンセリングについて、事例やワーク等を通して基礎的な知識と技法を習得し、実践に活かす。また、子どもや保護者を支援する際に必要な体制づくりや関係機関との連携についても学ぶ</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画	時間外学習			時間		
1回	オリエンテーション			事前:講義に必要な物を準備する。 事後:次回のテキスト部分を予習する。			2h 2h		
2回	教育相談とは、教育相談の意義			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
3回	子どもの心理、発達課題			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
4回	子どもを多面的に理解する方法、アセスメント			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
5回	カウンセリングの基礎知識(カウンセリングとは、教師に望まれるカウンセリング・マインド)			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
6回	コンサルテーション			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
7回	ソーシャルスキル教育			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
8回	ストレスマネジメント教育			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
9回	発達障害			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
10回	障害のある子どもを支える			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
11回	子どもをサポートする社会資源、家族への援助			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
12回	不登校・中途退学			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
13回	いじめ			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
14回	学校の危機管理			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		
15回	関係機関との連携			事前:わからない語句を調べる。 事後:授業内容の復習をする。			2h 2h		

16回	定期試験	事前:テスト勉強 事後:テスト振り返り	2h 2h
テキスト	絶対役立つ教育相談」藤田(監)ミネルヴァ書房, その他講義時に講師作成資料を配布する。		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング」石井・藤井・森・杉原 ふくろう出版, 「月刊誌児童心理」金子書房,		
授業の評価 方法・基準	リアクションペーパー(20%), レポート(30%), 試験(50%)		
履修条件	実習を終えていることが望ましい。		
関連科目・次のス テージ	カウンセリング概論		
オフィスアワー	授業終了後		
受講生へのメッセ ージ	2年生最後の学期の講義になります。気を引き締めて頑張ってください。		

科目区分	専門	科目名	教育課程総論	担当者	上原 勝晴	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭二種免許状必修、幼稚園教諭二種免許状必修				
授業の到達目標	教育の目的や目標を達成するためには、学習指導要領の位置づけや性格、趣旨等を理解するとともに、教育課程編成の基本原則や学校の実情を踏まえた教育課程編成の方法を理解する。また、学習指導要領に規定されているカリキュラムマネジメントの意義や重要性についても理解できるようにする。								
授業概要	小学校学習指導要領を踏まえて、各学校における教育課程が編成・実施されること理解する。また、学校の教育課程全体をマネジメントすることの意義や教育課程の評価の考え方を理解する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション及び教育課程の意義や理念・内容について			事前: 事後:シラバスの確認、資料の読み返し。			-		
2回	学習指導要領について: 学習指導要領の歴史的変遷、基本的方針			事前:学習指導要領の予習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
3回	教育課程の基準について: (1) 教育課程の意義			事前:学習指導要領の基本方針等確認 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
4回	教育課程の基準について: (2) 法制(教育基本法、学校教育法等)			事前:教育課程の意義等について複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
5回	教育課程の編成と実施について: (1) 小学校教育の基本と教育課程の役割、特色ある教育活動の展開			事前:教育課程に係る法制について複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
6回	教育課程の編成と実施について: (2) 育成を目指す資質能力、カリキュラムマネジメント			事前:教育課程の役割等について複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
7回	教育課程の編成と実施について: (3) 幼稚園の教育課程の編成、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続			事前:カリキュラムマネジメント等の複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
8回	教育課程の編成について: (1) 各学校の教育目標と教育課程の編成、教科等横断的な視点に立った編成			事前:幼稚園の教育課程編成等の複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
9回	教育課程の編成について: (2) 教育課程編成における共通事項、学校段階等における接続			事前:学校の教育課程編成等の複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
10回	教育課程の実施と学習評価について: (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善①			事前:学校段階における接続等の複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
11回	教育課程の実施と学習評価について: (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善②			事前:授業改善についての複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
12回	教育課程の実施と学習評価について: (3) 学習評価の充実			事前:授業改善についての複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
13回	児童の発達の支援について: (1) 生徒指導・キャリア教育の充実、個に応じた指導の充実			事前:学習評価等についての複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
14回	児童の発達の支援について: (2) 特別な配慮を必要とする児童への指導			事前:生徒指導・キャリア教育の複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		
15回	教育課程と道徳教育について: 特別な教科道徳、指導体制、いじめ防止、家庭や地域社会との連携			事前:児童の指導等に関する複習 事後:ワークシートや配布資料で複習			2H 2H		

16回	試験	事前:試験準備 事後:授業の振り返り	2H 2H
テキスト	小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年告示 文部科学省) 「学校教育における指導の努力点」(沖縄県教育委員会)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 文部科学省、国立教育研究所及び沖縄県の教育に関する刊行物等の資料及び新聞記事等の資料。		
授業の評価 方法・基準	試験 70%、ペアでの活動・グループ活動 20%、課題等の提出物 10%		
履修条件	学習指導要領の総則を理解するとともに、幼稚園教育要領、認定こども園教育保育要領及び保育所保育指針を読み、特に幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続について理解すること。		
関連科目・次の ステージ	各教科等の学習指導要領解説及び教師論等の関連科目について学習すること。学んだことをインターンシップや教育実習等に生かすこと。		
オフィスアワー	授業終了後。その他必要に応じて設定する。事前アポイントをとること。		
受講生へのメッセ ージ	学校教育活動が学習指導要領等に基づいて実施されていることを是非、理解してください。また、本県教育委員会が刊行した「学校教育における指導の努力点」などの施策についても学びを深めてください。		

科目区分	専門	科目名	教育課程総論	担当者	村吉和美(実務経験者)	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	幼稚園二種必修				
授業の到達目標	保育は幼児の主体性と教師の意図を絡ませて発達に必要な経験をどのような環境を構成して意図的計画的に行っているかを理解し、教育課程等を読み解く力及び週案や指導案を作成する力を育成する。								
授業概要	就学前の幼児教育は、子どもの発達とその教育的支援が他の校種と異なる、独自の教育課程を持っている。小学校との連携を見据えながらも、小学校とは異なる教育課程について、その特徴と編成方法・教育計画の立て方、指導計画に織り込まれた幼児期に育てたい内容との関係について概説する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/>	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	<input checked="" type="radio"/>	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	<input checked="" type="radio"/>	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	<input type="radio"/>	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
		◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目							
		授業計画				時間外学習		時間	
1回	授業の概要・講義計画等 教育課程・保育課程とは①				事前:p2~p5 必読! 事後:教育課程・保育課程についてp9~p17を 読んでまとめる<レポート>		1H 2H		
2回	教育課程・保育課程とは② 前回のレポートについてグループで話し合い発表する				事後:配布資料の読み込み		3H		
3回	保育における指導計画 指導計画の種類について				事前:2章 p18~p26を読み込む 事後:配布資料を読み込む		2H 1H		
4回	指導計画作成の基本 子どもを保育の主役にするための指導計画				事前:p27~p34の読み込み 事後:幼稚園・保育所・認定こども園の特徴に ついてまとめる<レポート>		1H 2H		
5回	計画に必要な子ども理解 子供理解の必要性 演習「子どもの姿からわらい」				事前:p36~p44の読み込み 事後:演習の仕上げ		1H 2H		
6回	幼稚園における教育課程と指導計画 教育課程の実際				事前:p45~p53の読み込み 事後:資料の読み込み		1H 2H		
7回	保育園の全体的な計画と指導計画 全体的な計画の特徴と種類 養護と教育を一体化した保育				事前:p54~p62の読み込み 事後:資料の読み込み		1H 2H		
8回	認定こども園における教育・保育課程と指導計画 認定こども園の1日の流れ(ディリープログラム)				事前:p63~p71の読み込み 事後:資料を参考にし、ディリープログラムの 実際を様式に書いてみる		1H 2H		
9回	0歳の指導計画 DVDの視聴(DVDを見ての気づき) 0歳児で作成すべき指導計画				事前:p72~p80の読み込み 事後:指導案を仕上げる		1H 2H		
10回	1歳から2歳の指導計画 DVD視聴(DVDを見ての気づき) 1~2歳児の指導計画の実際				事前:p81~p89の読み込み 事後:指導案を仕上げる		1H 2H		
11回	3歳から5歳の指導計画 DVD視聴(DVDを見ての気づき) 3~5歳児の指導案の作成				事前:p90~p98の読み込み 事後:指導案を仕上げる		1H 2H		
12回	行事を生かす保育 行事の捉え方				事前:p108~p111の読み込み 6 事後:自分の体験した行事についてレポート		1H 2H		
13回	さまざまな保育方針と教育・保育課程 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の捉え				事前:p117~p125の読み込み 事後:資料の読み込み		1H 2H		
14回	保育の質を高める計画と評価 PDCAサイクルとは・各種評価について				事前:p135~p143の読み込み		1H		
15回	小学校へのつながり 保幼小連携とは 指導要録等				事前:p99~106の読み込み 事後:これまでの復習		1H 2H		

16回	まとめとテスト	事前:これまでの復習	2H
テキスト	コンパクト版保育者養成シリーズ 新版 教育・保育課程論 谷田貝 公昭・石橋哲成(監修) 高橋弥生・大沢裕(編著) 発行所:株式会社 一藝社 2017年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか 著・汐見稔幸 小学館 2017年告示版 幼稚園教育要領ハンドブック 無藤 隆(監修) 学研		
授業の評価 方法・基準	テスト(70%) 課題(振り返りシート・レポート)(20%) 講義への参加度(10%)		
履修条件	保育者を指す目的意識をもち、主体的に授業に取り組むこと。		
関連科目・次のステージ	「五領域保育内容」「保育原理」「発達心理学」「乳幼児保育」		
オフィスアワー	授業開始前 授業終了後 その他必要に応じて設定する。		
受講生へのメッセージ	前時の授業を復習し、疑問に思ったこと等を授業時または終了後に質問をする等、解決できるようにする 出席は授業開始時とする。(遅刻については、授業後各自申し出ること) ノートは必要に応じて提出するので、毎回日付を記載し、一冊にまとめておくこと		
実務経験	県指導主事の経験を活かし、根拠法に基づいた教育課程編成の在り方や、幼稚園教育の実践現場における主幹として幼稚園運営に関わった実績から、より具体的な査察を交えて概説する。		

科目区分	専門	科目名	教科専門算数	担当者	浅井利真	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校教諭二種免許状選必				
授業の到達目標	小学校教師として自信を持って算数科の学習指導にあたり、児童に確かな学力を定着させるように、教育課程の基準である小学校学習指導要領の内容を基に、算数科の目標や内容について理解し、具体的に指導計画や教材観を講義・演習を通して実践的に学ぶ。								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の解説書を基に算数教育に必要な専門的知識及び指導技能 ・算数教科の特性である系統性について理解し、主体的な学び方を育てる指導方法 ・個に応じた学習指導と評価 ・指導案を作成し、わかる授業・参加する授業の模擬授業実践 								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション、勉強(学習)をする意義、算数を学ぶ意義についての理解、振り返り			事前:教育目標・算数目標・改訂について(復習) 事後:なぜ学ぶのか、自分事として考察			2h		
2回	算数の歴史の変遷、学習指導要領算の意味、算数科の目標、内容、構成からの理解、振り返り			事前:算数の歴史の変遷等概観予習 事後:目標、内容構成の復習			2h 2h		
3回	数科の目標からのそこで使用されている語句に対するの意味理解、振り返り			事前:目標に使用される語句概観予習 事後:目標についての復習			2h		
4回	算数科の内容、算数科の領域についての理解、振り返り			事前:領域についての概観予習 事後:領域内容構成の復習			2h 2h		
5回	第一学年の各領域内容について、教科書と対応させての理解、振り返り			事前:第一学年の領域内容概観予習 事後:第一学年の内容構成の復習			2h 2h		
6回	第二学年の各領域内容について、教科書と対応させての理解、振り返り			事前:第二学年の領域内容概観予習 事後:第二学年の内容構成の復習			2h 2h		
7回	第三学年の各領域内容について、教科書と対応させての理解、振り返り			事前:第三学年の領域内容概観予習 事後:第三学年の内容構成の復習			2h 2h		
8回	第四学年の各領域内容について、教科書と対応させての理解、振り返り			事前:第四学年の領域内容概観予習 事後:第四学年の内容構成の復習			2h 2h		
9回	第五学年の各領域内容について、教科書と対応させての理解、振り返り			事前:第五学年の領域内容概観予習 事後:第五学年の内容構成の復習			2h 2h		
10回	第六学年の各領域内容について、教科書と対応させての理解、振り返り			事前:第六学年の領域内容概観予習 事後:第六学年の内容構成の復習			2h 2h		
11回	指導および児童の理解が難しいとされている割合の意味と指導方法について理解、振り返り			事前:割合の指導について教科書より概観予習 事後:割合の指導のあり方の復習			2h 2h		
12回	ビデオによる授業視聴を通して、算数の授業から学ぶポイント(授業観察:発問・板書・ICTの活用、評価等)および指導案作成に向けてのグループ協議、振り返り			事前:指導案についての概観予習 事後:授業のあり方についての復習			2h 2h		
13回	指導案の作成と模擬授業(1・2・3・グループ)と評価および振り返り			事前:数と計算の指導案作り 事後:指導過程について振り返り			2h 2h		
14回	指導案の作成と模擬授業(4・5・6・グループ)と評価および振り返り			事前:図形・測定の指導案作り 事後:指導過程について振り返り			2h 2h		
15回	指導案の作成と模擬授業(7・8・9グループ)と評価および振り返り			事前:変化と関係・データの活用の指導案作り 事後:指導過程について振り返り			2h 2h		

18回	定期試験		2h
テキスト	『小学校学習指導要領解説 算数編（平成29年6月 文部科学省）』平成30年3月日本文教出版算数教科書		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 協働研究協力校指導案綴		
授業の評価 方法・基準	テスト50%，レポート（振り返りを含む）30%，積極的授業参加20%		
履修条件	教育課程の受講者が望ましい。		
関連科目・次のステージ	各教科との関連性（指導過程，資質能力）大切に。		
オフィスアワー	水曜日の午後，事前にアポイントメントをとること。		
受講生へのメッセージ	積極的な発言を期待します。指名された場合は必ず意見を述べることを，また，実習等これからの生活に役立ちます。		

科目区分	専門	科目名	教科専門国語	担当者	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校二種選必	幼稚園二種選必			
授業の到達目標	国語科の目標を理解し、国語教育の使命及び基礎・基本、国語に対しての理論を明確にもち、国語力を高め、課題解決ができる。また、国語科学習指導要領についても理解できることを目指す。								
授業概要	国語教育の中核である「ことばの力」を重点に、国語教育としての立場を一層重視し、国語の基礎となる言語内容の重点化を図ることができるようにする。また、社会生活を営んでいくのに、身につけなくてはならない言語能力について学ぶ。さらに、身近な郷土の教材にも関心をもち、諸課題解決ができるようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ◎② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画			時間外学習			時間		
1回	オリエンテーション、講義の進め方、受講心得等			事前：国語科で大事にすべきこと等調べておく 事後：講義の進め方を知りまとめる					
2回	学習指導要領について			事前：学習指導要領について調べておく 事後：学習指導要領の全体像をまとめる					
3回	国語科の改訂の趣旨及び要点			事前：国語科の会ちえいの趣旨・要点について調べておく 事後：国語科の改訂の趣旨と要点をを項目別にまとめる					
4回	国語科の目標			事前：国語科の目標について調べておく 事後：国語科の目標を具体的にまとめる					
5回	国語科の内容 知識及び技能の内容			事前：国語科の内容の知識・技能の領域について調べておく 事後：国語科の内容の知識及び技能の領域について具体的にまとめる					
6回	国語科の内容 思考力、判断力、表現力等の内容			事前：国語科の内容の思考力、判断力、表現力等領域について調べておく 事後：内容の思考力、判断力、表現力等の領域について具体的にまとめる					
7回	第1学年及び第2学年の内容 知識及び技能の内容			事前：第1学年及び第2学年の知識・理解について調べておく 事後：第1・2学年の知識・技能についてまとめる					
8回	思考力、判断力、表現力等の内容			事前：第1・2学年の思考力、判断力、表現力等について調べておく 事後：第1・2学年の思考力、判断力、表現力等についてまとめる					
9回	第3学年及び第4学年 知識及び技能の内容			事前：第3学年及び第4学年の知識・理解について調べておく 事後：第3・4学年の知識・理解についてまとめる					

10回	思考力、判断力、表現力等の内容	事前：第3・4学年の思考力、判断力、表現力等について調べておく 事後：第3・4学年の思考力、判断力、表現力等についてまとめる	
11回	第5学年及び第6学年 知識理解の内容	事前：第5学年及び第6学年の知識・理解について調べておく 事後：第5・6学年の知識・理解についてまとめる	
12回	思考力、判断力、表現力等の内容	事前：第5・6学年の思考力、判断力、表現力等について調べておく 事後：第5・6学年の思考力、判断力、表現力等についてまとめる	
13回	授業実践者より学ぶ	事前：学習指導案に目を通し、授業の流れを確認しておく 事後：授業実践者から学んだことをまとめ今後に生かす	
14回	指導計画作成上の配慮事項	事前：指導計画作成上の配慮事項を調べておく 事後：指導計画上の配慮事項を観点別にまとめる	
15回	内容の取扱いについての配慮事項	事前：内容の取扱いの配慮事項について調べておく 事後：内容の取扱いの配慮事項について観点別にまとめる	
16回	テスト及び講義のまとめ	事前：講義のまとめと課題を確認しておく 事後：次年度の教材研究国語の講義の学びに生かす	
テキスト	小学校学習指導要領解説（国語編）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業中に随時紹介する。		
授業の評価 方法・基準	テスト(70%)、受講態度(70%)、提出物(10%)、学習ファイルのまとめ(10%)等で評価する。		
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。		
関連科目・次の ページ	小学校学習指導要領解説の国語編を熟読すること。 国語科の模擬授業に生かすことができること。		
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。		
受講生へのメッ セージ			

科目区分	専門	科目名	教科専門 生活	担当者	新垣 さき	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択必修	ナンバリング			資格・免許要件	小学校教諭二種免許状:選択必修			
授業の到達目標	教科専門生活の授業を通して、「具体的な活動や体験」を基本とする生活科の特性を理解し、生活科設置の趣旨、目標、内容、指導法について考察を深める。さらに幼稚園から生活科への接続発展、総合的学習への系列等を学び生活科の授業を展開する時の基礎を身に付ける。								
授業概要	生活科は子どもたちが身近な生活圏の中で行う直接体験等を通して、自立の基礎を身に付けて生きていくことを目標とする教科です。具体的な活動や体験を重視する教科のため、実際に体験活動を行い学習内容の理解や授業構成について学習していく。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				時間
1回	オリエンテーション（登録、シラバス、受講記録票の説明について）、季節をみつけよう 気づき発見！（グループワーク）				事後：季節の変化について気づきをまとめる。				2h
2回	生活科の歴史的歩みと生活科のねらいについて				事前：学習指導要領第1章を読む。 事後：学習指導要領の基本方針についてポイント整理する。				2h 2h
3回	教科生活科の特質について				事前：学習指導要領の基本方針について読む。 事後：生活科の特質についてポイントを押さえる。				2h 2h
4回	生活科の目標、資質・能力の三つの柱としての目標の趣旨				事前：学習指導要領の第2章第1節を読む。 事後：教科目標の趣旨について押さえる。				2h 2h
5回	学年の目標、生活科の学習内容（1）～学習指導要領～				事前：学習指導要領第2章第2節を読む。 事後：2学年を見通した目標設定についてポイント整理する。				2h 2h
6回	生活科の学習内容（2）～学習指導要領～				事前：学習指導要領の第3章第1節を読む。				6h
7回	生活科の学習内容の特徴（1）				事後：学習内容の構成について具体的な視点を押さえる。				6h
8回	生活科の学習内容の特徴（2）								
9回	保幼小連携について 幼児教育と生活科～小1プロブレム～/チャイルドビジョン体験				事前：学習指導要領第5章第2節4を読む。 事後：配布資料を読み返し小学校教員としての保幼小連携の関わりについて考える。				2h 2h
10回	生活科学習の基本過程と単元構成（1）				事前：学習指導要領第5章第3節を読む。 事後：単元計画の作成についてポイントを整理する。				4h 4h
11回	生活科学習の基本過程と単元構成（2）								
12回	生活科の指導と評価について、カリキュラム・マネジメントを意識した指導計画				事前：学習指導要領第5章第1節を読む。 事後：カリキュラム・マネジメントについて配布資料を読み返す。				2h 2h
13回	生活科における年間学習指導計画の作成について				事前：学習指導要領第5章第2節を読む。 事後：配布資料と学習指導要領を読み返す。				2h 2h
14回	学習指導の進め方について（ICTを活用した指導についても含む）				事前：学習指導要領第5章第4節を読む。 事後：学習指導の進め方についてキーワードを押さえる。				2h 2h
15回	講義のまとめ				事前：ワークシート課題をまとめる。 事後：これまでの学習指導要領、配布資料のポイントを整理する。				2h 2h
16回	テスト								
テキスト	小学校学習指導要領解説 生活編(文科省)東洋館出版								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 新しい学力観に立つ生活科学習指導の創造（文科省） 平成29年改訂小学校教育課程実践講座生活/朝倉淳/ぎょうせい その他講義の際に適宜提示する								
授業の評価方法・基準	①試験 60%②作品 10%③レポート 10%④指導案 10%⑤発表・態度 10%で総合的に評価する。								
履修条件	小学校二種免許状取得を目指す者（選択必修）								
関連科目・次のステージ	教材研究・教科専門の科目と関連付け学習すること。2年後期科目である教育方法論、保育・教職実践演習につなげる。								
オフィスアワー	月曜日の2講目								
受講生へのメッセージ	生活科は「気づき」がキーワードになっています。環境、自然、自分自身等について振り返り、日々の生活からたくさんの気づきが見つけれられるようにしましょう。								

科目区分	専門	科目名	教材研究体育	担当者	仲西起實	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	小学校二種選必			
授業の到達目標	・体育の授業を実践するのに必要な基礎基本を理解し、指導案作成及び模擬授業が実施できるようにする。								
授業概要	・運動の指導内容及び指導方法の理解と、授業実践力の向上を図る。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○ ① 全児童に寄り添い、楽しく運動ができるようにする。								
	◎ ② 次期学習指導要領「体育」の目標や内容を知り、授業に関する専門的知識や指導技術を身につける。								
	◎ ③ 運動苦手を含む多種多様な児童が楽しく運動ができるよう、場づくり等学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 指導案作成及び授業づくり、話し合いに協働できる力を身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目、○=DP 達成の為に重要な項目、△=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画 ※G=グループ				時間外学習				時間
1回	オリエンテーション(シラバスの説明等)				事後:資料の読み直し				2H 2H
2回	体育授業(運動の特性等)の理解				事前:小学校での「体育の授業」を思い出し、まとめる 事後:「体育の授業」の理解を深める				2H 2H
3回	体育の指導案、授業後の話し合い、学年・運動の決定				事前:「体育の指導案」の内容を予習する 事後:「体育の指導案、話し合い」を理解する				2H 2H
4回	教材研究、指導案の作成(G) (1ボール運動、2表現系、3器械運動、4陸上運動から)				事前:「00運動」を調べる 事後:「00運動」の指導案を作成する				2H 2H
5回	教材研究、指導案の作成(G) (1ボール運動、2表現系、3器械運動、4陸上運動から)				事前:「00運動」指導案を読み返す 事後:「00運動」の授業をまとめる				2H 2H
6回	Gのプレゼン、質疑応答、意見交換、学習の共通理解				事前:「00運動」の授業プレゼンの準備をする 事後:8つの「00運動」の授業をイメージする				2H 2H
7回	指導案の作成と模擬授業(第1回) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読み授業イメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
8回	指導案の作成と模擬授業(第2回) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読みイメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
9回	指導案の作成と模擬授業(第3回) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読みイメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
10回	指導案の作成と模擬授業(第4回) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読みイメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
11回	指導案の作成と模擬授業(第5回) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読みイメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
12回	指導案の作成と模擬授業(第6回) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読みイメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
13回	指導案の作成と模擬授業(第7回) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読みイメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
14回	指導案の作成と模擬授業(第8回) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読みイメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
15回	指導案の作成と模擬授業(希望グループ、授業は1人) (○グループ ○年 00000運動)				事前:教材研究、指導案を読みイメージを持つ 事後:00運動の学習を理解し、授業改善に役立てる				2H 2H
16回	まとめのテスト				【振り返りと再確認】				2H
テキスト	「小学校まるわかりハンドブック中学年」か「小学校まるわかりハンドブック高学年」 文部科学省著								
参考資料など	【購入を必要としないもの】 「小学校学習指導要領解説 体育編」								
授業の評価方法・基準	①指導案(25点)、②模擬授業の評価(25点)、③まとめテスト(50点) ※態度(調査、意見発表、提出物や遅刻、服装や靴忘れ、等)(加減点)								
履修条件	テキストの購入								
関連科目・次のステージ	前もってテキストを読み、疑問や意見を持って(メモって)授業に参加する。 学校現場でのボランティア活動、教育実習での体育の授業								
オフィスアワー	授業終了後								

受講生へのメッセージ

質問や意見など自由活発に出し合い、みんなで良い授業のイメージをつくっていきましょう。

科目区分	専門	科目名	道徳教育の指導法	担当者	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選必	ナンバリング		資格・免許要件	小学校二種必修				
授業の到達目標	道徳教育の中で人間尊重の精神、生命に対する畏敬の念、社会の中で自主的に生きるための基盤として道徳について学ぶ。また、「教科化」されたので、内容及び指導法について実践的に学ぶことを目指す。								
授業概要	学校においては、人間関係からくるいじめ、規範意識の低下からくる基本的生活習慣の不確立さがあることなど、児童の心と体と状況にかかる課題が多い。その課題解決に向けて学習指導要領を基盤とし、学校現場で指導できるように実践的に取り組むことができるようにする。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション、道徳教育とは等				事前：道徳教育について調べておく 事後：講義の全体的流れを理解しまとめる				
2回	道徳教育の改定の基本方針及び要点				事前：改訂の基本方針及び観点について調べておく 事後：改訂の基本方針を観点別に具体的にまとめる				
3回	道徳教育の目標				事前：学習指導要領の道徳教育の目標を調べておく 事後：道徳教育の目標をまとめる				
4回	道徳科の目標				事前：学習指導要領の道徳科の目標を調べておく 事後：道徳科の目標をまとめる				
5回	道徳科の内容（内容の基本的性格）				事前：道徳科の内容について調べておく 事後：道徳科の内容の基本的性格を具体的にまとめる				
6回	内容項目の指導の観点 A 主として自分自身に関する事				事前：内容項目の一覧表からA視点を調べておく 事後：A視点について6領域を学年別におさえまとめる				
	B 主として人との関わりに関する事				事前：内容項目のB視点を調べておく 事後：B視点について5領域を学年別におさえまとめる				
8回	C 主として集団や社会との関わりに関する事				事前：内容項目のC視点を調べておく 事後：C視点について7領域を学年別におさえまとめる				
9回	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事				事前：内容項目のD視点を調べておく 事後：D視点について4領域を学年別におさえまとめる				
10回	指導計画作成上の配慮事項及び道徳科の指導				事前：指導計画作成方法等について調べておく 事後：指導計画作成と指導について具体的にまとめる				

11回	指導の配慮事項及び教材に求められる内容の観点	事前：特に指導の配慮事項について調べておく 事後：指導及び内容の観点を具体的にまとめる
12回	道徳科の評価	事前：道徳科の具体的評価について調べておく 事後：評価の仕方を観点をおさえ具体的にまとめる
13回	道徳科指導案の作成と検討	事前：指導案作成方法について項目をおさえ調べておく 事後：作成した指導案を細かく検討し模擬授業に生かす
14回	模擬授業の実践①と評価	事前：指導案を基に授業展開例をチェックしておく 事後：模擬授業①の成果と課題をまとめる
15回	模擬授業の実践②と評価	事前：模擬授業①の課題を生かすように準備する 事後：模擬授業②の成果と課題をまとめる
16回	まとめのテスト、テストの開設とファイル提出	事前：講義全体のまとめと課題を確認しておく 事後：学んだことを教育実習に生かす
テキスト	小学校学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）	
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業中に随時紹介する。	
授業の評価方法・基準	テスト(70%)、学習態度(10%)、提出物(10%)、ファイルのまとめ等(10%)で評価する。	
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。	
関連科目・次のステージ	小学校学習指導要領解説の道徳編を熟読すること。 小学校の教育実習に生かすことができること。	
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。	
受講生へのメッセージ		

科目区分	専門	科目名	子どもの音楽表現 II	担当者	大宜見朝彦 阿波連佳恵 子 宮里 恵	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士・幼稚園教諭				
授業の到達目標	「子どもの音楽表現 I」で保育士、教育者として必要な音楽の基礎知識と、音楽表現の結びつきを修得し、ここでは保育内容をさらに理解しながら、子どもの表現の中の音楽として係る音楽表現の更なる向上を目指す。そしてそれに基づく即戦力を身に付けることが出来るように、広い視野や豊かな感性を持ちながら、子どもの発達と保育での子どもの音楽表現を学び、音楽の幅を広げさまざまな表現活動とさらに結び付け理解する。授業は内容を深め易いようにクラスを半分に行い、身に付けていく。								
授業概要	保育・教育者に必要な音楽の基礎知識と教養を深め、音楽的感受性と子どもの音楽表現へとつながる確かな技能を修得する為に、保育実習 I の前に現場実践力を付けるべく、ピアノ弾き歌いやうたあそび・リズム遊びを通して、理論と実技、実践実習を学習し子どもの音楽表現を深く学んで行く。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習			時間	
1 回	オリエンテーション、初期訓練法の確認、子どもの音楽表現 II の内容・講義方法			事後:オリエンテーション内容の理解復讐 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
2 回	コード学習の再確認 (C・F・G・G7)			事前:コードの確認			0.5H		
				事後:授業の振り返りと解説書の理解 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
3 回	生活のうた (あなたのおなまえは・はをみがきましょう・おかたづけ)			事前:基礎基本練習と生活のうたの予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
4 回	行事のうた (誕生日・七夕さま)			事前:基礎基本練習と行事のうたの予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
5 回	自然のうた (うみ・あめふりくまのこ)			事前:基礎基本練習と自然のうたの予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
6 回	季節のうた (どんぐりころころ・とんぼのめがね・まつぼっくり)			事前:基礎基本練習と季節のうたの予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
7 回	リズム遊び① (ポディー・パーカッション)			事前:基礎基本練習とリズム遊びの予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
8 回	リズム遊び② (楽器を使って・マラカス・カホン)			事前:基礎基本練習とリズム遊びの予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
9 回	行進曲① (子犬のマーチ・あんばんまんマーチ)			事前:基礎基本練習と行進曲の予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
10 回	行進曲② (線路は続くよどこまでも・ミッキーマウスマーチ)			事前:基礎基本練習と行進曲の予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		
11 回	合奏の取り組み① (もりの合奏)			事前:基礎基本練習と合奏の予習			0.5H		
				事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み			0.5H		

12回	合奏の取り組み② (沖縄バージョン・三線・三板)	事前:基礎基本練習と沖縄楽器の予習 事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み	0.5H 0.5H
13回	リズム遊び③ (伝承遊び・ずいずいずっころばし・茶壺・花いちもんめ)	事前:基礎基本練習とリズム遊びの予習 事後:授業振り返りと音楽技術の習得練習 読譜②ドリルの取り組み	0.5H 0.5H
14回	テスト		0.5H 0.5H
15回	テストの振り返りと総括	事前:基礎基本練習とテストの振り返り 事後:読譜②ドリルの取り組み	0.5H 0.5H
16回	保育実習Ⅰへ向けての準備	事前:実習箇所の理解と予備練習 事後:読譜②ドリルの取り組み	0.5H 0.5H
テキスト	うたえる・ひけるピアノ曲集Ⅰ,Ⅱ(ドレミ楽譜出版社) 読譜④ドレミ楽譜出版社)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領 幼児のための音楽教育(教育芸術社) 一人一人を大切に ユニバーサルデザインの音楽表現(明文書林)		
授業の評価方法・基準	基礎技術の習得は個人差もあるが、日々繰り返し練習と積極性が結果へと導かれる。 テスト 50%、発表 30%、提出物及び積極的な受講態度 20%、異常を評価の基準とする。		
履修条件	保育士、幼稚園の資格取得希望すること。毎日の練習、技術獲得に積極的に関わること。		
関連科目・次のステージ	「子どもの図工表現」「子どもの体育表現」等の音・図・体の表現系科目の関係性について復習すること。また、授業で学んだこと内容を、日常生活で可能な限り実践すること。後期では「子どもの音楽表現Ⅱ」を履修することとなる。		
オフィスアワー	水Ⅲ,Ⅳ 金Ⅲ		
受講生へのメッセージ	自分自身の感性に目覚め、五感を使って自然に敏感であれ! 常にチャイルドウォッチングを!!		

科目区分	専門	科目名	子どもと造形表現Ⅱ	担当者	玉城哲人		演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格、幼稚園教諭二種免許			
授業の到達目標	保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育要領に示された領域表現のねらい及び内容を理解し、幼児が造形活動を通して、「豊かな感性」を育み創造的に生きる資質や能力を育成するための理論や基礎知識・技術を習得する。また、郷土の自然と文化に誇りを持って創造的、主体的に学び続ける事を身につける。								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の造形表現の知識や技能の基礎・基本・技術を学ぶ。 ・演習を通して、幼児への豊かな感性を育むことの意味を体得する。 								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	○	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
		◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目							
		授業計画			時間外学習			時間	
1回		「子どもと造形表現Ⅰ」の振り返り、造形表現の例示と特性、様々な素材や道具の知識			事前: 事後:配布資料の読み返し			0.5時間	
2回		造形遊び① 乳児期0~2歳児 「乳児期の生活と造形・外遊び」			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
3回		造形遊び② 乳児期0~2歳児 「室内遊び」			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
4回		造形遊び③ 幼児期3歳児 「様々な素材や道具と楽しく出会い、のびのび遊ぶ」牛乳パック			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
5回		造形遊び④ 幼児期3歳児 「様々な素材や道具と楽しく出会い、のびのび遊ぶ」ストロー			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
6回		造形遊び⑤ 幼児期3歳児 「様々な素材や道具と楽しく出会い、のびのび遊ぶ」傘ポリ袋			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
7回		造形遊び⑥ 幼児期4歳児 「			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
8回		造形遊び⑦ 幼児期4歳児 「			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
9回		造形遊び⑧ 幼児期4歳児 「			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
10回		造形遊び⑨ 幼児期5歳児 「			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
11回		造形遊び⑩ 幼児期5歳児 「			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
12回		造形遊び⑪ 幼児期5歳児 「			事前: 事後:制作レポートの作成			1時間	
13回		保育所・幼稚園実習での部分責任実習(造形制作)の計画立案と方法について			事前:配布資料の予習 事後:配布資料の読み返し			0.5時間 0.5時間	
14回		部分責任実習(造形制作)の指導案の作成について			事前:配布資料の予習 事後:指導案の作成			0.5時間 1時間	
15回		部分責任実習(造形制作)の指導案の作成			事前:指導案の作成 事後:指導案の作成			1時間 1時間	

16 回	制作レポート、部分責任実習指導案のまとめ	事前:指導案の作成 事後:配布資料の読み返し	1 時間 0.5 時間
テキスト	保育園・幼稚園の「造形遊び」(成美堂出版)		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 幼児造形の研究(萌文書林)		
授業の評価方法・基準	レポート 50%、提出物(制作作品)40%、受講態度 10%をもって総合的に評価する。		
履修条件	子どもと造形表現Iを履修した者		
関連科目・次のステージ	子どもと造形表現II		
オフィスアワー	月曜日 4・5 校時、金曜日 2・5 校時、プレイルーム又は研究室 18 番(5 階)		
受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場では、子どもの「感性」を豊かに育てることを大切にしています。子どもの感性に寄り添うには「保育者自身の感性」も大切です。制作を通して、自ら表現する楽しさや面白さを発見してください。 ・各自で材料や道具等を用意することもあります。 ・レポート、作品等の提出期限を守ってください。 ・進度によっては内容を変更することもあります。 		

科目区分	専門	科目名	子どもと体育表現Ⅱ	担当者	前嵩西珠世・石垣愛一郎	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	必修	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格・幼稚園教諭二種免許状・児童厚生員二種免許				
授業の到達目標	幼児期における基礎的な身体能力を伸ばすための運動あそびを知る。さらに運動あそびを深めるために子どもの立場で考え、同時に先生役としての提供の仕方、場作り、安全確認等に必要な指導方法や知識・技能を意欲的に学び、理解する。								
授業概要	前半または後半の8週間で幼児期の発達の特性に即した各種の運動あそびや身体表現を展開し、理論と実技を学習する。最後がグループごとの体育あそび発表会でこれまで学んできたことを総合的に表現する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目② ○=DP 達成の為に重要な項目①④ △=DP 達成の為に望ましい項目③								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	ダンスの基本動作・リズム体操【実践1】(前嵩西)				事後：子ども向けリズム体操に使われる動きの理解を深めるための振り返り			1	
2回	4つの基本運動スキル 運動あそびのねらいについて(前嵩西)				事前：テキストP.32～40を読む 事後：ワークシートの復習、体力機能に関する用語を言えるようにする			2	
3回	身体表現あそび【実践1】指導上の留意点(前嵩西)				事前：指導者による子どもへの言葉かけが果たす役割について考える 事後：ワークシートの復習と振り返り			1	
4回	遊びの指導計画書作成【グループワーク】(前嵩西)				事前：グループ指導するあそびの題材を考えてくる 事後：グループ指導の予行演習			1	
5回	ダンスの基本動作・リズム体操【実践2】(前嵩西)				事前：ダンスの基本動作【実践1】の復習 事後：子ども向けリズム体操に使われる動きの理解を深める			1	
6回	身体表現あそび【実践2】(前嵩西)				事前：運動あそびの中の「表現」あそびの役割について考える 事後：ワークシートの復習と振り返り			1	
7回	実技試験準備 実技試験(前嵩西)				事前：グループ指導準備 事後：展開したグループ指導の良かった点、改善すべき点から、どのように活かしていくか、考えをまとめる			2	
8回	幼児教育現場における振り付けの実践・発表およびまとめ【グループワーク】(前嵩西)				事前：ダンスの基本動作【実践1】【実践2】にて学んだステップの復習 事後：ダンスの振り付けを幼児教育現場にてどのように活かしていくのか、考えをまとめる			1	
9回	大型遊具のあそび【マット】(石垣)				大型遊具を使ったあそびの際の子ども達への「声かけ」の仕方実践を学び、振り返る			1	
10回	大型遊具のあそびのあそび【跳び箱】(石垣)							1	
11回	大型遊具のあそび【平均台】(石垣)							1	
12回	身近な廃材を使ったあそび【新聞紙】(石垣)				事前：新聞紙を使ったあそびを検索しておく 事後：実践したあそびや一つのあそびから次への流れを振り返り、実習に備える			1	

13回	大型遊具総合あそび【サーキット】（石垣）	大型遊具の使い方を復習、試行錯誤を重ねて協働作業としてサーキットを完成させるイメージと事前話し合いをもつ	1
14回	あそび発表会に向けてのグループ決め、発表内容決め、順番決め（石垣）	事前：これまでのまとめとして発表、実践したいあそびをこれまでの資料を振り返り、指導案作成をもとに発表準備をする	2
15回	あそび発表会#1（石垣）	他のグループから学び、グループ発表後の反省を行い、実践に備える	1
16回	あそび発表会#2（石垣）	他のグループから学び、グループ発表後の反省を行い、実践に備える	1
テキスト	「幼児体育」理論と実践 日本幼児体育学会 編 第5版		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 幼児体育」応用編 山口智之 タイケン出版 「幼児期のためのティーボール遊び」前橋明著 大学教育出版 その他		
授業の評価方法・基準	記録ノート、振り返りシートの記入・提出70%、積極的かつ創意工夫、協力体制の際の態度30%		
履修条件	確実に出席した上で、個々の身体能力の関わらず、楽しみながら「少し頑張ればできること」にこだわり、さらに「もっと楽しくするためには、、、」という姿勢・態度を創造・実行につなげる。		
関連科目・次のステージ	「保育実習指導Ⅰ」につなげる。また保育内容「健康」および「表現」と併せて人前に立つ実践につなげる。		
オフィスアワー	事前相談の上、空き時間すべてをオフィスアワーとする。 石垣研究室：5階 13番 研究室		
受講生へのメッセージ	本授業で学んだことを常に実践に活かせることを自ら想定した上で仲間と協働して楽しみましょう！		

科目区分	専門	科目名	保育相談支援	担当者	上原健二	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格 必修				
授業の到達目標	保育者として向き合うことが予想される様々な相談支援の場面を想定し、現代の保護者が抱える様々な課題や困難に対する対応の視点を身につけている。あくまで子どもの育ちを中心に据えて、保育者として保護者とともに子どもの成長の喜びを共有する視点から保護者支援を捉えることができる。支援場面の実際について学ぶことで、ともに協力する保育者・支援者と共有するための支援のスキルを身につけている。								
授業概要	保育実践、特に保護者支援にかかわる基礎的知識及び技術を学ぶ。現代の保育を取り巻く保護者の現状や課題を踏まえ、保護者理解及び支援のためのアセスメントや相談技術に焦点を当てた視点を学ぶ。保育所や保育所以外の児童福祉施設、特別な課題を抱えるケースなど、様々な状況において取り組まれる保護者支援について習得する。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	○	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション、保護者支援の意義と基本的視点（子育てと現代社会の理解）			事後：保護者支援についての情報収集。（1h）			2H		
2回	保護者支援の意義と基本的視点（保護者の生涯発達を支えるための基本的視点）			事前：前回配付されたワークシートの記入（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
3回	保護者の育児不安・ストレス			事前：テキストP9～P15の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
4回	子どもの最善の利益と福祉の重視			事前：テキストP19～P29の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
5回	相談支援の技術（保護者の養育力向上に資する技術）、アセスメント			事前：テキストP32～P41の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
6回	保育者の基本的立場（保護者の自己決定を支える・秘密保持）			事前：テキストP32～P41の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
7回	家族支援・父親参加（ファミリーサポート）・ひとり親家庭			事前：テキストP54～P65の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
8回	次世代育成支援（中学生・高校生への視点）			事前：テキストP66～P69の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
9回	地域資源の活用と関係機関との連携・協力			事前：配付プリントの予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
10回	外来講話（地域との連携：学童保育など）			事前：配付プリントの予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
11回	保育所を利用する保護者への支援			事前：テキストP72～P86の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
12回	保育所における特別な対応を要する家庭への支援			事前：テキストP86～P88の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
13回	地域子育て支援事業における保育相談支援			事前：テキストP89～P109の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
14回	保育所以外の児童福祉施設における保育相談支援（児童養護施設など）			事前：テキストP112～P119の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ（1h）			2H 2H		
15回	保育所以外の児童福祉施設における保育相談支援（障がい児施設など）			事前：テキストP119～P123の予習（1h） 事後：授業の振り返りとまとめ、テスト勉強（1h）			2H 2H		

16回	テスト	事前：テスト勉強をする。(1h)	2H
テキスト	『保育相談支援』吉田ゆり・若本純子・丹羽さかの編著 光生館 2012年		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 『国民の福祉と介護の動向 2018/2019年(第65巻第10号)』厚生労働統計協会 2017年9月4日		
授業の評価 方法・基準	定期試験 60% 小レポート 10% 受講態度(グループワーク等の参加状況なども含む) 30%		
履修条件	保育士養成課程を中心とした授業科目を中心に、これまでに履修した学習内容及び各種実習などにおける直接的・間接的な体験を踏まえて受講すること。		
関連科目・次のステージ	2年前期までに学習した保育・社会福祉関連科目及び各種実習を踏まえて、卒業前の最後の学期に保護者等を対象とする支援の在り方を学び、深めることで、卒業後の資格取得後の保育者・教育者として求められる実践力につながる学びであることが望ましい。		
オフィスアワー	金曜日 5時間目		
受講生へのメッセージ	受講に当たっては、適宜ノート整理に努め、演習の際には積極的に参加すること。		

科目区分	専門	科目名	保育原理	担当者	名渡山よし乃	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング		資格・免許要件	幼稚園教諭2種免許 選択必修 保育士資格 必修				
授業の到達目標	保育所保育指針・幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要を把握し、保育の意義や保育の基本、保育の歴史等について他者に説明することができる。保育の現状と課題に関心をもち、幼児の姿をイメージしようとしながら学び続ける姿勢を身につける。								
授業概要	保育原理では、幼稚園教育要領・保育所保育指針等の趣旨をふまえ、主に保育の意義や保育の目的及び目標、保育の歴史などを理解して、保育の基礎的知識の習得を目的とする。さらに、保育の現状と課題を概観し、自ら課題意識をもち、「保育の本質」とは何かについて模索する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	<input checked="" type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	<input type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	<input type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画	時間外学習	時間					
1回	オリエンテーション (履修登録・講義概要説明等) 保育とは何か①	事前：教科書 第1章 復習 事後：テキストに目を通す	2H 2H						
2回	保育とは何か② 「保育」と「養護」及び「教育」の関係、保育の専門性	事前：教科書 第1章「保育とは何か」 復習 事後：配付資料の読み返しと用語の確認	2H 2H						
3回	保育の基盤としての子ども観・保育観	事前：配付資料を事前に読む 事後：教科書 第2章 復習	2H 2H						
4回	子ども理解から出発する保育	事前：新聞から子どもに関する記述を読んで感想を書く 事後：倉橋惣三の育ての心をよむ	2H 2H						
5回	子どもの発達をとらえるまなざし	事前：配付資料に目を通す 事後：教科書 第3章 子ども理解から出発する保育 復習	2H 2H						
6回	子どもが育つ環境の理解	事前：自分が通っていた園の環境を書く 事後：教科書 第4章 子どもが育つ環境の理解 復習	2H 2H						
7回	保育内容・方法の原理	事前：しつけについて自分の考えをまとめる 事後：教科書第5章をまとめる	2H 2H						
8回	『保育所保育指針』について	事前：法令ハンドブックを読み、語句に線を引く 事後：配付資料を読んでまとめる	2H 2H						
9回	『幼稚園教育要領』について	事前：法令ハンドブックを読み、語句に線を引く 事後：配付資料を読んでまとめる	2H 2H						
10回	子どもの健康・障害のある子どもへの対応	事前：第7章健康・安全と障がいのある子への対応 予習 事後：第7章復習	2H 2H						
11回	集団保育施設の誕生と発展 (西欧)	事前：保育の思想家について調べ学習をする 事後：配付資料等を使って復習をする	2H 2H						
12回	集団保育施設の誕生と発展 (日本)	事前：日本の保育の思想家について調べ学習をする 事後：配付資料等を使って復習をする	2H 2H						
13回	保育者に求められるもの	事前：第9章保育者に求められるものを予習する 事後：保育者に求められるものについてまとめる	2H 2H						
14回	保育の現状と課題 子育てを取り巻く社会の変化と保育の課題	事前：新聞等で保育に関する記事をまとめる 事後：第12章を復習する	2H 2H						

15回	保育の現状と課題 海外の保育について	事前：海外の保育について調べる 事後：配付資料等をもとに海外の保育についてまとめる	2H 2H
16回	テスト及びまとめ	事前：テスト勉強をする 事後：テストの振り返りをする	2H 2H
テキスト	最新保育講座1 保育原理（第3版）森上史朗・小林紀子・若月芳浩編 ミネルヴァ書房 ¥2160 ここがポイント3 法令ガイドブック 無藤隆 汐見俊幸 砂上史子著 フレーベル館 ¥1000 絵本カード・リング ¥500（書店ではなく授業時に直接販売します）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業中に適宜提示する		
授業の評価 方法・基準	毎時間の振り返りシート（35%）確認テスト（15%）試験（40%）授業態度（10%）で総合的に評価する。		
履修条件	保育について学びたいという積極的な心構え		
関連科目・次のステージ	「保育内容 総論」、「保育内容 健康」、「社会福祉」等の科目とも関連づけて復習をすること。また、日常生活の中で保育に関する情報に関心をもつこと。		
オフィスアワー	授業終了後及び木曜1校目（廣瀬）アポイントをとること。hirose-m@owjc.ac.jp(廣瀬)47066YOSI@city.naha.lg.jp(新島)		
受講生へのメッセージ	提出物の提出期限を遵守すること。日常的に保育に関する情報に関心を持ち、子どもとふれあえる機会があれば積極的に参加をして自らの学びと結びつけるようにすること。		

科目区分	専門	科目名	保育内容「健康」	担当者	石垣愛一郎	授業形態	講義	単位数	1
卒業要件	必修	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、児童厚生二級指導員				
授業の到達目標	1. 日本の乳幼児期の社会保障システムを理解することができる。 2. 新生児から幼児期に至るまでの発育発達を理解することができる。 3. 幼児期の運動あそびの意義と保育者の役割を理解し、実践することができる。 4. 幼児期に発生しやすい怪我や疾患を理解し、その対処法と防止策について考えることができる。 5. クラスメイトと共同して調べ学習、資料作成、発表ができる。								
授業概要	5領域の中の「保育内容 健康」の意味、位置付けを理解し、新生児期から乳幼児期における心身の発達発育を理解し、発達発育段階に合わせた関わり方を理解した上で、自立の促し方、生活習慣の確立、運動あそびの意義、安全教育の指導ポイントを総合的に学ぶ。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
◎=DP 達成の為に特に重要な項目② ○=DP 達成の為に重要な項目③④ △=DP 達成の為に望ましい項目①									
	授業計画				時間外学習				時間
1回	オリエンテーション 教育・保育の歴史を学ぶ				事後：宿題；自分が住んでいる市町村の乳幼児のヘル スシステムについて調べる				1
2回	「健康」とは、領域「健康」がめざすもの 子どもの運動あそびを阻害する現代的課題の発表				事前：各市町村ヘルスシステムの検索 事後：「演習1」を読み込む				1
3回	幼児の生活スタイル、体格・運動能力の現状と課題				事前：教科書「演習2」を読み込む 事後：教科書「演習2」を読み込む				1
4回	幼児の発達理解#1 発育発達の概念、胎児からの発達				事前：教科書「演習3」を読み込む 事後：教科書「演習3」の復習				1
5回	幼児の発達理解#2 幼児の体格と生理機能の発達				事前：教科書「演習4」を読み込む 事後：教科書「演習4」の復習				1
6回	幼児の発達理解#3 運動機能、心の発達・人間関係・社会性				事前：教科書「演習5」を読み込む 事後：教科書「演習5」の復習				1
7回	幼児期のあそびとは何か 伝承あそびの実践 グループ別振り付け発表「あんたがたどこさ」				事前：教科書「演習6」を読み込む 事後：伝承遊びの意味を振り返る				1
8回	自ら体を動かそうとする意欲を育てる 0～2歳児の動きを理解する				事前：教科書「演習7・8・9」を読み込む 事後：各グループプレゼンテーションを振り返る				1
9回	運動あそびの実践#1 グループ別運動あそびの発表				事前：教科書「演習10・11・12」を読み込む 事後：各グループからの学びを振り返る				1
10回	運動あそびの実践#2 グループ別運動あそびの発表				事前：教科書「演習10・11・12」を読み込む 事後：各グループからの学びを振り返る				1
11回	子どものあそびに関する「動機づけ」の種類をゲームを通して考える				事前：教科書「演習13」を読み込む 事後：配布資料をもとに振り返り、理解を深める				1
12回	幼児に発生しやすい怪我・疾患について グループ別の怪我・疾患についての検索発表				事前：教科書「演習5・14」を読み込む 事後：各グループからの学びを振り返る				1
13回	安全管理と安全教育、応急処置法 安全な服装、環境理解と整備を考える				事前：教科書「演習5・14」を読み込む 事後：第8章及び配布資料の振り返り				1

14回	子どもを外遊びに誘い出す手立てを学ぶ 絵本の読み聞かせからのグループ別プレゼンテーション	事前：教科書「演習15」を読み込む 事後：運動あそびと関係する絵本を検索する	1
15回	保育実習Iを見据えた年間指導計画から日案までの流れ 運動あそびの立案、指導案の書き方等について	事後：配布資料をもとに自身の保育実習Iを見据えた運動あそび指導案を作成する	1
16回	テスト・まとめ	事前：これまでの総まとめ 事後：テストの振り返り	1
テキスト	「演習 保育内容 健康」川邊貴子編著（2016年 第9版）建帛社		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 『新 保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容 健康（新版）』北大路書房 『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会編著（2014年 第1版第1刷）杏林書院、その他		
授業の評価 方法・基準	授業内の積極的態およびグループワークの参加態度・発表50% 課題レポート20% テスト30%		
履修条件	特になし		
関連科目・次の ステージ	『教科専門体育』『保育の表現技術I』その他の5領域『保育内容 人間関係』『保育内容 環境』『保育内容 言葉』 『保育内容 表現』につなげる		
オフィスアワ ー	事前相談の上、担当教員の空き時間をオフィスアワーとする。 石垣研究室:5階 13番 研究室		
受講生へのメ ッセージ	乳幼児及び自身にとっての「健康」という最大テーマを楽しく学びましょう！		

科目区分	専門	科目名	保育内容人間関係	担当者	柳生崇志	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	幼稚園教諭二種必修、保育士必修				
授業の到達目標	領域「人間関係」のねらいと内容の理解を深め、乳幼児期の人間関係の発達について考察する。同時に保育現場における「人間関係」の様々な指導のあり方や実践方法について事例を通して話し合い、保育者自身の考え方、価値観の判断基準を身につける。								
授業概要	乳幼児期における「人間関係」を様々な視点から事例を通して考える。グループワークやディベートゲームを通して自身の考えを主張すること、他者の考えを理解することを基本的姿勢として、受講生自身が多様性を身につけ、自らの変容に気づけるような展開を試みる。								
ディプロマ・リシ- (DP) と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input checked="" type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目、○=DP 達成の為に重要な項目、△=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画			時間外学習			時間		
1回	オリエンテーション（受講案内） 領域「人間関係」の位置付け			事前：なし 事後：配布資料を読み直し、内容を十分に整理・記憶する			1h		
2回	乳幼児期における人との関わりの発達① 0・1・2歳の関わり			第2回～第9回					
3回	乳幼児期における人との関わりの発達② 3・4・5歳の関わり								
4回	乳幼児期の「人間関係」をどう評価するか			事前：授業予定の内容について他科目テキストや「指針」「要領」を読む			1h		
5回	遊びを通じた社会性の発達								
6回	個から集団へ			事後：授業ノートの整理			1h		
7回	乳幼児の認知と行動の特性を踏まえた保育の展開								
8回	自己理解と他者理解								
9回	「人間関係」の変容								
10回	多様な体験から多様な他者を知る			事前：自分自身の対人関係の特徴を分析する 事後：授業中に行うワークの内容を十分に整理・記憶する			1h 1h		
11回	乳幼児の「人間関係」を理解し促進するための保育構想① 指導案を読み解く			事前：指導案の見方を整理する 事後：指導案の読みを深める			1h 1h		
12回	乳幼児の「人間関係」を理解し促進するための保育構想② 指導案を作成する			事前：指導案の作成方を整理する 事後：作成した指導案をブラッシュアップする			1h 1h		
13回	他者理解と「人間関係」構築のデモンストレーション① 模擬保育の計画			事前：指導案のアイデア出し、下書き 事後：作成した指導案をブラッシュアップする			1h 1h		
14回	他者理解と「人間関係」構築のデモンストレーション② 模擬保育の実施・検証			事前：模擬保育の準備 事後：模擬保育の振り返り			1h 1h		
15回	子ども・保護者・保育者の「人間関係」を振り返る			事前：前回までの授業内容を振り返る 事後：定期試験対策計画の立案			1h 1h		
16回	試験と講評			事前：定期試験対策 事後：定期試験の答え合わせと分析			1h 1h		
テキスト	必要に応じて教場で資料を配布する。購入は不要								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および各解説書								
授業の評価方法・基準	総合評価（成績）＝期末試験（50％）＋各種課題（複数合計40％）＋受講態度（10％）								
履修条件	資格取得に強い意志を持って授業に望むこと								
関連科目・次のステージ	保育内容の各領域、および心理学関連科目の内容とリンクさせること 子どもの社会性発達を支えるための知識や技能のみならず、自分自身の社会性発達の実現もめざすこと								
オフィスアワー	水曜午前。その他の時間は教場にて案内します								
受講生へのメッセージ	"Heaven helps those who help themselves." E-mail: yagyu@owjc.ac.jp 柳生研究室：5階 5番研究室								

科目区分	専門	科目名	保育内容「環境」	担当者	村吉和美	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	幼稚園教諭二種免許状必修 保育士資格必修				
授業の到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された「環境による教育」とは何か 乳幼児にとって、環境とは何か、教師の意図性と子どもの育ちをキスト及び幼稚園教育要領・保育所保育指針、実践の様子を映したパワーポイント等で学び、グループワークを実施しながら、子どもが「もの・人・こと」にかかわる意味と保育の関係を理解し、指導計画の立案に活かすことができる。								
授業概要	幼児教育は「環境を通して行う教育」である。幼児教育という環境とは何かを理解し、その環境に教師の意図を絡ませて行う保育の意味を探る。また、どのような環境構成をすれば幼児がさらに興味関心を高め継続的に遊べるか、そこから何が育つのか、その育ちが幼稚園教育要領・保育所保育指針でどのように表現されているかをグループ協議や発表などを通して理解を深める。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目									
			授業計画			時間外学習		時間	
1回	幼児教育の基本①：幼児教育の目的と領域・環境を通しての教育					事前：テキスト p19～p31 を読み込む 事後：「領域」とは何かをまとめること	1H 1H		
2回	演習「朝顔の種まき」					事前：配布プリントの読み込む 事後：朝顔の成長日記の作成	1H 1H		
3回	幼児教育の基本②：幼児教育の基本・保育者の様々な役割 保育者の仕事について話し合い、保育者の役割を知る					事前：テキスト p32～p35 を読み込む 事後：保育者の役割についてまとめる	1H 1H		
4回	幼児教育の基本③：領域「環境」と他の領域との関係 領域「環境」のねらい内容のそれぞれの意味を理解する。					事前：p36～p42 を読み込む 事後：領域「環境」のねらいと内容を書き取る	1H 1H		
5回	乳幼児期の育ちと領域「環境」 DVD視聴しながら環境との関わりを考える					事前：テキスト p 43～p 78 を読み込む 事後：DVDを見ての気づきをまとめる	1H 1H		
6回	自然に親しみ植物や生き物に触れる①：自然の美しさ・大きさ・不思議さに気づく					事前：p80～p86 を読み込む 事後：自然への興味関心を育てる環境構成について考える	1H 1H		
7回	ものや道具との関わって遊ぶ①：道具を使って遊ぶ・工夫する 園内の道具、身近なものとは？工夫するとは？環境構成とは？					事前：テキスト p107～p119 p125～130 事後：幼児にとって道具の意味と役割をとらえる。環境構成との関わりを知る	1H 1H		
8回	ものや道具との関わり②：性質や仕組み・法則に気付く・公共心					事前：テキスト p116～p124 を読み込む 事後：公共心はどのように育つかまとめる	1H 1H		
9回	文字や標識、数量や図形への関心①：文字・標識・数字・量・図形・文字への感覚とは？ 生活や遊びの中の標識とは？					事前：テキスト p131～p160 を読み込む 事後：幼児期の文字への感覚を遊びでどのように育てるか、その際の留意することは	1H 1H		
10回	自然との関わり②：植物を育てる・取り入れて遊ぶ・気付く・命を大切に 演習：栽培した「朝顔」を使って色水を作る。					事前：テキスト p87～106 を読み込む 事後：4章で学んだ事についてまとめる	1H 1H		
11回	遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ①：遊びと情報 どのような情報の出会いがあるか？					事前：テキスト p161～p181 を読み込む 事後：幼児にとっての情報とは？	1H 1H		
12回	遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ②：文化に触れる					事前：テキスト p179～p188 を読み込む 事後：7章で学んだ事についてまとめる	1H 1H		
13回	幼児期の思考力の芽生え①：関わる、出会う、気づく、発見する、考える					事前：テキスト p189～p 200 を読み込む 事後：思考力の芽生えとは何か？	1H 1H		
14回	幼児期の思考力の芽生え②：考える、思考する協同的に学ぶ 考えると思考するはどう違うのか					事前：テキスト p201～p204 を読み込む 事後：8章で学んだ事についてまとめる	1H 1H		

15 回	幼児教育と小学校との接続 映像を通して幼小連携、接続について知る	事前：テキスト p216p～217 を読み込む 事後：なぜ幼児教育と小学校教育の接続が必要か	1H 1H
16 回	まとめとテスト	事前：テスト範囲について復習する	1H
テキスト	事例で学ぶ保育内容 領域環境 無藤 隆（監修） 福元真由美（編者代表） 萌文書林 定価 2000+税 2017 年告示 幼稚園教育要領		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか 著・汐見稔幸 小学館 2017 年告示版 幼稚園教育要領ハンドブック 無藤 隆（監修） 学研		
授業の評価 方法・基準	テスト（70%） 課題（振り返りシート・レポート）（20%） 授業への参加度（10%）		
履修条件	保育者を指す目的意識をもち、主体的に授業に取り組むこと。		
関連科目・次の ページ	領域：「健康」「言葉」「人間関係」「表現」との関連を見通す。 指導計画では領域のねらい・内容がどのように入れ込まれているかを知る。		
オフィスアワー	授業開始前 授業終了後 その他必要に応じて設定する。		
受講生へのメッセ ージ	前時の授業を復習し、疑問に思ったこと等を授業時または終了後に質問をする等、解決できるようにする 出席は授業開始時とする。（遅刻については、授業後各自申し出ること） ノートは必要に応じて提出するので、毎回日付を記載し、一冊にまとめておくこと		

科目区分	専門	科目名	保育内容 表現	担当者	小波津 美奈子	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士、幼稚園教諭			
授業の到達目標	保育所保育指針・幼稚園教育要領の保育内容領域「表現」には「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」観点から、具体的なねらいと内容が記されている。保育者がこのような観点から保育を創造していくにはどのような力を備えていけばよいのかを理解し、可能な限り実際と結びつけながら獲得することを身に付ける。								
授業概要	保育所保育指針・幼稚園教育要領を基底に、「豊かな表現」は「豊かな保育環境から生まれる」ということを理論的・実践的に理解していく。また、子どもと共に生活する保育者の子ども観や発達観が乳幼児期の「表現(表出)」する意欲に大きく関わり、評価の視点を決定していること等を、グループワークを取り入れながらさまざまな事例研究や実践演習を通して学ぶ。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画	時間外学習			時間		
1回	オリエンテーション・この科目で学ぶこと・テキストについて			事後:オリエンテーション・講義計画の内容復習と理解。			0.5H		
2回	保育内容領域「表現」とは・・・幼稚園教育要領・保育所保育指針の仕組みと考え方を踏まえながら			事前:幼稚園教育要領及び、保育所保育指針の5領域「表現」の予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
3回	保育内容領域「表現」を読み解こう!!① 5領域の捉え方と領域「表現」			事前:テキスト「5領域の捉え方」の予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
4回	保育内容領域「表現」を読み解こう!!② ねらい・内容・内容の取扱い			事前:ねらい・内容・内容の取扱いの予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
5回	保育内容領域「表現」を読み解こう!!③ 乳幼児期の「発達」を捉えながら、様々な「表現」を観る			事前:エピソードの捉え方の予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
6回	「意味世界」としての生活世界			事前:「意味世界」としての生活世界の予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
7回	「表現」と環境構成			事前:「表現」と環境構成の予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
8回	実践演習① 「受け止めること・表すこと」			事前:体育館での演習準備と予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
9回	実践演習② 身体を使った表現			事前:身体と向き合う為の柔軟運動と予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
10回	実践演習③ コミュニケーションとしての表現			事前:資料の予習(0.5H) 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
11回	実践演習④ 音楽的表現			事前:グループ学習の取り組みと予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
12回	実践演習⑤ 造形的表現			事前:グループ学習の取り組みと予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
13回	模擬保育① これからの保育のあり方を考えながら			事前:模擬保育への取り組みと予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		
14回	模擬保育② 「表現」を支えるための保育者として			事前:模擬保育「表現」を支える保育者の役割予習 事後:授業の振り返りと子ども理解			0.5H 0.5H		

15回	現代社会と「表現」の問題 幼児教育・保育と小学校教育との連携 総合まとめ	事前:今までの振り返りと保・幼・小連携 事後:授業の振り返りと子ども理解	0.5H 0.5H
16回	テスト		
テキスト	*演習 保育内容表現 :岡 健・金澤 妙子 編著		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 『事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』無藤 隆監修浜口 順子編集代表 (萌文書林) 『保育内容「表現」』黒川健一編 ミネルヴァ書房 *幼稚園教育要領解説*保育所保育指針解説書*配布プリント		
授業の評価 方法・基準	受講態度(毎回グループワークにおいて能動的に参加し、「わかる」ことを目指す態度)20%レポート 40%、テスト 40%		
履修条件	1年B・C・Dクラス 2年Aクラス		
関連科目・次のステージ	5領域である「保育内容 言葉」「保育内容 環境」「保育内容 人間関係」「保育内容 健康」との領域性を理解し、異なる専門科目との結びつきや子ども理解、保護者支援等の保育者としての視点への研究を深めて行く。		
オフィスアワー	水曜日Ⅲ 金曜日Ⅲ・Ⅳ		
受講生へのメッセージ	様々な事例を通して学んでいきますが、日々のチャイルドウォッチングと自己の研ぎ澄まされた感性の方向性に期待しています。		

科目区分	専門	科目名	保育内容 言葉	担当者	廣瀬真喜子・平田千悦子	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格選必 幼稚園教諭2種免許必修				
授業の到達目標	乳幼児期の言葉の特徴や発達について他者に説明できる。幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらいと内容について保育場面の観察等を通して学び他者に説明することができる。子どもの言葉を育むための支援方法について児童文化財の製作や実践などを通して身につける。								
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」について学ぶ。乳幼児期の言葉の発達を学び、豊かな言葉を育むための保育者とのかわわりと指導法について、事例をとりあげながら理解を深める。児童文化財は子どもの言葉の育ちや発達全般を促す言語教材であることを理解し、製作・実践を行い保育現場で活かせる技術を習得する。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input checked="" type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画			時間外学習			時間		
1回	オリエンテーション 保育内容「言葉」の意義			事前：テキスト購入 事前に本に目通す 事後：事後：配付資料の読み返し			(0.5H) (0.5H)		
2回	領域「言葉」のねらいと内容			事前：教科書第2章領域「言葉」のねらいと内容 予習 事後：配付資料等の読み返しと用語の確認			(0.5H) (0.5H)		
3回	子どもの言葉の発達			事前：教科書第3章言葉のめばえ 予習 事後：言葉の発達についてまとめる			(0.5H) (0.5H)		
4回	子どもの言葉と環境			事前：教科書第4章子どもの言葉と環境 予習 事後：子どもの言葉の環境として必要なことについてまとめる			(0.5H) (0.5H)		
5回	保育者の指導・支援			事前：教科書第5章保育者の指導・支援 予習 事後：配付資料の読み返し			(0.5H) (0.5H)		
6回	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援			事前：教科書第6章言葉での関わりに配慮を必要とする子への支援予習 事後：配付資料の読み返しと用語の確認			(0.5H) (0.5H)		
7回	保育内容「言葉」で大切な事（合同授業）			事前：教科書第7章保育者の言葉 予習 事後：配付資料の読み返し			(0.5H) (0.5H)		
8回	保育者の言葉			事前：合同授業の振り返り 事後：配付資料の読み返し			(0.5H) (0.5H)		
9回	言葉を育てる児童文化財・遊び① ことばあそび・絵本・紙芝居			事前：テキスト第9章「言葉遊び」について予習 事後：テキスト、配布資料の読返し			(0.5H) (0.5H)		
10回	言葉を育てる児童文化財・遊び② ペープサート I			事前：作品内容の決定 事後：次週の提出期限に間に合うよう仕上げ、演じる練習			(0.5H) (0.5H)		
11回	言葉を育てる児童文化財・遊び③ 影絵			事前：演じ方のシナリオ作成 事後：演じ方の反省レポート提出			(0.5H) (0.5H)		
12回	言葉を育てる児童文化財・遊び④ 手袋人形（演習）			事前：なし 事後：次週までに仕上げる			(0.5H) (0.5H)		
13回	言葉を育てる児童文化財・遊び⑤ 紙を使って（新聞話・しかけ絵話）			事前：作品内容の決定 事後：配布プリントの読返し。作品を仕上げる			(0.5H) (0.5H)		

100

14回	言葉を育てる児童文化財・遊び⑥ パネルシアター・エプロンシアター	事前：エプロンシアターについて予習 事後：対象年齢と作品内容について考察	(0.5H) (0.5H)
15回	言葉を育てる児童文化財・遊び⑦ 課題発表	事前：演じ方練習 事後：演じ方の反省レポート提出	(0.5H) (0.5H)
16回	テスト・まとめ	事前：テスト勉強をする	(0.5H) (0.5H)
テキスト	保育者を目指す人の保育内容「言葉」第2版 駒井美智子編 みらい出版 ¥2160		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業中に適宜提示する。		
授業の評価方法・基準	授業への取り組み・実技発表（30％） 作品製作・レポート（20％）筆記試験（20％） 毎回の提出用紙（30％）		
履修条件	授業には積極的に参加し、発表は子どもに対して行うときと同じ心構えで臨むこと。課題の製作は、期限までに仕上げて提出する。		
関連科目・次のステージ	「保育原理」、「保育内容総論」等の関連科目について復習すること。また、授業で学んだことを日常生活や保育現場等でできる限り実践すること。		
オフィスアワー	授業終了後（平田）及び月曜日4校目（廣瀬）。事前にアポイントをとること。hirose-m@owjc.ac.jp(廣瀬)		
受講生へのメッセージ	教材等を自分で準備することもあるので、連絡を聞き逃さないように注意すること。 毎回の提出用紙の提出期限を遵守すること。		

科目区分	専門	科目名	保育者論	担当者	平田美紀(実務経験者)	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格・幼稚園教諭二種免許状必修				
授業の到達目標	「保育者」とは何か、「保育者」はどのような役割を担っているのか、「保育者」について多角的に学び知識を身につける。大人として「保育」の原点を学ぶとともに、狭義には専門職としての法的位置付けや職務内容も含めて理解し、「保育者の専門性」を世間一般に説明することができる。								
授業概要	「保育者」について文献や資料を読み深めたり実践映像を観たりして学び、ディスカッションを通して様々な考えがあることを体感し物事を多面的に考察する力を身につける。受講生一人一人が、多様な考えを真摯に受け止める中で、自らの保育者・教育者としての資質や能力を主体的に高める向上心を持ち、自分の授業として能動的に学びを深める。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<p>△ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける</p> <p>◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。</p> <p>◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。</p> <p>○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。</p> <p>◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション 授業概要説明 序章 なぜ「保育者論」を学ぶのか				事後:保育系専門科目の関連性を考え、テキストの「序章」をしっかりと読み返す			1時間	
2回	保育をおこなう者とは ・保育者に課せられる服務上、身分上の義務、身分保障等				事前:次回の内容について、テキストの該当ページを読み、疑問点等、意識をもって授業に臨む。 事後:毎回、次週の授業までにノートに「自主学习」のページを設け、授業の振り返り及び「保育者」に関連する内容の学習をする。			各 0.5 時間	
3回	保育をおこなう者の多様性 ・様々な保育の場に共有されるべきこと								
4回	保育者の専門性と「遊び」① ・なぜ「遊び」について学ぶのか								
5回	保育者の専門性と「遊び」② ・保育者の専門性と「遊び」								
6回	保育者の専門性と「環境」① ・なぜ「環境」について学ぶのか								
7回	保育者の専門性と「環境」② ・保育実践と「環境」								
8回	保育者の専門性と「生活」① ・なぜ「生活」について学ぶのか								
9回	保育者の専門性と「生活」② ・保育者として「生活」をとらえる								
10回	保育者の専門性と子育て支援① ・なぜ「子育て支援」を学ぶのか ・原則								
11回	保育者の専門性と子育て支援② ・子育て支援における保育者の専門性								
12回	保育者の専門性とは ・反省的実践家の視点と保育の具体化				事前:質問事項などを確認できるよう復習 事後:試験に向けて総復習をする			各 1 時間	
13回	養成校で「保育者論」をアクティブに学ぶ① ・個人学習								
14回	養成校で「保育者論」をアクティブに学ぶ② ・G 学習								
15回	保育者の専門性を高めるために ・保育所実習を意識して ・これまでの振り返り、総まとめ							4時間	
16回	試験								
テキスト	<p>○『これからの保育者論～日々の実践に宿る専門性～』高橋貴志著 萌文書林 2017年 1,800円</p> <p>○『幼稚園教育要領解説』(文部科学省) ○『保育所保育指針解説』(厚生労働省)</p> <p>○『認定こども園保育・教育要領』(内閣府) ※①～③は前期購入済み</p>								
参考資料など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>○『保育者の地平』津守眞著 ミネルヴァ書房 ○『育ての心』倉橋惣三 フレーベル館</p> <p>○ その他、適宜内容に応じた資料を配布</p>								
授業の評価方法・基準	受講態度(毎回能動的に参加し、「わかる」ことを目指す態度)、課題、試験等総合的に行う。 課題 30%、受講態度(グループワークへの参加態度等含む)30%、試験 40%								
履修条件	「子ども」と「保育」を探究する気持ちと意欲を持っている人、ともに学びましょう!								
関連科目・次のステージ	○前期間学んだ全ての専門科目について、関連付けながら学ぶ。 ○「保育者」に関わる記事、情報等に意識を持ち、授業で学んだことを日常生活で可能な限り実践すること。								
オフィスアワー	授業や会議がない時間帯で調整可能です。								
受講生へのメッセージ	「保育者」になる夢が益々膨らむ時間になるよう、後期も「子ども」から学んでいきましょう!								
実務経験	就学前教育・保育現場を多様な立場で経験した内容を踏まえ、現在の保育現場に求められる[保育者]について多角的に概説する。								

科目区分	専門	科目名	教職実践演習	担当者	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	小学校二種必修 幼稚園二種必修				
授業の到達目標	教員になる上で何が必要であるかを自覚し、備えるべき知識・技能を培い、確かな定着を図る。また教職生活をより一層円滑にできるように実践的演習を行い、教員としての資質向上を目指す。								
授業概要	教員として求められる4つの事項を演習・実技・観察等を通して実践的に学ぶ。 ①使命感や責任感、児童への教育的愛情に関する事項 ②社会性やコミュニケーション能力(対話力)に関する事項 ③児童理解や学級経営に関する事項 ④教科・領域等の実践的指導力に関する事項								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	オリエンテーション(演習の趣旨)・実習の振り返り				事前:実践演習の趣旨を調べ講義に生かせるようにをまとめておく 事後:講義の趣旨を知り実習の成果と課題もまとめる				
2回	児童の問題行動に対して対応策等を学ぶ				事前:校内の問題行動について前もって調べておく 事後:問題行動の項目に沿って対応策をまとめる				
3回	教育実習成果を報告し児童理解等を学ぶ(合同)				事前:教育実習で学んだこと等1年次にも報告位できるようにまとめておく 事後:教育実習の成果と課題を具体的にまとめる				
4回	学習指導の基本的事項を学ぶ(教材・板書等)				事前:実践授業の諸指導法について調べておく 事後:授業の諸指導法についてまとめる				
5回	実習中の指導案を基に模擬授業の準備を行う				事前:教育実習での指導案を見直し模擬授業に生かせるようにまとめておく 事後:指導案を細かく見直し実践的にまとめる				
6回	電子黒板を活用した指導方法を学ぶ				事前:電子黒板のよさについて調べておく 事後:電子黒板の有効利用法をまとめる				
7回	模擬授業Ⅰを実践して学び合う				事前:個人の指導案を見直し発表する準備をしておく 事後:グループを中心に模擬授業の成果や課題をまとめる				
8回	模擬授業Ⅱを実施して学び合う(合同)				事前:代表授業者の指導案を点検しておく 事後:合同模擬授業から学んだ成果と課題をまとめる				
9回	学級経営(複式学級を含む)について学ぶ				事前:学級担任として学級経営で大事にすべきことを調べておく 事後:学級経営の重要性を細かくまとめる				

10回	接遇・マナー等について学ぶ	事前：教師としては是非守らなければならないマナー等調べておく 事後：教師としての接遇・マナー等をまとめ実践できるようにする	
11回	幼小連携について学ぶ	事前：幼稚園と小学校の接続について調べておく 事後：幼小連携の意義を具体的にまとめる	
12回	外国語教育について学ぶ	事前：小学校での外国語教育の重要性を調べておく 事後：英語科導入に対する指導方法を実践的にまとめる	
13回	平和教育及び人権教育等について学ぶ	事前：なぜ平和教育及び人権教育が大事なのか調べておく 事後：平和教育・人権教育の重要性をキーワードを基にまとめる	
14回	学校現場教諭の指導法を学ぶ	事前：学校現場教諭に是非聞いておきたいこと等準備しておく 事後：専門的立場から各教科・領域等の指導法等、学んだものをまとめる	
15回	めざす教師像について発表し学び合う	事前：目指す教師像について3分間スピーチできるように準備しておく 事後：自己のめざす教師像をまとめ達成できるようにする	
16回	まとめのテスト及び反省と評価（ファイル提出）	事前：講義のまとめと課題を確認しておく 事後：学んだことを今後の教育実践に生かす	
テキスト	小学校学習指導要領解説（総則編・各教科編）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 ①沖縄県の教育基本方針 ②沖縄県の学力向上対策 ③学校運営計画 ④学習指導案作成の工夫 ⑤児童理解のあり方		
授業の評価方法・基準	テスト(70%)、教育実習の課題解決(5%)、学級経営案(5%)、学習指導案(5%)、提出物(5%)、学習ファイルのまとめ(10%)等で評価する。		
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。		
関連科目・次のステージ	小学校学習指導要領解説の総則編及び各教科編を熟読すること。 小学校の実践指導に生かすことができる。		
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。		
受講生へのメッセージ			

科目区分	専門	科目名	保育・教職実践演習 (保・幼・小)	担当者	石垣・上原・砂川・玉城・小波津 渡名喜・平田・廣瀬・柳生	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格必修・幼稚園教諭二種免許状必修				
授業の到達目標	<p>これまでの学習を5つの観点(※1)から主体的に振り返り、将来、保育者になる上で、自己にとって何が課題かを理解する。また、本演習は保育者になるうえで2年間の総まとめの科目となるため、卒業に向けて、必要に応じて不足している知識や技能等を補うよう努力する姿勢が出来る。さらに、専門職としての生活を円滑にスタートすることとする。</p> <p>※1①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③子ども理解や学級経営に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項、⑤保育に関する現代的課題についての現状分析等に関する事項</p>								
授業概要	<p>教育現場・保育現場と連携し、現職の保育者の講話や実習体験、これまでの教科に関する授業内容の振り返りを踏まえて、少人数グループの活動を通して個別のテーマに基づいた個別課題のまとめや発表を行う。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<p>◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける</p> <p>◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。</p> <p>◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。</p> <p>◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。</p> <p>◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目</p>								
			授業計画		時間外学習				時間
1回	オリエンテーション、「履修カルテ」を活用したこれまでの振り返り ※大教室				事後:1年半の間に学習した内容の振り返りと次週から始まるオムニバス授業の理解と予習				2H
2回	専門分野ごとの振り返り オムニバス①「幼保・保育の表現技術(音図体)・環境・児童心理・児童福祉」の各分野に焦点を当てた振り返り(各分野の内容に応じて、事例研究・ロールプレイ・模擬授業等を実施)※以下、分野ごとに9回、グループ毎に実施。				事前:担当教員①専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと保育・教育実践演習の最終目標と理解				2H 2H
3回	専門分野ごとの振り返り オムニバス②				事前:担当教員②専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと内容の理解				2H 2H
4回	外来講話(保育職の卒業生)※(金・5)大教室				事前:外来講話設定の内容理解と予習 事後:外来講話の振り返りと内容の理解				2H 2H
5回	専門分野ごとの振り返り オムニバス③				事前:担当教員③専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと内容理解				2H 2H
6回	専門分野ごとの振り返り オムニバス④				事前:担当教員④専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと内容理解				2H 2H
7回	専門分野ごとの振り返り オムニバス⑤				事前:担当教員⑤専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと内容理解				2H 2H
8回	専門分野ごとの振り返り オムニバス⑥				事前:担当教員⑥専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと内容理解				2H 2H
9回	専門分野ごとの振り返り オムニバス⑦				事前:担当教員⑦専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと内容理解				2H 2H
10回	専門分野ごとの振り返り オムニバス⑧				事前:担当教員⑧専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと内容理解				2H 2H
11回	専門分野ごとの振り返り オムニバス⑨				事前:担当教員⑨専門科目内容理解と予習 事後:授業の振り返りと内容理解				2H 2H
12回	各分野(オムニバス)と外来講話をまとめたフィードバック・学習の振り返りと個々の課題の整理①				事前:製作前の各専門分野振り返りと理解 事後:個々の課題の取り組みへの理解				2H 2H
	※1①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③子ども理解や学級経営に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項、⑤保育に関する現代的課題についての現状分析等に関する事項								

13回	個々の課題の整理②	事前:個々の課題整理、準備と予習 事後:授業の振り返りと解説書の理解	2H 2H
14回	外来講話(保育現場の熟練保育者)※(金・5)大教室	事前:熟練保育士外来講話への理解と予習 事後:外来講話の振り返りと内容理解	2H 2H
15回	個々の課題の発表①・グループによる講評・総合的なまとめ	事前:グループ発表①に向けた準備と予習 事後:グループ発表者作品からの学び復習	2H 2H
16回	個々の課題の発表①・グループによる講評・総合的なまとめ	事前:グループ発表②に向けた準備と予習 事後:グループ発表者作品からの学び復習	2H 2H
1回	全体発表会 ※ 大教室	事後:代表発表者へのメッセージと学びの復習	2H
テキスト	授業の中で適宜資料を配布する。		
参考資料など	【購入を必須としないも】 保育所保育指針・幼稚園教育要領・他、授業の中で適宜提示する。		
授業の評価 方法・基準	評価は課題の提出状況・内容・発表・出席状況、受講態度等に基づき総合的に行う。 課題の提出状況(50%)内容・発表(30%)積極的な受講態度(20%)		
履修条件	保育士資格および幼稚園教諭に関する実習を一つ以上、終了していること。		
関連科目・次のステージ	保育士・幼稚園教諭免許に必要な全科目の振り返りとなるので、復習を丹念にすること。授業で学んだ内容を日常生活で可能な限り実践すること。		
オフィスアワー	授業中に提示する。		
受講生へのメッセージ	日常的に保育に関する情報に関心を持つこと。課題の提出期限を厳守すること。		

科目区分	科目名	ゼミナール	担当者	稲福純夫	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	ナンバリング	資格・免許要件						
授業の到達目標	1 幼児期から学童期の児童の自然体験活動について学び保育現場・教育現場で実践できる。 2 自然や環境について環境学習や環境教育の観点からとらえ環境を意識した取り組みができる。							
授業概要	通年のゼミナールで保育者の資質として自然に対する理解や生命を尊重する態度は不可欠である。ただ自然の中で遊ぶのではなく、子どもたちの心身の発達の点から幼児期や学童期に自然と関わり豊かな感性を育む直接経験の重要性や安全な保育の環境の条件について学ぶ。また、自然体験活動の実践を通して子どもの好奇心や感性について学ぶ。							
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目							
		授業計画			時間外学習		時間	
1回	環境の中における子どもたちの活動と遊びについて学び、沖縄の季節の変化(10月～3月)の自然環境について理解する。子どもフェスタにおける活動について	事前:子どもの遊びの環境について調べる 事後:子どもフェスタの素材を準備する			2時間			
2回	大学周辺の保育ビオトープについて ① キャンパスの中の自然を見つけよう。子どもフェスタに向けて落ち葉遊び・コマ回しのトレーニング	事前:落ち葉遊びで各自で作品を作る 事後:子どもフェスタ会場の確認			2時間			
3回	大学周辺の保育ビオトープについて ① 自然を見つけよう。自然の事物の中から発見する楽しさを学ぶ。子どもフェスタ	事前:子どもの感性を育む保育の研究 事後:子どもフェスタへの活動の準備			2時間			
4回	保育園・幼稚園における園外活動と安全 大学周辺の保育環境 保育ビオトープについて ① 自然を見つけよう	事前:大学周辺の自然に気づき活用できる 事後:各自で保育への展開を書く			2時間			
5回	保育園・幼稚園における園外活動と安全 大学周辺の保育環境 保育ビオトープについて ① 自然を見つけよう	事前:ネイチャーゲームについて調べる 事後:保育におけるビオトープを学ぶ			2時間			
6回	子どもの感性と自然と環境 砂遊び、身近な自然にある木の実や葉っぱなど用いた自然遊び 身近な自然の中で生きものとの触れあう楽しさ・喜びを実感する※	事前:木の実や葉っぱなど用いた自然遊びを計画する。 事後:作品について保育展開を計画する。			2時間			
7回	子どもの感性と自然と環境 身近な自然にある木の実や葉っぱなど用いた自然遊び※	事前:環境と子どもの活動について調べる 事後:子どもの頃の遊びについて調べる			2時間			
8回	子どもの感性と自然と環境 身近な自然にある木の実や葉っぱなど用いた自然遊び	事前:自然物の保育への活用について鑑会える。 事後:自然遊びと安全保育について知る。			2時間			
9回	季節の遊び ネイチャーゲーム 自然発見遊び① コウモリとガ 自然の音探しゲーム	事前:ネイチャーゲーム自然の音と探し 事後:子どもの感性と遊び 聴覚と視覚			2時間			
10回	季節の遊び ネイチャーゲーム 自然発見遊び② 自然の素材をいくつか組み合わせた保育の展開を学ぶ。	事前:ネイチャーゲーム 事後:自然の中の保育の素材研究をする。			2時間			
11回	季節の遊び ネイチャーゲーム 自然発見遊び③ 季節の草花とくっつきむし ロープでの小山登り	事前:自然の中の発見遊び 事後:感性を育む環境について考える。			2時間			
12回	季節の行事と自然遊び ハロウィン・クリスマス②動物・植物に触れた感性を育む遊び 子どもたちの感性を育む保育展開 壁面製作 季節の子ども歌と保育への展開	事前:季節の変化に応じた保育計画作成 事後:グループで話し合い、保育室等の環境構成について計画する。			2時間			
13回	幼児期の自然体験と自然遊び ②動物・植物に触れた感性を育む遊び 子どもたちの感性を育む保育展開 壁面製作	事前:子どもにとって季節の中での触れ合うことの意義について調べる。 事後:保育現場での展開について考える。			2時間			

14回	幼児期の自然体験と自然遊び 感性を育む遊び 子どもたちの感性を育む正月の遊び	事前:冬休み、クリスマスや正月の季節の飾りつけと狙いについて考える。 事後:製作した作品について話し合う。	2時間
15回	前期・後期の活動について振り返り 保育への活用についてコマ回しレベルのチェック	事前:コマ回しレベル3までチャレンジ 事後:これまでの活動を整理する。	2時間
16回	自然体験活動の保育への展開について、これまでの活動で理解し活用できる知識を身につける。	事前:これまでの活動の学びの振り返り 事後:卒業後総合的な保育を目指す。	
テキスト	厚生労働省 こども白書 国民生活白書 食育白書		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 児童憲章 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿		
授業の評価方法・基準	演習体験活動 + 課題レポート+ 活動記録(振り返りシート)+ 活動の発表(プレゼン・子どもフェスタ) 40点 + 20点 + 20点 + 20点 評価の観点:沖縄の季節に応じた主体的な保育と子どもの安全面を配慮した活動ができる 実践できるコマ回しの技能の修得		
履修条件	前期にゼミナールに10回以上参加していること。保育現場での実習から学んだことをもとに、さらに、主体的に学びたい意欲があり、子どもたちへの保育や教育の展開・実践について具体的に計画する学ぶ意欲や興味・関心のある人。原則として保育現場でのこどもたちへの保育活動を体験していること。※茶道体験を通じて自然と人の関わりについて感性を高めたい人。		
関連科目・次のステージ	保育現場で活かせる基礎力を身につけ、さらに卒業後は保育者として学び続ける持続力、時代や社会の変化に対応できる力、知識を修得する。非言語認知から言語認知まで、子どもたちの個に応じた柔軟な保育の専門的基礎力を身につける。		
オフィスアワー	ゼミの前後の時間や作成したゼミの連絡網を通じて個々のゼミ生の活動をサポート。また、研究室前にある伝言ボードに質問・連絡の内容を記入して下さい。		
受講生へのメッセージ	季節ごとの活動の担当者と連絡網を決めます。後期は牧場における自然体験活動や牧場の人たち(ワーキングホリデイ)との交流を通して、非言語や言語を用いて自然の中での意志の疎通について学びます。		

科目区分	専門	科目名	読書ゼミナール	担当者	桃原亮昌	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士選必				
授業の到達目標	「読みの世界を広げる」のテーマのもと、沖縄（郷土）、日本、世界の三領域の絵本教材をグループで実践的に研究し、成果をまとめ発表する。研究したものを小学校や幼稚園で実践し、今後に生かす。また地域教育施設等を視察し図書館教育や読書教育補について学ぶ。								
授業概要	(1) 教材の読みについて、各グループで研究を行う。 (2) 読みの楽しさを学ぶとともに小学校・幼稚園において活動を行い、研究内容を実践的にまとめる。 (3) 公立図書館や公民館等の教育施設等を視察したり、読書教育実践者からの学びを通して研究をまとめる。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	◎	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画				時間外学習		時間	
1回	ゼミ後期の進め方、役割分				事前:ゼミ後期の取り組み方について確認しておく 事後:ゼミのまとめ方を知り具体的に計画をまとめる				
2回	「読書について」理論及び実践的研究				事前:読書について総合的に調べておく 事後:読書の意義を総括的にまとめる				
3回	教育施設等の視察研究①				事前:地域公民館について調べておく 事後:公民館を視察しての学びをまとめる				
4回	子どもフェスタに向けての取り組み				事前:子どもフェスタの企画・運営に取り組む 事後:具体的取り組み方をまとめ推進する				
5回	小学校での授業実践準備				事前:図書の選定と同時にレクやゲーム等についても調べておく 事後:小学校での事前練習をする				
6回	小学校での授業実践				事前:授業実践の流れを確認しておく 事後:小学校で実践しての感想をまとめる				
7回	小学校での授業実践まとめ				事前:小学校実践の反省をまとめておく 事後:小学校実践を終えて成果と課題をまとめ今後を生かす				
8回	教育施設等の視察研究②				事前:諸教育施設について調べておく 事後:視察しての学びを実践的にとめる				
9回	沖女祭に向けての取り組み（中間報告）				事前:沖女祭に向けての研究資料を作成する 事後:理論及び実践的に研究してきたものを具体的にまとめる				
10回	沖女祭中間報告の総括				事前:沖女祭の成果と課題をまとめておく 事後:中間報告でまとめたものを研究資料として今後を生かす				

11回	各グループの研究のまとめ準備	事前：ゼミ全体のまとめの準備をしておく 事後：研究項目に沿ってどのようにまとめるか確認する	
12回	教育施設等の視察研究③	事前：諸教育施設について調べておく 事後：視察しての学びを総合的にまとめる	
13回	各グループの研究のまとめ①	事前：グループ別に研究のまとめをする 事後：分担して実践的にまとめる	
14回	各グループの研究のまとめ②	事前：資料を参考に研究のまとめをする 事後：分担して総合的にまとめる	
15回	各グループの研究発表及び意見交流	事前：実践研究発表の準備をしておく 事後：研究成果と課題を具体的にまとめ報告する	
16回	ゼミ全体のまとめ及び評価	事前：年間のまとめと振り返りをしておく 事後：ゼミ全体で総括的にまとめ評価する	
テキスト	読書教育への招待」国立教育研究所編 東洋館出版社		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 ゼミナールの中で適宜紹介する。		
授業の評価方法・基準	授業実践(10%)、実践記録(10%)、授業態度(10%)、ワークシートまとめ(10%)、実践研究 レポートのまとめ及び発表(60%)で評価。		
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで読み聞かせ等、読書活動に意欲のある。		
関連科目・次のステージ	図書館の本を多く読んでおくこと。 小学校や幼稚園等、学校現場で実践的に生かすことができる。		
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。		
受講生へのメッセージ			

科目区分	専門	科目名	ゼミナール(後半)	担当者	上原健二	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格 選択科目				
授業の到達目標	学生自身が関心のあるテーマを設定することにより、個々の学生がそれぞれの課題意識を明確化できるようになる。設定したテーマに関連する情報を必要に応じて収集・整理しつつ、客観的な情報を活用しながら、自身の主張を明確化し、周囲に対して表現できるようになる。								
授業概要	学生個人またはグループとしてテーマを設定し、情報収集・整理、調査を経て最終的にはゼミナール論文をまとめる。学生一人一人の主体的な取り組みによって、ゼミ生同士で相互に学びあいの場を作り上げる。本ゼミナールでは、主に社会福祉に関連するテーマに基づいてゼミナール活動を展開することとし、学内・学外における活動を積極的に活用しながらテーマに応じた支援の実際を学びつつ、課題の整理につなげていく。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画		時間外学習		時間		
1回			子どもフェスタの打ち合わせ		子どもフェスタにおける役割を確認する。		2H		
2回			子どもフェスタに向けた計画を具体化する。		子どもフェスタで予定するプログラムの準備物を検討する。		2H 2H		
3回			他大学のゼミナールを体験する（他大学と調整中）		テーマに沿った他大学のゼミと調整し、取り組みについて調べる。		2H 2H		
4回			子どもフェスタの準備		子どもフェスタの準備をする。当日の流れを確認する。会場作成を行う。		2H 2H		
5回			子どもフェスタ（本番）		子どもフェスタで実際に子どもたちとかわる。		2H 2H		
6回			子どもフェスタの振り返りと今後に向けた課題の整理		子どもフェスタ終了後に、ゼミナールで行った取り組みについて振り返りを行って、話し合いに備える。		2H 2H		
7回			県内の特定の地域を訪問し、コミュニティについて体験を通して見聞する（調整中）		テーマに沿った地域のコミュニティの取り組みについて調べる。		2H 2H		
8回			各自の研究テーマに向けて取り組む①		各自の研究テーマに沿って調べ学習を行う。		2H 2H		
9回			各自の研究テーマに向けて取り組む②		各自の研究テーマに沿って調べ学習を行う。		2H 2H		
10回			各自の研究テーマに向けて取り組む③		各自の研究テーマに沿って調べ学習を行う。		2H 2H		
11回			研究への取り組み（論文作成）①		研究テーマについてまとめる。		2H 2H		
12回			研究への取り組み（論文作成）②		研究テーマについてまとめる。		2H 2H		
13回			研究への取り組み（論文作成）③		研究テーマについてまとめる。		2H 2H		
14回			研究への取り組み（論文作成）④		研究テーマについてまとめる。		2H 2H		

15回	論文提出（最終）	研究報告書を提出する。	2H 2H
16回	ゼミのまとめ	1年の振り返りを行う。	2H
テキスト	特になし		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 藤田哲也編著『大学基礎講座 改増版～充実した大学生活をおくるために～』北大路書房 2006年 飯田良治他編『課題研究・ゼミナールの手引き』萌文書林 1988年		
授業の評価 方法・基準	ゼミナール論文 60% 小レポート 20% 受講態度 20%		
履修条件	自分自身でテーマを設定し、主体的に取り組むこと。通年科目であるため、前期の受講状況によっては後期の受講の可否に影響があることを踏まえ、積極的に取り組むこと。		
関連科目・次のステージ	前期は施設実習Ⅰを中心とした各種実習、後期は卒業後に向けた2年間のまとめとしての取り組みを意識して取り組む。		
オフィスアワー	金曜日 5時間目		
受講生へのメッセージ	社会で起こっている様々な話題を「社会福祉」のフィルターを通して考えてみましょう。		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール(後期)	担当者	又吉 素	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件				
授業の到達目標	保育・教育の現場で必要とされる教材研究の実践方法を理解し、ICT 機器やデジタルアーカイブ技術を活用した教材開発を行うことができる。また幼少期における英語教育の基礎知識を基に、効果的な英語指導を実践できる。更に、地域の課題を発見し、主体的に他者と協働して課題解決に向けた計画を提案する資質・能力を有している。								
授業概要	前期に引き続き、保育や教育の現場における今日的課題について情報を収集、整理し、課題解決に向けた PBL 型アクティブラーニングを通して専門的な知識・技能を磨きます。またフィールドワークを行いながら、デジタルアーカイブの手法を用いた地域の文化資料の収集・記録・管理・流通・利用の知識・技術を用いた教材開発の実践方法を学びます。特に後期は、個人研究の活動を中心に、実践的なデジタルアーカイブの手法やフィールドワークの調査方法を学びます。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目									
授業計画			時間外学習			時間			
1回	オリエンテーション：授業計画の説明及び個人研究に向けて			事後：個人研究のテーマについて整理する。			(1h)		
2回	実践演習①「子どもフェスタ」：企画検討（ディスカッション）			事前：企画テーマについて検討する。 事後：グループ討議の結果をまとめる。			(1h) (1h)		
3回	実践演習②「子どもフェスタ」：計画立案			事前：必要な情報についてリサーチする。 事後：計画案の見直しを行う。			(1h) (1h)		
4回	実践演習③「子どもフェスタ」：資料収集・作品制作の準備			事前：制作に必要な資料・材料等を確認する。 事後：制作の方法を整理し、道具を準備する。			(1h) (1h)		
5回	実践演習④「子どもフェスタ」：作品の制作			事前：制作の手順をノートにまとめる。 事後：作業の進捗を確認する。			(1h) (1h)		
6回	実践演習⑤「子どもフェスタ」：振り返り（課題の確認）			事前：自身の課題、感想を整理する。 事後：他者の意見、感想を踏まえ、振り返る。			(1h) (1h)		
7回	個人研究① 計画立案（チュートリアル＝個別指導）			事前：個人研究の計画書を作成する。 事後：指摘事項を整理し、修正する。			(1h) (1h)		
8回	個人研究② 計画発表（ディスカッション）			事前：計画発表に向けて資料を準備する。 事後：他者の意見や指摘事項をまとめる。			(1h) (1h)		
9回	個人研究③ 調査研究（チュートリアル）			事前：関連資料（参考文献等）を収集する。 事後：関連資料（参考文献等）を読み込む。			(1h) (1h)		
10回	個人研究④ 作品制作の準備（チュートリアル）			事前：制作に必要な資料・材料等を確認する。 事後：制作の方法を整理し、機器類を確認する。			(1h) (1h)		
11回	個人研究⑤ 作品制作（チュートリアル）			事前：制作の手順をノートにまとめる。 事後：作業の進捗を確認する。			(1h) (1h)		
12回	個人研究⑥ 作品制作の仕上げ（チュートリアル）			事前：作品の加筆修正を行う。 事後：作品の仕上げを確認する。			(1h) (1h)		
13回	個人研究報告会（前半）			事前：研究報告会に向けて発表練習する。 事後：他者の意見、指摘事項を振り返る。			(1h) (1h)		
14回	個人研究報告会（後半）			事前：研究報告会に向けて発表練習する。 事後：他者の意見、指摘事項を振り返る。			(1h) (1h)		
15回	フィールドワーク（デジタルアーカイブ実践）			事前：調査先についてリサーチする。 事後：収集された情報をノートにまとめる。			(1h) (1h)		
16回	ゼミナールの振り返りとまとめ			事前：一年間の活動を振り返り、感想を書く。			(1h)		
テキスト	指定図書なし								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 「デジタルアーカイブ入門」 準デジタルアーキビスト資格テキスト編集委員会（著）2015 NPO 法人日本アーカイブ協会 ¥800、 「地域文化とデジタルアーカイブ」 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所（編）2017 樹村房 ¥2,160 岐阜女子大学が作成した e-learning 教材（沖縄おうらい等）もぜひ参考にして下さい。								
授業の評価方法・基準	① 個人研究 50% ②課題 30% ③発表・態度 20% で評価する。								
履修条件	ゼミナールは通年科目なので、後期も受講することが条件です。 ※ 受入れ受講者数は 10 名程度を予定								
関連科目・次のステージ	保育・教育分野に関連する英語教材開発をテーマとした研究ゼミです。フィールドワーク等のアクティブラーニングを通して、地域社会の課題発見、解決に向けた実践的な専門知識・技能の習得を目指します。 関連科目：「英語 I・II」、「外国語コミュニケーション」、「教育機器演習」、「外国語活動指導法」、「児童文化財」等								
オフィスアワー	金曜日 3 講目以降（13:00～17:50）								
受講生へのメッセージ	ゼミナールは少人数での授業形態となりますが、特にグループワーク活動を中心として、協働しながら学びあう機会となります。協調性はもちろん、積極的に関わろうとする主体性が求められます。特に後期は 2 年間の学びの集大成として、個人研究及び研究報告会があります。本当にやりたいことを見つけ、夢中になって取り組んで下さい。								

科目区分	専門	科目名	ゼミナール	担当者	新垣 さき	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士選必			
授業の到達目標	本ゼミナールでは、教育機器を活用し教材作成する力、実践力、問題解決力を習得する。								
授業概要	幼稚園教育要領、新学習指導要領、沖縄県の教育等から教師としてどのような力が求められているかを考え、ゼミナール後期には各自テーマを決め、教育機器（デジタルカメラ、ビデオカメラ、録音機、iPad、パソコン等）やスマホアプリを活用し教材作成を行う。テーマの設定、調査の準備、調査方法の検討、実践、分析方法、実践方法等について、講義、ディスカッション、演習、フィールドワーク等を通し問題解決する力を身に付け、実践力を習得する。 ※実施の日程調整によりシラバスで提示した実施回に変更が生じる可能性もある。（前期・後期で3回実施予定）								
ディプロマポリシー（DP）と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input checked="" type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。 <input checked="" type="radio"/> =DP 達成の為に特に重要な項目 <input type="radio"/> =DP 達成の為に重要な項目 <input type="radio"/> =DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画			時間外学習		時間	
1回			子どもフェスタに向けて①			事前：子どもフェスタに向けてのテーマを考える。		0.5h	
2回			子どもフェスタに向けて②			事前：子どもフェスタに向けて資料収集および材料収集をする。		0.5h	
3回			子どもフェスタに向けて③			事後：課題点を見つけ、次回に向けての目標設定を行う。		0.5h	
4回			子どもフェスタに向けて④						
5回			子どもフェスタ振り返り 研究テーマの計画書作成①			事前：子どもフェスタの振り返りシートを記入する。 事後：研究テーマの資料収集		0.5h 0.5h	
6回			研究テーマの計画書作成② 調査方法について			事前：研究テーマの資料収集 事後：計画の見直し		0.5h 0.5h	
7回			個研究テーマ資料収集①			事前：資料収集 事後：必要な資料の見直し、作成		0.5h 0.5h	
8回			研究テーマ資料収集② 中間報告会に向けて資料作成			事前：資料収集 事後：必要な資料の見直し、作成		0.5h 0.5h	
9回			研究テーマ資料収集③ 中間報告会に向けて資料作成			事前：資料収集 事後：必要な資料の見直し、作成		0.5h 0.5h	
10回			中間報告会			事前：資料作成 事後：今後の計画の見直し		0.5h 0.5h	
11回			教材作成① 沖縄の工芸に触れる（与那原町赤瓦コースター製作体験）			事前：教材作成の計画 事後：教材の収集、作成		0.5h 0.5h	
12回			教材作成②			事前：教材作成の計画見直し 事後：教材の収集、作成		各0.5h 各0.5h	
13回			教材作成③						
14回			教材作成④			事前：教材の収集、作成（0.5h） 事後：最終発表に向けて整理（0.5）		0.5h 0.5h	
15回			教材発表			事前：最終発表に向けて準備（0.5h） 事後：最終提出に向けて手直し（0.5h）		0.5h 0.5h	
16回			後期まとめ						
テキスト	幼稚園教育要領解説、小学校学習指導要領解説								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 デジタルアーカイブ入門/編集・監修 後藤忠彦、地域文化とデジタルアーカイブ/樹村房 プログラミング教育導入の前に知っておきたい思考のアイデア/教育技術MOOK 等 教材作成の際には岐阜女子大学との共同開発教材を参考にする。								
授業の評価方法・基準	① 個人研究 50% ② 作品 25% ③ 発表・態度 25% で評価する。								
履修条件	ゼミナールは前期も受講していることが条件です。								
関連科目・次のステージ	課題解決型の学習を通し、自ら課題を見つけ、計画・実施・振り返りができる力を身に付ける。								
オフィスアワー	月曜日の2講目								
受講生へのメッセージ	ゼミナールはみなさんが主体です。各自課題を持って積極的に学びましょう。資料の収集や選択は時間がかかります。なるべく事前に個人研究テーマの資料収集はしておきましょう。								

科目区分	専門	科目名	ゼミナール(後期)	担当者	柳生 崇志	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件		保育士資格選択			
授業の到達目標	複数の保育現場を体験しながら地域の保育・教育に関する諸問題を考究することより、現場・地域が求める保育のあり方および保育者像について学び、自身の保育者としての基盤を構築する。保育者としての自分自身や地域貢献としての保育について自ら問題点を整理する力、およびそこから導き出される具体的で実現可能な改善策を提案する力を身につける。								
授業概要	地域における保育者の役割についてさまざまな角度から実践的に研究する。テーマの選定、問題設定、実験や調査、結果分析、成果の公表など一連の研究の過程を学びながら実践する。研究遂行に必要な予備的知識の獲得や研究方法などについては適宜講義による学習も含むが、基本的にはディスカッションやフィールドワークなどの能動的・体験的な学びが主である。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/> ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける <input checked="" type="radio"/> ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目, ○=DP 達成の為に重要な項目, △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	前期活動の振り返り、後期の学習・論文執筆計画の策定				事前：前期活動を自己評価する 事後：個人の活動計画を作成する			2h 2h	
2回	リサーチ・ミーティング(個別)；研究方法① 第1グループ、子どもフェスタ準備				第2回～第16回 (通常時；当該授業の前回および当日に とくに指示のない時)			2h	
3回	リサーチ・ミーティング(個別)；研究方法② 第2グループ、子どもフェスタ準備				事前：個人研究を進めるのに必要な調査(主に文献調査)や、ミーティング(発表)の準備をする				
4回	リサーチ・ミーティング(個別)；研究方法③ 第3グループ				事後：授業で得た知識や意見を参考に して自らの研究方法や考察を修正する			2h	
5回	調査準備① 調査項目、手続き								
6回	調査準備② 材料				* その他、授業内容・進行に応じて、 ディスカッションの準備や課題(小レポート や資料作成等)への取り組みを授業内 で適宜指示する。			2h	
7回	中間報告								
8回	フィールドワーク① 調査 【ゼミ合宿第2回】				* フィールドワークは合宿形式ある いは集中演習形式等、状況により計画・ 実行する。				
9回	フィールドワーク② 分析 【ゼミ合宿第2回】								
10回	ゼミ論文執筆 個別指導・グループ討議 ① 第1グループ								
11回	ゼミ論文執筆 個別指導・グループ討議 ② 第2グループ								
12回	ゼミ論文執筆 個別指導・グループ討議 ③ 第3グループ								
13回	ゼミ論文提出								
14回	発表会①								
15回	発表会②								
16回	講評・振り返り								
テキスト	使用しません。必要に応じてプリントを配布します。								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 木下是雄 『理科系の作文技術』 中公新書 無藤隆・安藤智子 『子育て支援の心理学—家庭・園・地域で育てる』 有斐閣								
授業の評価方法・基準	総合評価 = ゼミ論文(年度末に提出,40%) + 受講態度(フィールドワーク含む,40%)+ 中間報告(複数回,20%)								
履修条件	主体的に考え行動することができる学生であること。								
関連科目・次のステージ	ゼミナールという授業の性質上、講義時間外の自主的な学習が不可欠です。進行によってどのような学習が必要かはその都度教示しますが、継続的に幅広い文献に触れることを心がけてください。								
オフィスアワー	水曜午前。その他の時間は教場にて案内します								
受講生へのメッセージ	“Heaven helps those who help themselves.” E-mail: yagyu@owjc.ac.jp 柳生研究室：5階 5番研究室								

科目区分	専門	科目名	ゼミナール(後半)	担当者	羽地知香	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件		ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格選択科目				
授業の到達目標	保育者・教育者としての専門的知識と技術を取得し、遊びの重要性を理解する								
授業概要	保育士資格取得のための選択科目であるゼミナールを通し、保育者としての専門的知識と技術、子どもへの対応などを深めていく。また、地域の社会資源を活用し、より実践的な演習を重ねていくことも重視する。ゼミナールの仲間と共に主体的に課題を見つけ、そこに取り組みまとめる力とプレゼン力を身に付けて、保育現場で活躍できる力を身に付ける。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
		授業計画			時間外学習			時間	
1回	こどもフェスタについて				事前:前年度のこどもフェスタの確認 事後:こどもフェスタの計画	0.5 0.5			
2回	障がい児はいくの環境とあそびについてまとめる				事前:前期のゼミでまとめを復習する 事後:学習のまとめ	0.5 0.5			
3回	こどもフェスタについて計画を立てる				事前:こどもフェスタの計画 事後:こどもフェスタの準備	0.5 0.5			
4回	こどもフェスタの準備				事前:こどもフェスタの準備 事後:こどもフェスタの準備	0.5 0.5			
5回	こどもフェスタ				事前:こどもフェスタの準備 事後:こどもフェスタの振り返り	0.5 0.5			
6回	実習での学んだことをまとめ、振り返る				事前:実習での課題をまとめる 事後:課題と解決方法をまとめる	0.5 0.5			
7回	障がい児の視点から沖縄の植物や文化財を知る(首里城見学)				事前:図書館で沖縄の植物を調べる 事後:福祉的な視点を持ってフィールドワークをまとめる	0.5 0.5			
8回	沖女祭について				事前:沖女祭の準備と確認 事後:	0.5 0.5			
9回	障がい児保育の視点から体を使った遊びを体験する(フィールドワーク)				事前:障がい児の体を使った運動遊びを調べる 事後:学習をまとめる	0.5 0.5			
10回	障がい児保育の視点から体を使った遊びを体験する(外部講師)				事前:障がい児の体を使った遊びを調べる 事後:学習をまとめる	0.5 0.5			
11回	障がい児保育の実際を学ぶ(保育所での発達支援保育の現状を学ぶ)				事前:発達支援保育の現状を調べる 事後:学習をまとめる	0.5 0.5			
12回	障がい児保育の実際を学ぶ(聴覚障害者との交流)				事前:聴覚障害についてしらべる。手話を1つ覚えておく 事後:学習をまとめる	0.5 0.5			
13回	ゼミナールを通しての学びを踏まえて研究テーマに取り組む1				事前・事後:研究テーマについてまとめる	0.5 0.5			
14回	ゼミナールを通しての学びを踏まえて研究テーマに取り組む2				事前・事後:研究テーマについてまとめる	0.5 0.5			
15回	ゼミナールを通しての学びを踏まえて研究テーマに取り組む3				事前・事後:研究テーマについてまとめる	0.5 0.5			

16回	ゼミナールを通しての学びを踏まえて研究テーマに取り組む④	事前・事後:研究テーマについてまとめる	0.5 0.5
テキスト	白石正久「子どものねがい子どものなやみ」くりえいつかもがわ		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 適宜必要に応じて配布する		
授業の評価 方法・基準	総合評価＝参加の状況(50%)学外研修のまとめ(30%)まとめ学習のレポート(20%)		
履修条件	障がい児への支援について学ぶ意欲を持ち参加すること。ゼミナールには主体的に参加する事		
関連科目・次のス テージ	障がい児保育 との関連性を持ちながら障がいの特性を踏まえて沖縄県の障がい児保育への理解を深める		
オフィスアワー	授業後		
受講生へのメッセ ージ	障がいを持っている子ども達の理解を深めることで、保育者としての総合的な力をつけることが出来ます。実践的な内容で、楽しく学びを深めていきましょう。		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール (後半)	担当者	小波津 美奈子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格選択必修				
授業の到達目標	①ゼミナールのテーマ音楽・表現について積極的に興味・関心をもち、自ら進んで学習し実践への意欲を高め理解することが出来る。 ②他クラスの学生との有意義なディスカッションを通して、コミュニケーション能力を高め身に付けることが出来る。								
授業概要	前期ゼミナールのテーマを基礎にしながら、様々な素材（各実習のふりかえり、新聞記事、論文、フィールドワーク等）を基にグループワークを行い、自己覚知につなげる。さらに、個別の関心に基づいた調査・研究・発表・制作等を行い、専門職業人としての資質をより深めて行く。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける ◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ◎ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 ◎ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画			時間外学習			時間		
1回	後期オリエンテーション 前期ゼミナールの振り返りと後期テーマ説明 及び子どもフェスタの説明			事後:オリエンテーション内容の理解と復習			1H		
2回	各実習（保育所・施設・児童館・幼稚園実習）を振り返る 子どもフェスタへのゼミとしての取り組みについて			事前:各実習の資料と共に振り返る 事後:ゼミの振り返りと子どもフェスタ準備			1H 1H		
3回	実習から見出した課題 子どもフェスタへの準備			事前:各実習における幼児の姿を探る 事後:子どもと音楽表現の視点でフェスタ準備			1H 1H		
4回	子どもフェスタへ取り組む①			事前:子どもと音楽表現の視点でフェスタ準備 事後:チャイルドウォッチングと親子の姿			1H 1H		
5回	子どもフェスタへ取り組む②			事前:子どもと音楽表現の視点でフェスタ参加 事後:親子との関わりから得たことをまとめる			1H 1H		
6回	子どもフェスタの振り返り			事前:子どもフェスタからの見出したこと 事後:ゼミ振り返りと自己課題と向き合う			1H 1H		
7回	就職を念頭に保育園へのフィールドワーク			事前:園環境と保育園児の姿を探る 事後:幼児理解と音楽技術の振り返り			1H 1H		
8回	就職を念頭に幼稚園へのフィールドワーク			事前:園環境と幼稚園児の姿を探る 事後:幼児理解と音楽技術の振り返り			1H 1H		
9回	各施設の振り返りと共通理解			事前:フィールドワークの振り返り 事後:共通理解後の自己の取り組み			1H 1H		
10回	学内発表へ向けた取り組み			事前:学内発表に向けたリサーチ 事後:ゼミの振り返りと音楽技術練習			1H 1H		
11回	学内発表			事前:演奏への理解と練習 事後:ゼミ振り返り			1H 1H		
12回	学内発表振り返りと最終課題に向けての計画と取り組み			事前:自己課題と自分の姿を探る 事後:ゼミ振り返りと自己課題の取り組み			1H 1H		
13回	最終課題に向けての計画発表と検討討論			事前:最終課題準備 事後:ゼミ振り返りと自己課題の取り組み			1H 1H		
14回	自然体験と音楽表現の結びつきを探る①			事前:自然と音楽表現の対話準備 事後:ゼミ振り返りと自己課題の取り組み			1H 1H		

15回	自然体験と音楽表現の結びつきを探る②	事前:参加と体験と人との繋がりについて 事後:ゼミ振り返りと自己課題の取り組み	1H 1H
16回	まとめ		1H 1H
テキスト	特に指定しない		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 授業に関連する新聞・雑誌等を参考とする		
授業の評価 方法・基準	グループワークへの参加度、個々の学生の「テーマ設定」から「まとめ」に至る作業の進捗状況 30%・積極的な学習態度 30%、学習成果 40%により評価する。		
履修条件	研究テーマに向かい積極的に日々向上心を持って関わろうとするもの		
関連科目・次のス テージ	研究テーマに向かい技術の向上・獲得、及び課題について主体的に学ぶ。各実習を終え自己課題の発見と後期ゼミナールと全専任教員が関わる「保育・教職実践演習」からの学びから就職活動、就職へと繋げる。		
オフィスアワー	水曜日Ⅱ・Ⅳ 金曜日Ⅱ・Ⅲ		
受講生へのメッセ ージ	常に感性に触れる機会を持ち、心豊かに沖縄の自然に敏感であれ！		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール (後期)	担当者	喜屋武 享	授業形態	演習	単位数	2 (通年)
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件	保育士資格選択必修			
授業の到達目標	1. 子どもの身体活動・運動の重要性を理解することができる。 2. 子どもの身体活動量の測定方法を理解し、正確に測定することができる。 3. 子どもの体力・運動能力の測定方法を理解し、正確に測定することができる。 4. 子どもの運動遊びを開発・実践することができる。 5. 学術研究論文を執筆することができる。								
授業概要	本ゼミナールでは、運動遊びをグループごとに開発・実践することを中心とする。自分が理解、経験した運動あそびをどう他人にわかりやすく伝え、楽しく展開するかを学び、学外活動・実習その他を通して実践する。加えて、子どもの活動状況や体力・運動能力を世界基準の測定方法で客観的に測定する方法を学ぶ。最終課題は、学術研究論文の執筆。								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<input type="radio"/> ①郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。 <input checked="" type="radio"/> ②保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 <input type="radio"/> ③社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。 <input type="radio"/> ④社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。 ◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	後期開始の決起会				特になし				
2回	子どもフェスタ準備 その1				事前・事後：子どもフェスタに向けた準備			6時間	
3回	子どもフェスタ準備 その2								
4回	子どもフェスタ準備 その3								
5回	子どもフェスタの振り返り				事前：子どもフェスタの振り返り（レポート課題[各自]）。			1.5時間	
6回	複合遊具を使った運動遊びの開発・実践[学外演習]				事後：複合遊具を使った遊びの指導案[各自課題]。			2時間	
7回	事前：学外演習に向けての事前学習（施設状況の確認等）。								
8回									
9回	子どもの身体活動量、体力・運動能力、認知機能についての論文抄読会・プレゼン I 【グループ課題 3名 1組】				事前：論文の抄読、プレゼンの作成。 事後：発表内容の振り返り。			2時間 1時間	
10回	子どもの身体活動量、体力・運動能力、認知機能についての論文抄読会・プレゼン II				事前：論文の抄読、プレゼンの作成。 事後：発表内容の振り返り。			2時間 1時間	
11回	子どもの身体活動量、体力・運動能力、認知機能についての論文抄読会・プレゼン III				事前：論文の抄読、プレゼンの作成。 事後：発表内容の振り返り。			2時間 1時間	
12回	子どもの身体活動量、体力・運動能力、認知機能についての論文執筆				事前・事後：論文執筆。			9時間	
13回	【グループ課題】								
14回									
15回	他大学との意見交換会				事前：プレゼン資料の作成。 事後：振り返りレポート			2.5時間	
16回	全講義の振り返り				特になし				
テキスト	特に指定しない								
参考資料など	【購入を必須としないもの】 日本発達障害学会編著（2014年 第1版第1刷）『幼児期運動指針実践ガイド』杏林書院								
授業の評価方法・基準	子どもフェスタへの参加態度：10% 子どもフェスタの振り返りレポート：20% 執筆論文 40% プレゼンテーション 30%								
履修条件	運動着を着用し、体育館シューズを履くこと。 PC操作、統計解析を理解できること、英語が読めることが望ましい。 大学が実施する「定期健康診断」を受診していること。 学生教育研究災害障害保険等に加入していることが望ましい。								

関連科目・次のステージ	「保育内容 健康」「子どもの保健」「健康・運動実技」「健康と運動の科学」 生涯に渡って運動やスポーツに親しみを持ち、日常生活の中に運動を取り入れてほしい。
オフィスアワー	水曜日 3 限、金曜日 2 限
受講生へのメッセージ	各種測定は、ある研究の一環です。気を抜くことは許されません。向上心をもって望んでください。 医師より運動制限をされている学生は事前に申し出てください。

科目区分	専門	科目名	子育て支援	担当者	砂川 麻世	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	ナンバリング		資格・免許要件	保育士資格必修				
授業の到達目標	保育士の行う保育の専門性を基にした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等支援について、その特性と展開を具体的に理解し、他者に説明できるようになる。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場面や対象を想定して、支援の内容及び方法について、実践事例を通して具体的に理解し、子育て支援の基本的な姿勢を身につける。								
授業概要	2108（平成30）年より適応された改定保育所保育士指針の改定の要点、改定までの経緯を踏まえて、新設された「子育ての支援」のポイントを確認し、保育士に求められる子育て支援の対象、役割、具体的な実践について、グループワークを中心に体験的に学びを深める。								
ディプロマポリシー（DP）と授業の対応	△	① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける							
	◎	② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。							
	◎	③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。							
	◎	④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。							
	◎＝DP達成の為に特に重要な項目 ○＝DP達成の為に重要な項目 △＝DP達成の為に望ましい項目								
	授業計画				時間外学習			時間	
1回	・オリエンテーション ・保育士の行う子育て支援に求められること				事後：保育所保育指針の改定のポイント及び第4章「子育ての支援」について確認する			0.5H	
2回	保育士の行う子育て支援の特徴 (1) 子どもの保育とともにを行う保護者の支援				事前：保育士の行う子育て支援の根拠法等を確認する			0.5H	
					事後：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する			0.5H	
3回	(2) 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成				事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する			0.5H	
					事後：保護者との信頼関係を築く上で、自分自身の課題を考える			0.5H	
4回	(3) 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解				事前：ニーズの意味を調べてまとめる			0.5H	
					事後：関連するテキストの内容を確認し、課題を整理する			0.5H	
5回	(4) 子どもや保護者が多様な他者と関わる機会と場の提供				事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する			0.5H	
					事後：子どもや保護者と他者の交流の機会について実際の事例を調べる			0.5H	
6回	子育て支援の展開 (1) 子どもや保護者の状況・状態の把握				事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する			0.5H	
					事後：子どもや保護者の状況等を把握するための自分自身の課題を整理する			0.5H	
7回	(2) 支援計画と環境構成				事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する			0.5H	
					事後：支援計画や環境を構成する上での自分自身の課題を整理する			0.5H	
8回	(3) 支援の実践・記録・評価・カウンセリング (4) 職員の連携・協働				事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する			0.5H	
					事後：授業を通して自分自身の課題を整理する			0.5H	
9回	(5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働				事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する			0.5H	
					事後：授業を通して自分自身の課題を整理する			0.5H	
10回	3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） (1) 保育所等における支援				事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する			0.5H	
					事後：授業を通して自分自身の課題を整理する			0.5H	

11回	(2) 地域の子育て家庭に対する支援 (3) 障がいのある子ども及びその家庭に対する支援	事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する 事後：授業を通して自分自身の課題を整理する	0.5H 0.5H
12回	(4) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 (5) 子どもの虐待予防と対応	事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する 事後：授業を通して自分自身の課題を整理する	0.5H 0.5H
13回	(6) 要保護児童等の家庭に対する支援 (7) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	事前：関連するテキストの内容を確認し、質問内容を整理する 事後：授業を通して自分自身の課題を整理する	0.5H 0.5H
14回	全体の振り返り	事前：13回までを振り返り、質問内容を整理する 事後：ノートやプリントを整理する	0.5H 0.5H
15回	試験	事前：ノートやプリント、テキストを振り返る	1H
16回	試験の解答と振り返り	事前：子育て支援に関する内容を振り返り、質問内容を整理する	1H
テキスト	新 保育士養成講座編纂委員会『新・保育士養成講座 子育て支援』（各年版）全国社会福祉協議会（※予定）		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 改正保育所保育指針解説書、その他授業中に適宜提示する。		
授業の評価方法・基準	ロールプレイ、グループワークへの参加度 40%、定期テスト 40%、プリント課題 20%		
履修条件	日常的に福祉・保育（子育て支援等）に関する情報に関心をもつこと。		
関連科目・次のステージ	関連科目は「社会福祉」「子ども家庭福祉」等で、これが2年生で履修する「子ども家庭支援論」や「子ども家庭支援の心理学」等につなげる。		
オフィスアワー	(火) (水) 午前、(木)1校目等の会議等のない時間に設定します。できるだけ、事前に予約をしてください。		
受講生へのメッセージ	本演習で学んだ成果を生かし、日常生活や実習等でのコミュニケーションの充実に向けて取り組んでください。また、みなさんが保育者の子育て支援について主体的に考え、実践することができるような授業を共に作っていきましょう。		

17回	保育所、児童館、幼稚園実習の振り返り	事前: 事後:フェスタ準備作業	1時間
18回	子どもフェスタ準備②	事前: 事後:フェスタ準備作業	1時間
19回	子どもフェスタ実施	事前: 事後:フェスタ報告書作成	1時間
20回	大学祭準備① アイロンビーズ制作	事前: 事後:大学祭準備作業	1時間
21回	大学祭準備② ブラバン制作・バルーンアート制作	事前: 事後:大学祭準備作業	1時間
22回	大学祭準備③ 会場(作品展示)設営	事前: 事後:大学祭準備作業	3時間
23回	大学祭参加 1日目	事前: 事後:大学祭参加	3時間
24回	大学祭参加 2日目	事前: 事後:大学祭参加	3時間
25回	七宝焼き①	事前: 事後:大学祭報告書作成	1時間
26回	七宝焼き②	事前: 事後:	
27回	万華鏡制作①	事前: 事後:	
28回	万華鏡制作②	事前: 事後:	
29回	自主制作①	事前: 事後:	
30回	自主制作②	事前: 事後:	
31回	自主制作発表及びまとめ	事前: 事後:	
テキスト	特になし		
参考資料など	【購入を必須としないもの】 保育園・幼稚園の「造形遊び」(成美堂出版)「こどもの造形」(ひかりのくに)		
授業の評価方法・基準	部分責任実習指導案(保育所・幼稚園・児童館)の作成及び実践報告50%、制作提出物20%、大学祭ゼミナール活動20%、受講態度10%、を持って総合的に評価する。		
履修条件	児童教育学科2年次、教科専門図工及び保育の表現技術図工の単位を取得した学生。		
関連科目・次のステージ	特になし		
オフィスアワー	月曜日 4~5校時、金曜日 2~5校時、プレイルーム又は研究室 18番(5階)		
受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所実習、幼稚園実習、児童館実習において、部分責任実習(造形制作)に取り組める受講生を希望します。 ・子どもフェスタ、大学祭ゼミ活動に参加できる受講生を希望します。 ・自らの「感性」を発揮して制作に取り組み、表現する楽しさや面白さを見つけてください。 ・進度によって、授業内容を変更する場合があります 		

科目区分	専門	科目名	ゼミナール	担当者	玉城哲人	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	ナンバリング			資格・免許要件				
授業の到達目標	保育の現場で、子ども達の「豊かな感性」を大切にしたい造形活動の実践ができることを到達目標とする。								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所、幼稚園、児童館での責任実習に活かせる技術演習を行う。 ・ 演習を通して、乳児及び幼児の発達や特性を学ぶ。 ・ 自主制作をすることで、表現する楽しさや面白さを体得し、自身の豊かな感性を磨く。 								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎ ① 郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける								
	◎ ② 保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
	○ ③ 社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
	○ ④ 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力身につける。								
	◎=DP 達成の為に特に重要な項目 ○=DP 達成の為に重要な項目 △=DP 達成の為に望ましい項目								
			授業計画	時間外学習	時間				
1回	オリエンテーション：ゼミナールの内容説明、受講心得、評価の方法			事前： 事後：配布資料の読み返し	0.5時間				
2回	造形活動の基本：準備と計画、活動の導入、活動での関わり方、活動の終え方			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
3回	乳児・幼児期の年間造形活動カリキュラムについて			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
4回	[0～2歳児]乳児期の生活と造形（外遊び・室内遊び）			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
5回	[3歳児]様々な素材の道具との出会い（演習1）			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
6回	[3歳児]素材や遊具で繰り返して遊ぶ（演習2）			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
7回	[4歳児]素材や道具を操り遊ぶ（演習3）			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
8回	[4歳児]意識して工夫を楽しむ（演習4）			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
9回	[5歳児]目的を持って表現に取り組む活動（演習5）			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
10回	[5歳児]それぞれの思いを表現し合う活動（演習6）			事前：配布資料の予習 事後：配布資料の読み返し	0.5時間 0.5時間				
11回	バルンアートの技能の習得（演習7）			事前： 事後：					
12回	部分責任実習指導案の題材収集			事前： 事後：題材収集	1時間				
13回	部分責任実習指導案の作成①			事前：配布資料の予習 事後：指導案の作成	0.5時間 0.5時間				
14回	部分責任実習指導案の作成②			事前：配布資料の予習 事後：指導案の作成	0.5時間 0.5時間				
15回	実習へ向けての準備			事前： 事後：実習準備	1時間				
16回	子どもフェスタ準備①			事前： 事後：実習の振り返り報告書作成	1時間				